

甲府城下町遺跡 I

— 北口二丁目（桜シルク跡）発掘調査報告書 —

2001

桜シルク工業株式会社

甲府市教育委員会

序

都市「甲府」の発展は、今から遡ること482年前の大永16年に、武田信虎が相川扇状地の躑躅ヶ崎の地に新たな館を築いたことに始まります。甲府の地名は「甲斐の府中（首都）」を表すもので、文字どおり甲斐国の中核として成長してまいりました。

武田氏が滅亡した16世紀の末は中世から近世への一大転換期であり、東国支配の重要拠点となった甲府では、壮大な石垣をめぐらせた甲府城の築城工事が豊臣秀吉の側近大名によって進められ、今日に継承されるみごとな都市プランのもとに大規模な城下町も整備されました。江戸時代260年間は江戸城防衛の要衝であり、徳川一門、統いて柳沢家、甲府勤番支配が甲府に配置され、明治維新以降は県都として発展を続けております。

本書は甲府駅北口の土地開発計画区域内における発掘報告書でございますが、平成11年度に実施した調査では武田氏の時代から現代にかけての遺構・遺物が発見され、中世城下町に始まり近世・近代都市へと発展したこの地の歴史的変遷過程を明らかにすることができました。取り分け、大量に出土した近世の陶磁器は、甲府城下町における生活実態を解明する上で欠かせない資料であり、北九州など遠隔地の陶磁器生産地との物流を調べる上でも非常に重要なものとなっております。

本書の刊行により甲府城下町の研究が一層深化するものと自負するところでございますが、こうした調査・研究の成果が広く市民一般の地域学習に活かされ、21世紀のまちづくりに大いに活用されることを願ってやみません。

末筆となりましたが、調査にあたり御理解と多大なる御協力をいただきました桜シルク工業株式会社及び関係者各位に、衷心より御礼申し上げます。

平成13年3月

甲府市教育委員会
教育長 金 丸 晃

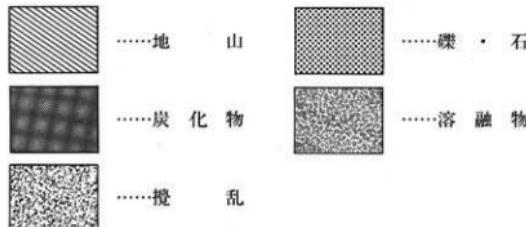
例　　言

1. 本書は、甲府城下町遺跡のうち、山梨県甲府市北口二丁目1番7号ほかに所在する「甲府城下町遺跡（桜シルク跡）」の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、桜シルク工業株式会社と甲府市教育委員会との協議に基づき、発掘調査に関わる契約を締結して実施した。
3. 調査期間は、試掘調査を平成11年2月10日から4月12日まで実施し、本調査を同年5月12日から8月13日まで行った。さらに追加調査を、同年9月28日から10月6日まで実施し、引き続き整理作業を行った。
4. 試掘調査は平塚洋一（文化財主事）、本調査は志村憲一（文化財主事）・早川さやか（調査員）が担当した。
5. 本書の編集・執筆は、市瀬文彬文化芸術課長を編集責任者とし、志村憲一が行った。
なお、志村の指示のもと、遺物観察表は鈴木由香、ピット一覧表は望月秀和が作成した。
6. 木製品・金属製品等の保存処理については、財團法人帝京大学山梨文化財研究所の畠大介氏に御協力をいただいた。
7. 遺構全体図・航空写真に関しては、株式会社シン技術コンサルと写真測量の委託契約を行い、その図面を基本として本書に掲載した。
8. 本報告書執筆にあたり、甲府の製糸産業と丸茂製糸場について、丸茂製糸場設立者の御子孫である丸茂喬平氏より多々御教示をいただいた。
9. 本書の挿図は、飯室久美恵・長田由美子・小林明美・鈴木由香・関本芳子・高添美智子・塙原澄子・林久美子・望月貴美子・望月秀和・志村憲一が作成した。
10. 本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
11. 報告書の作成にあたって、多くの方々から御指導と御協力をいただいた。
井尻工業株式会社、小野正敏、河西学、時枝務、橋口定志、成田涼子、畠大介、堀内秀樹、宮里学、水本和美、宮久保真紀、望月郁也（順不同・敬称略）
12. 発掘調査に際しては、次の一般参加者に御協力をいただいた。
荒木昭彦、飯室久美恵、岡悦子、小沢菊太郎、小沢四郎、金井いく代、川口格一、岸本美苗、栗田宏一、小林明美、小宮通子、佐田金子、佐田昇、清水公子、木本義光、鈴木正文、高添美智子、高添陽平、武井美知子、武井裕太、塙原澄子、花曲敬子、根岸利昭、平原司、本道歌子、本道政清、三上和子、望月宏美、望月貴美子、山田利三、三浦正廣、渡辺茂（順不同・敬称略）

凡　　例

本書に掲載した遺構図・遺物実測図は以下のとおりである。

1. 遺構・遺物番号は、各調査区単位で通し番号とした。
2. 全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。
3. 遺構断面図中のレベルポイントに付した数字は、標高を表す。
4. 採図中のE・W・S・Nは、東・西・南・北を表す。
5. 遺物観察表中の色調は「標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997後期)に基づいて記載した。
6. 実測図内のスクリートーン指示は以下のとおりであるが、部分的に指示を個々の図面上に表示したものもある。



目 次

序
例
凡
日
言
例
次

第 1 章 調査の経緯と概要	
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査方法	1
第 2 章 地理的・歴史的環境	
第 1 節 地理的環境	4
第 2 節 歴史的環境	4
第 3 節 調査の概観	5
第 3 章 A区発掘調査の成果	
第 1 節 造構概観	6
第 2 節 基本層序	6
第 3 節 造構と遺物	6
(1) 溝	6
(2) 井	15
(3) 掘立柱建物跡	18
(4) 墓	20
(5) 坑	22
(6) ピット	30
(7) その他	30
(8) 遺物観察表	30
第 4 章 B区発掘調査の成果	
第 1 節 造構概観	76
第 2 節 基本層序	76
第 3 節 造構と遺物	76
(1) 二の堀	76
(2) 土壘	79
(3) 溝	79
(4) 井	80
(5) 坑	80
(6) ピット	80
(7) 遺物観察表	80
第 4 節 試掘調査トレンチ	80
(1) 溝	84
(2) 集石造構	84
第 5 章 ま と め	
第 1 節 古代	89
第 2 節 中世	89
第 3 節 近世	89
第 4 節 近代	92

表 目 次

表 1 A区ピット観察表①.....	32
表 2 A区ピット観察表②.....	33
表 3 A区ピット観察表③.....	34
表 4 A区ピット観察表④.....	35
表 5 A区ピット観察表⑤.....	36
表 6 A区ピット観察表⑥.....	37
表 7 A区遺物観察表①.....	38
表 8 A区遺物観察表②.....	39
表 9 A区遺物観察表③.....	40
表10 A区遺物観察表④.....	41
表11 A区遺物観察表⑤.....	42
表12 A区遺物観察表⑥.....	43
表13 A区遺物観察表⑦.....	44
表14 A区遺物観察表⑧.....	45
表15 A区遺物観察表⑨.....	46
表16 A区遺物・B区近代遺物観察表⑩.....	47
表17 A区出土金属製品観察表.....	48
表18 A区出土錢貨観察表.....	48
表19 B区ピット観察表.....	55
表20 B区遺物観察表.....	56

図 版 目 次

図 1 甲府城跡・甲府城下町遺跡主要調査地点.....	2
図 2 調査区配置図.....	3
図 3 調査区グリッド図.....	3
図 4 A区基本土層.....	3
図 5 A区 1号溝西側平面図・西壁セクション.....	8
図 6 A区 1号溝東側平面図・側面図・セクション.....	9
図 7 A区 2号・3号・9号溝平面図・側面図・セクション.....	11
図 8 A区 7号溝平面図・セクション・石積側面図.....	12
図 9 A区井戸平面図・エレベーション.....	16
図10 A区井戸平面図・セクション・エレベーション.....	17
図11 A区掘立柱建物跡平面図・エレベーション.....	19
図12 A区埋垣1~13平面図・セクション・エレベーション.....	21
図13 A区1号・3号・7号土坑平面図・エレベーション.....	23
図14 A区8号・9号・10号・11号・13号土坑平面図・ セクション・エレベーション.....	25
図15 A区5号・21号・22号・24号土坑平面図・セクション.....	27
図16 A区23号・25号土坑平面図・セクション、14号溝セクション.....	28
図17 A区26号土坑、8号溝平面図・セクション、右列側面図.....	29

図18	A区右積造構・支柱状造構	31
図19	A区1号溝出土遺物	49
図20	A区1号溝出土瓦・2号溝出土遺物	50
図21	A区7号溝出土遺物	51
図22	A区7号・8号溝出土遺物	52
図23	A区10号・11号・12号・13号・14号溝出土遺物	53
図24	A区1号・2号・3号・4号・5号井戸出土遺物	54
図25	A区5号井戸出土木製品	55
図26	A区5号・6号・7号井戸出土遺物	56
図27	A区8号井戸出土磁器	57
図28	A区8号井戸出土陶磁器	58
図29	A区8号井戸出土陶器	59
図30	A区8号井戸出土遺物	60
図31	A区8号井戸出土遺物	61
図32	A区8号・9号井戸出土遺物	62
図33	A区1号土坑出土遺物	63
図34	A区2号・3号・8号・13号・21号土坑・埋桶8出土遺物	64
図35	A区22号土坑出土遺物	65
図36	A区23号土坑出土遺物	66
図37	A区24号・26号土坑出土遺物	67
図38	A区6号・25号土坑、ピット51・274・315・369・533・562・588出土遺物	68
図39	A区グリッド出土遺物	69
図40	A区グリッド出土遺物	70
図41	A区グリッド出土遺物	71
図42	A・B区近代遺物	72
図43	A・B区近代遺物、A区9号井戸胴木	73
図44	A区出土金属製品	74
図45	A区出土錢貨	75
図46	B区基本土層	76
図47	B区二の堀・土壙断面概略図	76
図48	B区全体図	77
図49	B区1号・2号土坑、1号井戸平面図・エレベーション	81
図50	B区追加調査トレンチ平面図・セクション	82
図51	B区2号井戸平面図・試掘トレンチT-1平面図	83
図52	B区1号井戸出土遺物	87
図53	B区3号溝、1号土坑、ピット74、8号溝、T-7、2号井戸出土遺物	88

第1章 調査の経緯と概要

第1節 調査に至る経緯

山梨県甲府市北口二丁目における今回の発掘調査は、桜シルク工業株式会社の店舗及び駐車場建設に伴って実施された。当地区は平成元年から開始された甲府市の新都市拠点整備事業予定地にあたり、今後開発が促進される地域である。江戸時代、当地域一帯は甲府城下町の郭内で、二の堀と森下小路に挟まれた武家屋敷地にある。平成7年度に実施された甲府駅北口周辺の試掘調査では、当調査区北東側に中~近世の遺構が良好な状態で遺存していることが確認された。

平成11年1月頃から、桜シルク工業株式会社による店舗・駐車場の建設設計画が表面化した。そのため、平成11年2月10日から同年4月12日まで試掘調査を行い、中世から近世にかけての井戸・土坑・石列など遺構を検出した。これを受け甲府市教育委員会は、事前の発掘調査の必要性がある旨の調査報告書を桜シルク株式会社に提出した。これに基づき両者で協議を行い、工事により遺構面が破壊される部分について本調査を実施することになった。委託契約の締結は5月6日である。

本調査は平成11年5月12日から8月13日まで実施し、さらに同年9月28日から10月6日まで追加調査を行った。一方、平成11年9月15日には遺物整理作業及び報告書作成業務について委託契約を締結し、平成12年4月1日から平成13年3月まで整理作業および報告書作成業務を実施した。

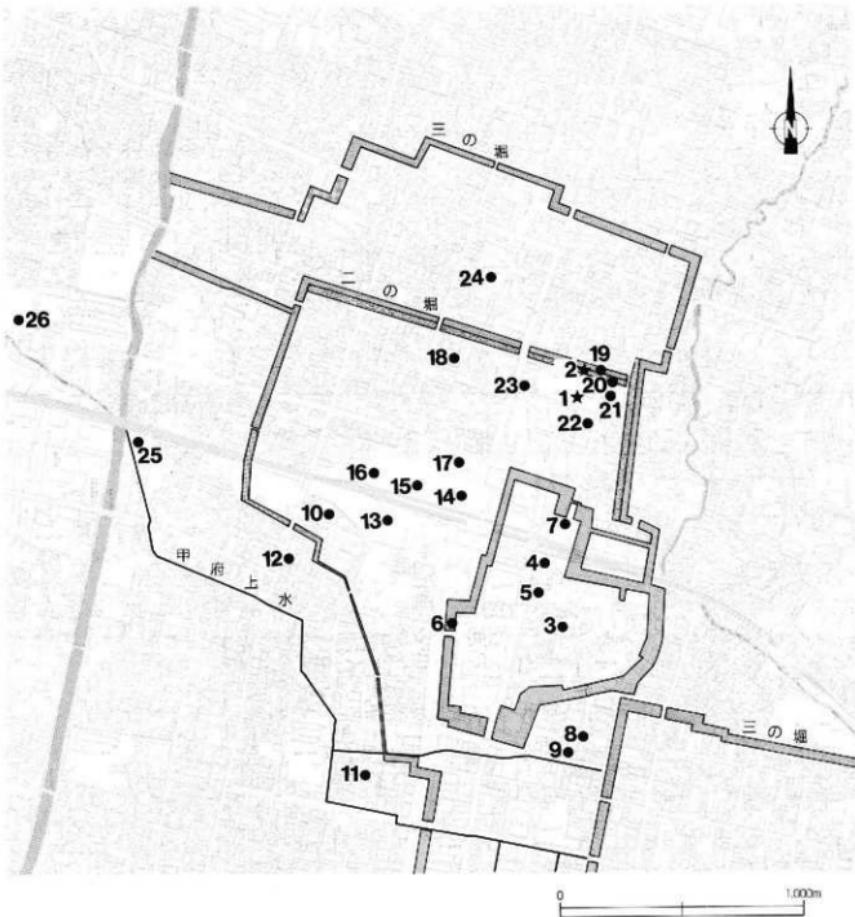
第2節 調査方法

発掘調査に先立ち、平成11年2月10日から同年4月12日にかけて試掘調査を実施した。調査区南側の店舗建設予定地部分(A区)に2本、駐車場建設部分(B区)に3本の計5本の試掘トレンチ(T-1~5)を設定し、重機で表上の掘削を行うとともに、人力で遺構の確認作業を行った(図2)。

試掘調査の結果を基に、建設工事による遺構面の破壊が予想される店舗建設予定地部分(A区)700m²と駐車場建設部分(B区)300m²の計1000m²に対し本調査を実施することを決定した。近世段階の遺構は現在の地割線とほぼ平行するものと推測され、現状の地割に対し平行にグリッドを設定することにした。その結果、東西軸は西側からA~I、南北軸は南側より1~22、計198のグリッド(4×4m)が設定された(図3)。掘り下げにあたり、近代の盛土層・搅乱層については、重機により除去を行った。グリッド設定後は、人力で遺構及び遺物の確認を行っている。

B区の二の堀検出は、堆積層が極めて軟弱なため堀底までの調査の危険が指摘された。工事により遺構面破壊の可能性もないため、堀の立ち上がり部を検出して調査を終了させた。また調査終了後、B区周辺では駐車場の建物基礎と看板の設置工事による遺構面への影響が心配されたため、新たに追加調査トレンチ(T-6~8)の3本を設定し調査を実施した。

遺構面作成段階では設定したグリッド杭に水糸を張ってメッシュを設定し、作図を行った。試掘調査及び追加調査トレンチは、平板を使用して作図を行っている。遺物の取り上げについては、基本的に遺構ごとに行った。遺構がほぼ完全に検出された8月上旬の段階で航空測量を行い、空中写真及び全体図の作成を行った。



通路名	検出施設・遺物など	時代	遺跡名	検出施設・遺物など	時代
① 甲府城下町道跡(板シルク筋) A区	武家屋敷跡(井戸、溝、土器)	中世～近代	④ 甲府城街跡八区	相模國太夫堀敷及び川手御坂尾跡	一世～近世
② 甲府城下町道跡(板シルク筋) B区	甲府城第二の堀・土堤、井戸、溝	中世～近代	⑤ 甲府城西側街跡八区	武家屋敷跡及び御手子小源	一世～近代
③ 甲府城下町道跡	近畿初勢の近江守御館跡	近世	此家御殿跡	近世	
④ 甲府城南門曲輪(駐輪場予定地)	甲府城南門曲輪(五丈臺に複数)	近世	⑥ 甲府城下町道跡	築石、土坑墓	中世～近世
⑤ 甲府城南門曲輪(駐車場)	大須磨瓦窯(洗浄室設置)	近世	⑦ 甲府城下町道跡	土呂?松、沼戸廻糞系系廻糞	中世～近世
⑥ 甲府城内石垣	甲府城内石垣	近世	⑧ 甲府城下町道跡	井戸・ビット・甲府城二の堀	中世～近世
⑦ 甲府城内石垣	山手町門土塁、清水田幹石垣	近世	⑨ 甲府城下町道跡	溝・土塁	中世～近世
⑧ 甲府城下町道跡	第2段・清水田幹石塁・ビット・土塁	近世	⑩ 甲府城下町道跡	溝、ビット、土坑、柱列	中世～近世
⑨ 甲府城下町道跡	第1段・月戸1基	近世	⑪ 甲府城下町道跡	井戸・河・土坑下塗	近世
⑩ 甲府城下町道跡	近世	近世	⑫ 甲府城下町道跡	井戸(かわらけ・漆器製品出土)	中世
⑪ 甲府城下町道跡(裏先手小路)	道筋跡	近世	⑬ 甲府城下町道跡	土塁	近世
⑫ 甲府城下町道跡(右石町)	土塁跡出土	古墳	⑭ 甲府城下町道跡	新物屋小学校跡	
⑬ 甲府城下町道跡	井戸1基・壁・敷地跡後30石	近世	⑮ 甲府上水跡	年貢上水跡	古世
⑭ 甲府城下町道跡 A・B区	溝跡	古世	⑯ 住居跡	住居跡・河	晉生～中世

図1 甲府城跡・甲府城下町遺跡主要調査地点
(No.3-21は県埋蔵文化財センター調査)

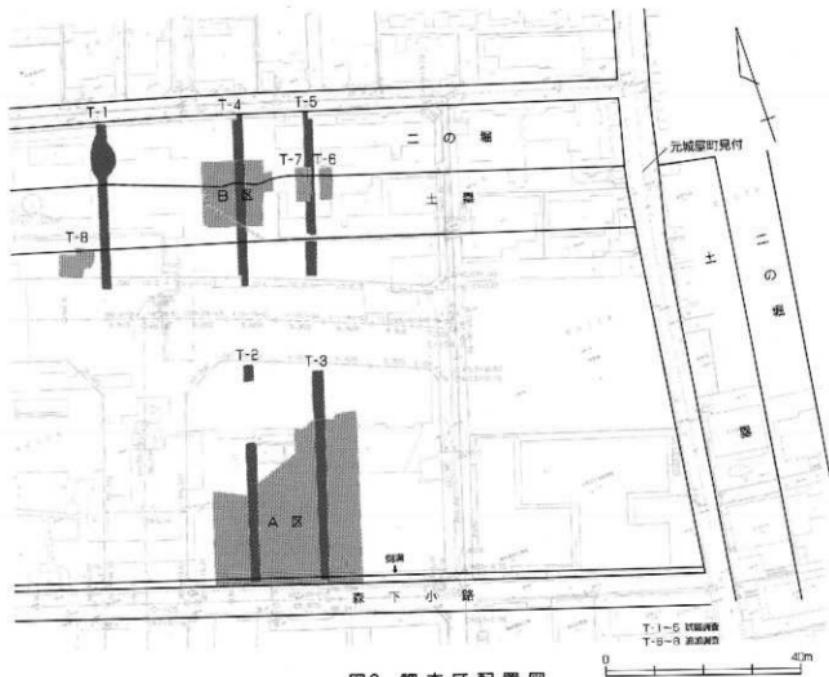


図2 調査区配置図

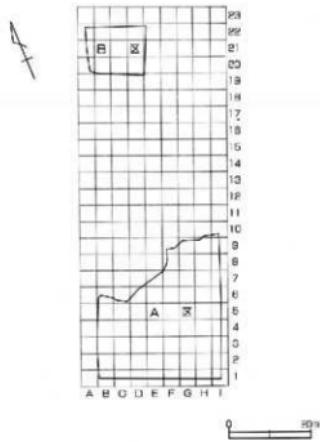


図3 調査区グリッド図

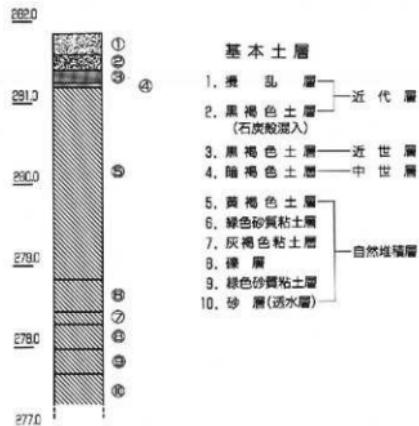


図4 A 区 基本土層

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

近世の甲府城下町は、柏川扇状地の一帯に建設・整備された戦国時代の城下町を南方の沖積平野に移して建設された。中央には標高304.8mの一条小山を利用して造られた甲府城の天守台・本丸・二の丸などが聳え立ち、これを中心に家臣屋敷地・商職人町が同心円状に配置されていた。甲斐国中央の低地に位置する甲府城とその城下町は、甲府盆地縁辺の高台から遠望することができ、城主の威儀と権力を民衆に見せつけていた。

今回、発掘調査が実施された桜シルク跡地は、甲府城北側に整備された城下町の一角で、相川扇状地の扇端部、標高281~282mの南傾斜面上に位置する。調査地点北側には二の堀が東西に横切り、家臣屋敷地と商職人町を分けていた。二の堀の水は、相川扇状地の東西を南流する柏川・藤川の両河川から取水したものではなく、扇央部から扇端部にかけて流れるいく筋かの小河川から引いたものと推定されるが、一年を通して水量は少なかったものと思われる。

調査地点には相川扇状地に一般的に見られる黄褐色の粘質土が堆積しており、地表下約5mで砂層の透水層が検出された。

第2節 歴史的環境

都市「甲府」の発展の契機は、永正16年（1519）、武川信虎が相川扇状地上の躑躅ヶ崎の地に新たな居館を造営し、これを中心として甲斐の府中を建設したことに求められる。城下町の南に位置する一条小山には、大永4年（1524）に砦が築かれ、山上にあった一蓮寺は山裾に移設された（『高白齋記』）。城下町南端の東西出入り口部には八日市場・三日市場が開設されたことが明らかで、職商人の集住を表す元柳町・元連雀町・元城屋町・元綿屋町・元柳町・工町といった地名が城下町南半に密に分布している。また、一条小山の南側には一蓮寺の門前町が形成されていた。

甲府城の築城開始は武田氏滅亡後の天正18年（1590）頃と推定されており、豊臣秀吉側近の羽柴秀勝・加藤光泰・浅野長政・幸長父子が建設にあたった。甲府城は東国では数少ない石垣の近世城郭であり、内堀・二の堀・三の堀により城と城下町が厳重に防御されていた。二の堀と上空で囲まれた内郭が武家屋敷地で、15か所の見付けが認められ、人々の出入りを監視した。二の堀の外側には、北に上府中26町、南東部に下府中23町の計49町が整備されている。

宝永元年（1704）、柳沢吉保が武藏国川越から十五万石で入部した。翌宝永二年には甲府城の屋形曲輪・樂屋曲輪の殿舎の建設と石垣の修築願いを幕府に提出し、城と城下町の大規模な再整備に着手した。柳沢時代は、郭外の侍屋敷225軒、役人屋敷60軒、足軽屋敷627軒、同心組屋敷100軒・小人組屋敷14軒を数え、統く甲府勤番支配の時代と比べても屋敷数が多い。柳沢時代の城下町は、「裏見寒話」に「甲州の長臣柳沢權太夫・同市正・酒井志摩・川口右見・鈴木主門・松平多治見・柳沢帶刀・同矢柄・平岡政盛等の屋敷善美を尽せり、就中權太夫の舊邸は石垣切石長屋の様子・一万石以上に見ゆ、東隣裏植込、梅楓にて一町程続きたり」と記述されるほどに、華麗な重臣屋敷が建ち並んでいた。

享保9年（1724）、柳沢氏は大和郡山に転封となり、甲府城・甲府城下町の守備を目的に甲府勤番支配が設置された。その後、享保12年（1727）の大火により、柳沢時代に築かれた武家屋敷や、櫓などの城内建築物の多くは焼失し、残った殿舎も撤去された。江戸時代後期に著された『甲斐源手稿』には「武士屋敷何れも茅屋根也。近来稀に瓦井同断長屋のみみゆる」、「三百俵取以上大抵既あり」、「長屋建の門多し。中には長屋建にて門を引戸一枚にして潜りの方無之」とあり、武家屋敷の状況をうかがうことができる。この時代に今回の発掘調査地一帯に居住した武士としては、山岡・長・永井・北条などの勤番士を占める（絵図2~5）から確認することができる。

明治時代に入ると富国強兵、殖産興業の方針のもとに近代化が押し進められた。荒廃した甲府城は明治6年（1873）に内堀で両された内城部分の保存が決まり、郭内（旧武家屋敷地）の市街化が促進された。この年、権令に就任した藤村紫朗は「物産富殖ノ告論」を発し、明治7年（1874）10月には錦町に200名規模の県営勧業製糸場の建設を行うなど甲府城郭内の再開発に着手した。明治36年（1903）には中央線が甲府まで開通し、甲府城内城の北側は鉄道用地となった。

明治初年には、調査区周辺にあった勤番士の屋敷は撤去され、畠地となった。大正時代に入ると市街地には製糸工場が多く建設され、富士見町の矢崎製糸第三工場など大規模工場も建てられた。この時期に県外資本の参入も始まり、その先駆けとして今回の発掘調査対象地に進出したのが、長野県茅野地方を本拠とする丸茂製糸場である。

丸茂製糸場は大正8年から建設され、翌9年2月に操業が開始された。しかし、昭和の金融恐慌や生糸相場の暴落などにより経営はいきづまり、合資会社舞鶴製糸場と名前を変える。昭和19年には、立川飛行機の飛行機部品を生産する軍需工場として転用され、昭和20年7月6日の甲府空襲を無事乗り越えて終戦を迎えた。

昭和22年には経営権と建物が櫻シルク工業へ売却され、新たに櫻シルク工業株式会社の甲府工場として生糸生産を復活させた。しかし、平成元年には工場が閉鎖され、建物は撤去された。最後まで残っていた旧丸茂製糸場創業時からのレンガ造りの煙突（写真93）も、平成11年3月に撤去され、製糸工場の痕跡は完全に消滅した。

第3節 調査の概要

A・B区の遺構面は、ともに大正8年の製糸工場建設等による擾乱を受けた部分が多い。遺構は地表下0.6～1mの地山層に掘り込まれた状況で確認されている。

A区は近世の森下小路沿いに位置した武家屋敷地で「四十九番」と記した古絵図（絵図3）も存在する。溝28基、掘立柱建物跡1基、井戸11基、埋桶13基、上坑26基、石積遺構、支柱状遺構、ピット727基が検出された。中世から近代の遺構である。現在の街路と直交する南北方向の溝は、屢数割りの変遷を窺う上で貴重である。また、大量に検出された近世の陶磁器は、甲府城下町における武士階層の生活・文化の解明はもとより、近世陶磁器の器種構成と流通状況を知る上で重要である。近代の遺構は、戦前まで日本の輸出産業を担った製糸工場の痕跡であり、大正8年に建設され戦後まで稼働していた。

B区は擾乱を受けていたが、調査により古絵図の描写を裏づける二の堀と土塁の位置が確認された。他に近世遺構の確認は井戸1基にとどまつたが、土壙基底部下層から溝9条、井戸2基、上坑2基、ピット78基が検出され、中世段階の遺構であることが確認された。

調査区全域から検出された中世の遺構・遺物は、武田氏館跡を中心に建設・整備された戦国時代の甲府城下町に関わるものであり、町割りや発展過程を解明していくうえで重要な資料となろう。

第3章 A区発掘調査の成果

第1節 遺構概観

A区は森下小路側に位置する。江戸時代には武家屋敷が建てられていた。近世の古絵図(絵図1~5)からは、屋敷割りと街路位置の変遷があった状況がうかがわれる。遺構は溝28条、井戸11基、掘立柱建物跡1棟、土坑26基、埴輪13基、その他の遺構2基、ビット727基が検出された。ビットの規則的配列を確認することはできなかった。遺構確認面は黄褐色土の自然堆積層である。

時代が明確に確定される中世の遺構は、井戸5基、土坑墓1基が検出された。中世の遺物は、ほぼA区全域から検出された。かわらけ・瀬戸美濃系陶器・中国製磁器・李朝白磁など16世紀代を主体とする。特に5号井戸内からは大量の木製品・漆製品なども検出されている。

最も多いのは近世の遺構である。街路と平行若しくは直交し、ほぼ同軸の方位を取る遺構が多い。特に森下小路に直交する南北方向の溝・暗渠は屋敷の境界を示すものと推定され、屋敷割りの変遷を把握する上で重要である。礎石建物跡は未検出であるが、2丈四方の規模をもつ掘立柱建物跡が確認された。ただし、時期・機能については判断としない。遺物は18世紀以降の陶磁器が多い。特に8号井戸からは一括廃棄された18~19世紀初頭の陶磁器が大量に検出された。

近代の遺構は棚列・石積造構・支柱状造構・11号井戸などが検出されている。いずれも丸茂製糸場に関連するものであろう。特にレンガ積の11号井戸は、丸茂製糸場操業時に2基設置された内の1基である。遺物は、製糸場で使用された器械部品や生活用品が出土した。

第2節 基本層序(図4)

A区は相川扇状地扇端部に位置し、南側に僅かに傾斜している。A区南側で標高約281m、北側で282mを測り、1mほどの比高差が見られる。製糸場建設と撤去により擾乱を受けた部分が多い。

土層は、現地表面から約60cm下の地山層との間に、3~4層の堆積が認められる。第1層は地表下20~40cmで、セメント片などを含む近年の整地盛土層である。続く第2層は石炭殻を含む黒褐色土層であり、大正9年の製糸場建設に伴う造成などによって形成された堆積層と考えられる。

第3層は近世の堆積層で、10~20cmの厚さをもった黒褐色土層である。部分的に炭化物が混入するが、火災層は確認されていない。18~19世紀代の遺物を含む江戸時代後期の堆積層である。第4層の暗褐色土層は10cm以下の厚さで、部分的に検出された。遺物はないが、自然堆積層の直上に位置することから、近世以前の堆積層と推定される。第4層が部分的な確認にとどまっていることは、17世紀初頭の城下町建設時に、武家屋敷地造成のため切土されたことを示唆している。

自然堆積層は、5号井戸ⁱの断面観察から地表下5m地点までに6層が確認された。最上部の第5層は、相川扇状地上に一般的に見られる黄褐色の粘質土層であり、約2.5mの厚さをもつ。第6層は緑色砂質粘土層、第7層は灰褐色粘土層、第8層は礫層である。第9層の緑色砂質粘土層は第6層とはほぼ同質である。第10層の砂層は、標高約277m地点に位置する透水層である。

第3節 遺構と遺物

(1) 溝

溝は28条が検出された。暗渠についてもここに含めて報告する。

1号溝(図5~6、写真4・7・51)

調査区南側の道路と平行する。近世から近代にかけて存続した溝で、N-69°-Wを軸とし、約30mにわたり検出された。2号溝に切られ、10号溝と同時存在したものと考えられるが、3号溝との切り合い関係については不明である。溝の東側には長さ11.3mにわたり石列が検出されているが、西側部

分については未検出である。溝の底部は平坦であり、流れの方向については不明。道路からの溝幅1.1mを測る。長さ25~40cmの加工された安山岩が一段、約80度の角度で検出されたが、当初は数段積まれた屋敷境の石積みであったと考えられる。石材はいずれも地山層に据えられており、東端の窪み部分には石列下部に長さ約1.3m、径7cmの丸太材の胴木が置かれていた。石材の背後には径約10cmの栗石が充填されている。溝内からは、18世紀から近代の遺物が多く検出された。さらに溝底絶後に打ち込まれた径約10cmの丸太材が、道路と平行してほぼ1間(1.8m)間隔で4本検出された。

溝西側は、近代の支柱状造構・近代石積造構等により擾乱を受け、石列は検出されていない。幅1.0~1.5m、深さ約20~30cmを測る。B-1グリッドの溝北側では、部分的に5号溝の上面に位置する、礫を多く含む硬化面が検出されている。西壁セクションでは3時期の変遷が捉えられる。1期からは近代、2・3期の層からは江戸時代後期(19世紀代)の遺物が確認された。2・3期の溝は19世紀代の遺物と剖面を含む埋設土に覆われており、幕末から明治初期に廃絶したものと考えられる。

出土遺物(図19-1~22、図20-23)は、18世紀から近代にかけての大量の肥前系磁器・瀬戸系陶磁器が検出されている。段重蓋(9)には焼難ぎが見られる。山水上瓶(18)は19世紀代に多く見られる。22は高台内に「有限会社三井商店」とある。19世紀代と推定される大量の棟瓦が検出されたことから、溝沿いに堀などの構築物が存在したことが分かる。

2号溝(図7、写真5・52)

G-1~6グリッドに位置する。N-18°-Eに軸をもつ石組みの暗渠である。造構は最も上層から確認され、1号溝を切る。溝幅約5cm、深さ10cm、総延長約18.5mを測る。暗渠の側面は約20cmの長方形の自然石と、蓋部分は径20~30cmの自然石により築かれている。出土遺物(図20-24~27)は、馬の目皿・肥前系磁器・瀬戸系磁器・土瓶など19世紀代の遺物が主に検出されている。しかし1号溝の上に築かれていることから、近代の区画の暗渠と考えられる。

3号溝(図7、写真6)

F-1・2グリッドに位置する。N-22°-Eに軸をとる、石列を伴う溝である。北側は擾乱、南側は近代の支柱状造構によって切られる。長さ1.2m、溝上部幅約0.7m、内幅約0.2m、深さ20cmを測る。石列は東側に面を持ち、径20~40cmの安山岩の検知石が確認されている。覆土内からは棟瓦など19世紀の遺物が検出されている。

4号溝(写真9)

F-6・7グリッドに位置する。N-22°-Eに軸をとり、北・南側は擾乱を受け、長さ6.6m、幅約0.3m、深さ約20cmを測る。溝底部には砂粒の堆積が見られる。出土遺物は確認されていない。

5号溝(図5)

1号溝の北側約1mに位置する。N-69°-Wに軸をとり、1号溝と平行する。擾乱等により不明な部分も多いが、2・3・10・28号溝に切られている。東側から約9.0m、9.0m、2.0mの長さで部分的に検出された。溝幅は約0.4~1.0m、深さ約10~20cmを測る。F・G-1グリッド部分の2.3mは溝が途切れている。D-2グリッドでは、溝北側上端に長さ0.9mの平行する石列が検出された。底部には砂粒が僅かに堆積するが、流水の痕跡は確認されなかった。小片のため図化は行っていないが、19世紀を下限とする肥前系磁器・瀬戸系濃濃系陶器・土器・鍋などの遺物が検出されている。1号溝と平行し、ほぼ同時期に存在したものと考えられ、堀等の雨落ち溝であった可能性が高い。

6号溝

D・E・H-2グリッドに位置する。N-69°-Wに軸をとり、東から西側へ緩やかに傾斜する。擾乱により切断されているが、西側で長さ2.2m、幅1.1m、東側で長さ3.0m、幅0.5~0.7m、深さ7~10cmを測る。覆土は黒色土で、中世のかわらけ片が検出されている。

7号溝(図8、写真10・13・54)

E-5~7グリッドに位置する。北側はN-22°-E、南側はN-35°-Eに軸をとる、石組の暗渠である。南・北側は擾乱を受けている。溝南側で8号溝と分岐するが、新旧関係は不明である。長さ約9.0m、溝上部幅約0.8m、内幅0.10~0.15m、深さ約30cmを測る。長径10~20cmの自然石が2~3段、高さ25cmに積まれ、径20~30cmの蓋石をのせる。

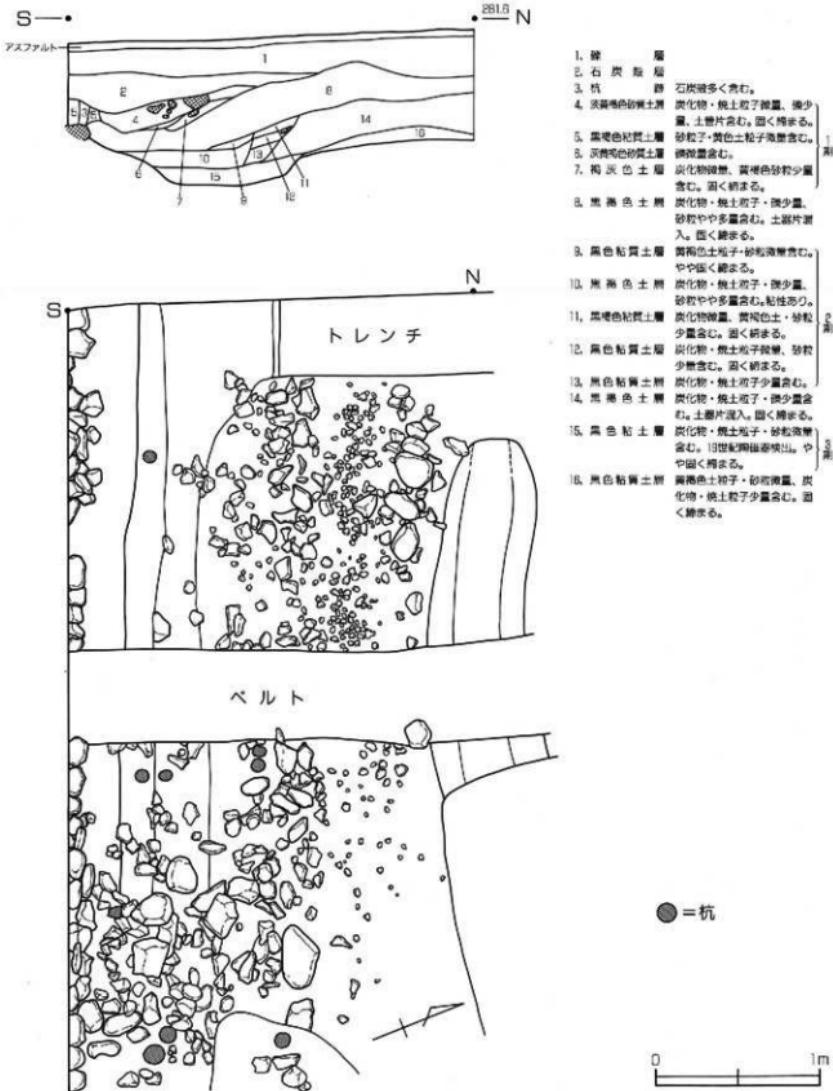


図5 A区1号溝西侧平面図・西壁セクション

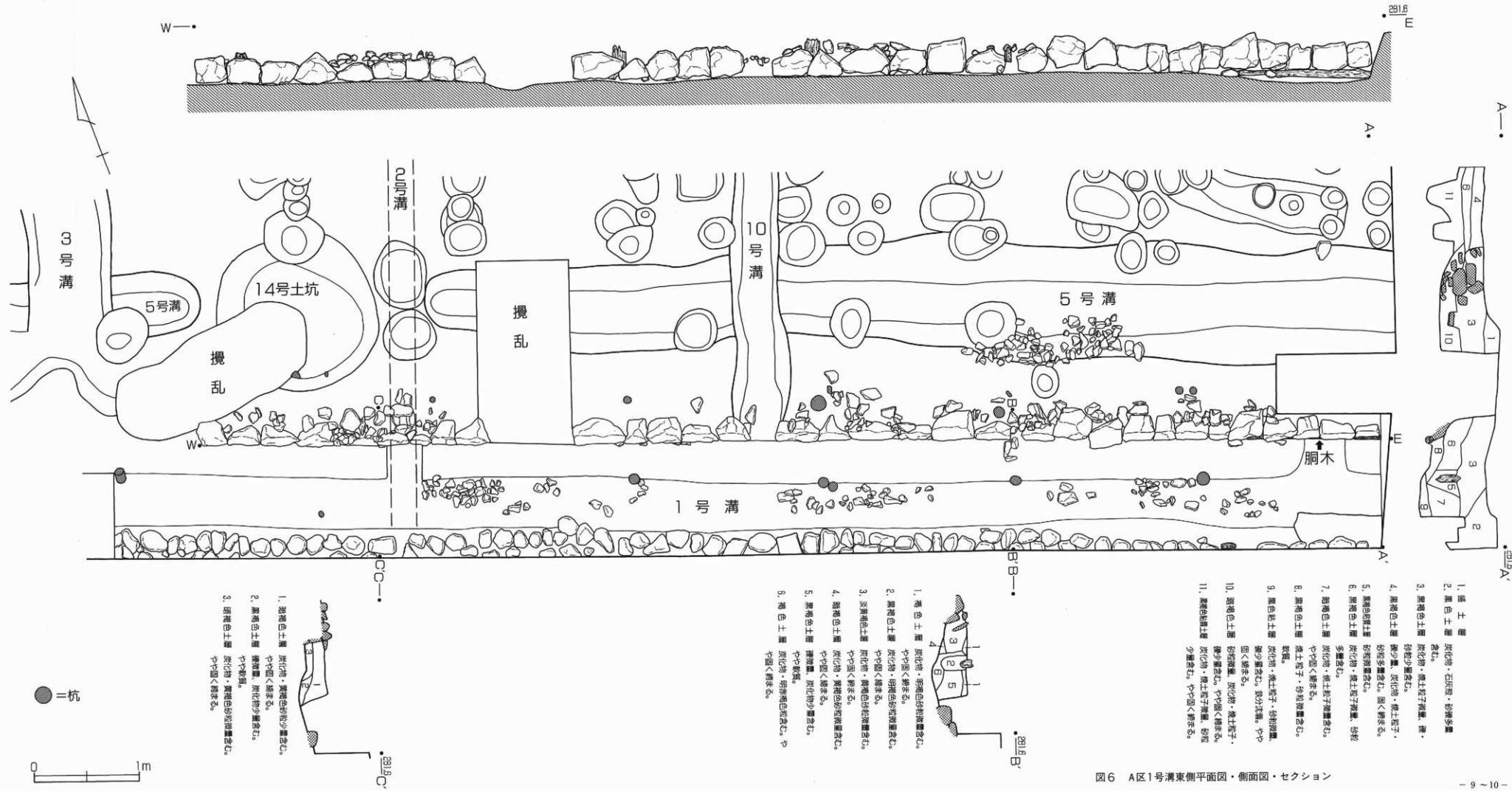


図6 A区1号溝東側平面図・側面図・セクション

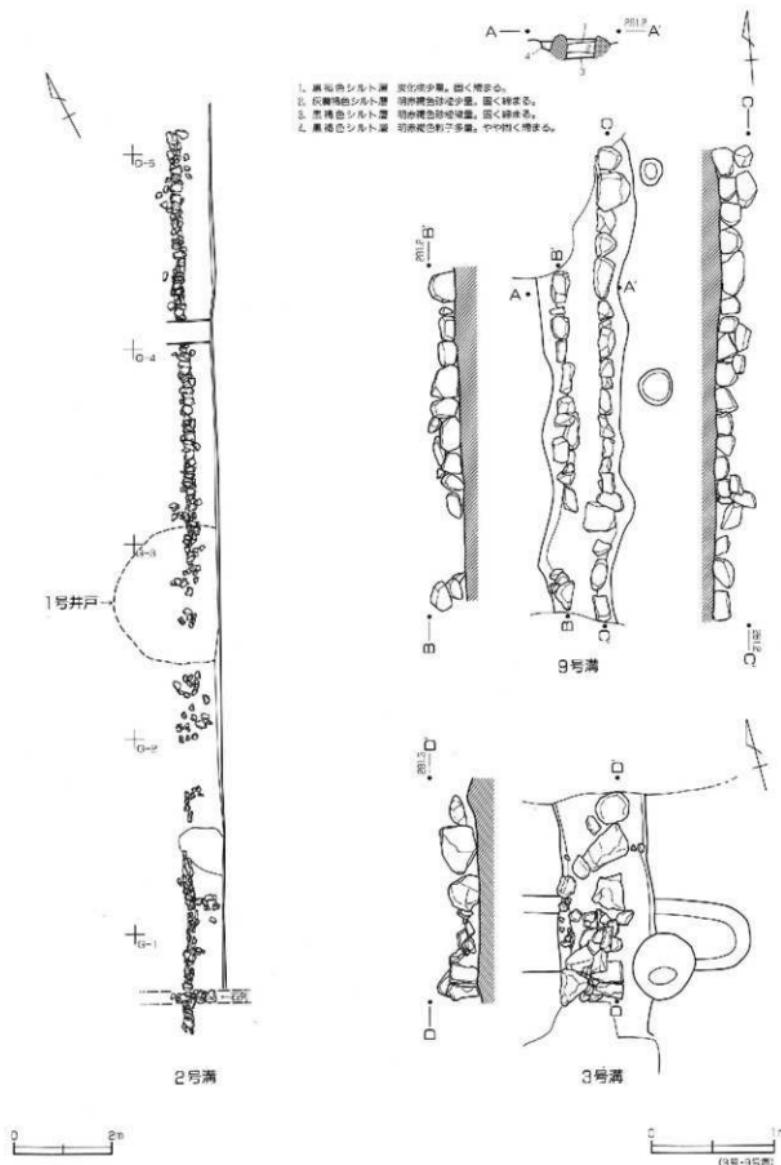


図7 A区2号・3号・9号溝平面図・側面図・セクション

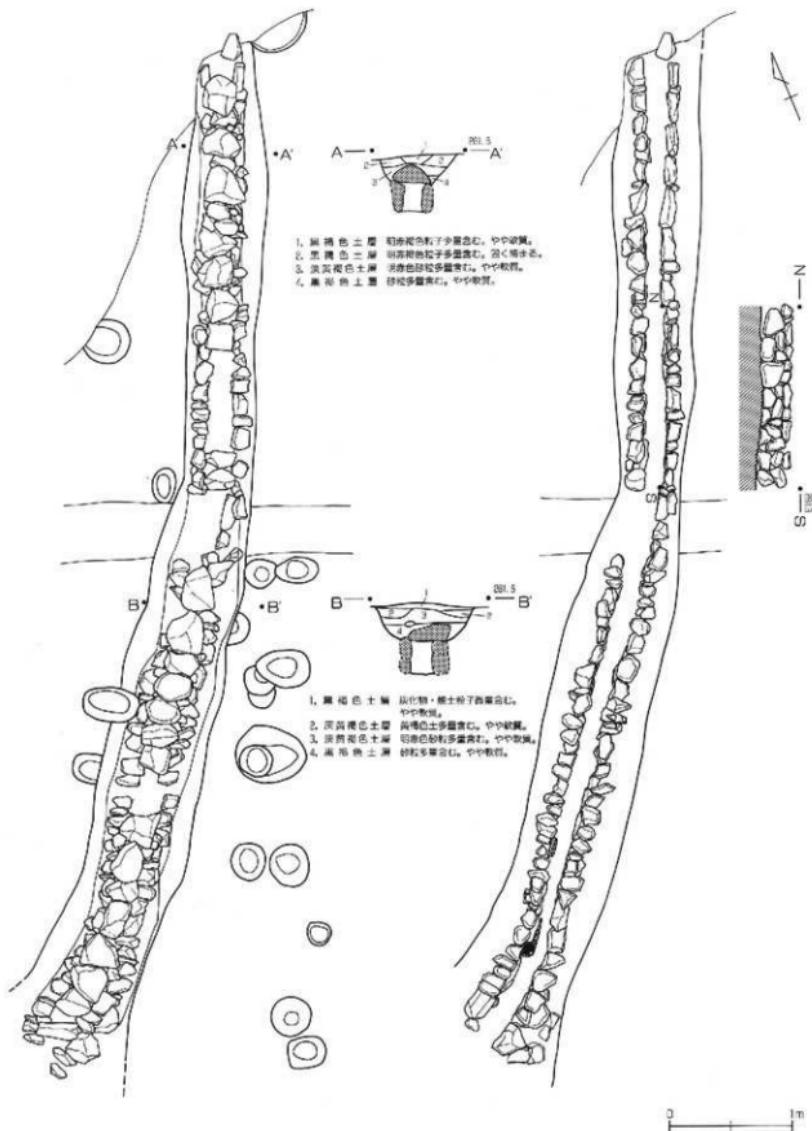


図8 A区7号溝平面図・セクション・石積側面図

覆土から石臼・鎧・磁器・瀬戸系陶器・土器など19世紀代の遺物が検出された（図21・28～34、図22～35・36、図44-2）。石積みの一部には石製品（33～36）が転用されていた。蓋石上面から、19世紀代に比定される棟瓦（29～31）が大量に検出されており、暗渠もこの時期に構築されたものと考えられる。

8号溝（図17、写真55）

E～4グリッドに位置する。N-22°～Eに主軸をとり、溝南側は西方向に軸を曲げる。12号溝を切るが、27号溝との重複関係については不明である。溝は長さ約5.0m、幅約0.4～0.8m、最も深いところで約30cmを測る。溝南側では径20～30cmの自然石を用いた、長さ1.3mの石列が検出された。

出土遺物（図22～37～41）は少ない。40は、陽刻の上に金箔が付着した土製品である。41は棟の角部に設置されていた瓦と考えられる。遺物の下限時期から、19世紀代の溝と推定され、7・9号溝と同時期に存在したものと考えられる。

9号溝（図7）

E-3グリッドに位置する。N-22°～Eに軸をもつ石積みの溝である。南・北側は攪乱を受けている。長さ3.7m、溝上部幅約0.6m、内幅20cm、深さ約20cmを測る。縁石は、長径10～35cmの自然石が1～2段残存していた。造構東側にはピット190と203が、溝と平行し1間間隔で検出されている。覆土より、瀬戸系磁器・土瓶など19世紀代の遺物が出土した。

10号溝（図5、写真8・53）

H-1～3、G-5～7グリッドに位置する。N-18°～Eに軸をとり、1号溝に接続する江戸時代後期（19世紀代）の遺構である。5・6・16号溝を切るが、11・26号溝及び24号土坑との時期差は不明。部分的に攪乱を受けているが、総延長23.6m、幅0.3～0.5m、深さ約8cmを測る。溝西側から多数のピットが検出されたが、棚列・堀などを想定し得る規則的な配列は確認されなかった。覆土は砂粒を微量に含む黒褐色粘質土で、肥前系磁器など19世紀の遺物が検出されている。南側の1号溝に直支することから、19世紀代の屋敷境を区画する溝と考えられる。

図23-42～48が出土遺物で、たこ唐草文の皿（43）と御神酒酒利（45）、棟瓦（48）など18～19世紀代のものが多い。

11号溝（図15、写真12）

H・I-6グリッドに位置する。N-73°～Wに軸をとる。北側は24号土坑に切られるが、10号溝との重複関係は不明。長さ約6.8m、幅約0.7m、深さ約20cmを測る。覆土より、16世紀代のかわらけ（図23-49）、近世のミニチュア土製品（50）、その他小片のため固化していないが溶融物付着土器・瀬戸美濃系鉢・瓦・瀬戸系陶器など16～18世紀代の遺物が検出されている。

12号溝（図17、写真11）

B～G-4グリッドに位置する。N-70°～Wに軸をとり西側へ緩く傾斜する。D・E-4グリッドでは2.3m程攪乱を受けているが、延長24.0mが検出された。溝断面はU字状を呈し、幅約0.4～0.7m、深さ約20～40cmを測る。8・18号溝に切られるが、17号溝との重複関係は不明である。

出土遺物（図23-51～60）は、かわらけ（51～54）、瀬戸美濃系陶器（56）、その他染付・焼土塊など16世紀代のものが多い。

13号溝（図16）

II-7・8グリッドに位置する。N-11°～Eに軸をとる。16号溝を切り、南側は24号土坑、北側は25号土坑に切られる。長さ約6.8m、幅0.3～0.6m、深さ約10cmを測る。覆土は砂粒を含む黒色土である。遺物は、中世段階に位置づけられるかわらけ（図23-61）が確認されただけである。

14号溝（図16、写真20）

F～I-9グリッドに位置する。N-69°～Wに主軸をとり、西方向へ傾斜する。15号溝を切り、23・25号土坑に切られ、東側は攪乱を受けている。長さ約12.5m、幅0.3～0.8m、最深約15cmを測る。覆土は黒色土で、縄文土器・古墳時代の高环脚部（図23-62）・かわらけ・陶器が検出されている。

15号溝（図16）

G-8、H-7～9、I-5グリッドに位置し、N-4°～Eに主軸をとる。16号溝を切り、11・14

号溝と24号土坑に切られる。21・22・23号溝との重複関係については不明。延長約19m、幅0.3~1.3m、深さ約5cmを測る。覆土は炭化物を少量含む黒色粘質土で、遺物は未検出である。

16号溝

H-7グリッドほかに位置する。N-84°-Eに軸をとり、10・13・15号溝に切られる。長さ7.5m、幅0.35~0.8m、深さ約10cmを測る。覆土は炭化物を含む黒色粘質土層であり、遺物は未検出である。

17号溝（写真11）

9号溝の北側B-4、C-4・5グリッドに位置する。N-83°-Eに軸をとり、長さ8.0m、幅約0.3~0.7m、深さ約10cmを測る。12号溝との新旧関係は不明。かわらけ片が少量検出された。

18号溝

C-4・5グリッドに位置する。N-22°-Eに軸をとり、12・17号溝を切るものと推定される。C-4グリッドは長さ約2.8m、幅約0.4m、深さ約4cm、C-5グリッドでは長さ約3.1m、幅約0.2~0.4m、深さ5cmを測る。暗黒褐色土の堆積が確認されたが、出土遺物はない。

19号溝

D-2・3、E-2グリッドに位置する。N-43°-Wに軸をとり、東側に緩やかに傾斜する。6・9号溝に切られている。D-2・3グリッドでは長さ約4.0m、幅0.42~0.6m、深さ5cmを測る。E-2グリッドでは6号溝に切られるが、長さ1.5m、深さは約10cmを測る。黒色粘質土の覆土より、かわらけ片が検出された。

20号溝

B-2、C-2・3グリッドに位置する。北東から南西に湾曲しN-49°-Wに軸をとるが、北側は東へ湾曲し南に傾斜する。16世紀代のかわらけが出土した3号井戸によって切られる。長さ約8.0m、幅1.0~1.2m、深さ5~20cmを測る。覆土は炭化物を含む黒褐色土で、遺物は未検出である。

21号溝（図15）

H-6グリッドに位置する。N-84°-Eに軸をとり、24号土坑に切られる。長さ約2.3m、幅0.5m、深さ約5cmを測る。東壁セクションから、幅0.7m、深さ18cmの規模を有していたことが分かる。覆土は焼土粒子を微量含む黒色土層である。遺物はない。

22号溝（図15）

H-6グリッドに位置し、N-65°-Wに軸をとる。西側は24号土坑に切られる。長さ約1.7m、幅0.35m、深さ約5cmを測る。覆土は暗褐色土で、遺物はない。

23号溝（図15）

H-6グリッドに位置する。N-84°-Eに軸をとり、24号土坑に切られる。長さ約2.1m、西側幅0.5m、東側幅0.7m、深さ約15cmを測る。覆土は黒褐色土で、遺物はない。

24号溝

D-6グリッドに位置する。N-22°-Eに軸をとる。南・北は搅乱により切られている。25号溝との重複関係は不明である。長さ約2.2m、幅1.18m、深さ約10cmを測る。20号溝覆土と類似した黒褐色土の堆積が確認されている。小片のため図化は行っていないが、近世以前のかわらけ・土器・焼土塊などが検出されている。溝は南側へ延びていたものと考えられる。

25号溝

D・E-6グリッドに位置し、N-80°-Wに軸をとる。24号溝との切合い関係は不明である。長さ約1.8m、幅0.2~0.25m、深さ約3cmを測る。覆土は黒色土で、遺物は検出されていない。

26号溝

H・I-2・3グリッドに位置する。N-69°-Wに軸をとり西へ僅かに傾斜する。西側は4号溝に切られる。長さ6.0m、幅0.3~0.5m、深さ5cmを測る。遺物は検出されていない。

27号溝（図17）

E-4グリッドに位置する。N-88°-Wに軸をとる。8・12号溝、ピット213・305との重複関係は不明である。現状長さ2.2m、幅0.13~0.23m、深さ2~5cmを測る。覆土は黒褐色土であり、遺物は検出されなかった。

28号溝（写真8）

G-2～6グリッドに位置する、土管が埋設された近代の溝である。N-18°Eに軸をとる。総延長20m、幅0.3～0.4m、深さ約10cmを測る。土管は長さ約1m、径約15cmを測り、製糸工場が建設された大正8年以降の所産と考えられる。

（2）井戸

中世から近代の井戸11基は、素掘り、石積み、レンガ積みの3形態に分類される。

1号井戸（図9、写真15）

調査区中央部F-3、G-3グリッドに位置し、遺構確認面の標高は381.40mである。円形を呈する石積みの井戸で、上面の長軸2.7m、短軸2.6m、深さ約3.0mを測る。石積みは内径約0.7mの円形で、現高約1.3mを測る。石積み下部には、径10cmほどの丸太材が井桁状に組まれていた。石積みは、径約30～40cmの安山岩製の山石を奥行きを長くとって垂直に積み、間結石として拳大を超える比較的大きな礫石を用いている。裏込石はなく、背面に黒褐色土が充填されている。

出土遺物（図24-63～67）は16～17世紀前後の所産である。朝鮮製の白磁碗（65）は、17世紀前後に位置づけられる。真鍮製の鉤（図44-3）は茶道の花飾りで使用される鎖の鉤である可能性を考えられる。覆土には炭化物が多く、出土遺物から17世紀前後に火災を受けた後、埋められたものと推定される。

2号井戸（図9、写真16）

C-2グリッドに位置する。南は近代の石積遺構、西は近代の擾乱によって破壊を受けている。確認面の標高は281.10mである。上面の長軸3.2m、短軸2.2m、深さ2.3mを測る。断面はロート状を呈し、上面から1.7m下がったところで内径約1.3mとなり、そこからほぼ垂直に掘り下げている。かわらけ・瀬戸美濃系陶器など16世紀代の遺物（図24-68～75）が検出された。かわらけ（68～71）は、武田氏館跡などで類似したものが出土している。73は成分不明の溶融物が付着した土器であり、周辺で鍛冶が行われていた可能性を示す。遺物から16世紀代の井戸と判断される。

3号井戸（図9）

B-2、C-2グリッドに位置する、円形を呈した素掘りの井戸で、20号溝を切って検出された。内径約0.9mを測る。危険を伴うため、深さ1.2mまでの確認にとどめた。遺構上面から16世紀に比定される完形のかわらけ（図24-76）が出土した。

4号井戸（図9、写真17）

I-3グリッドに位置する、筒状の素掘りの井戸である。上面で径1.8mの円形を呈し、深さ約4.5mを測る。上面から約0.5m下がった部分から内径0.9mと狭まり、底部では約0.65mとなる。遺構内からは多くの炭化物が確認される。

出土遺物（図24-77～81）は16世紀代の所産で、瀬戸美濃系陶器（79・80）は大窯第1・2段階に比定される。錢貨（図45-2～4）も出土した。16世紀代の火災を契機に廃絶されたものと判断される。

5号井戸（図9、写真18・56～58）

B-2グリッドの西壁際に位置する、筒状の素掘りの井戸である。径1.3mの円形を呈し、深さ3.8mを測る。上面から約1.0m下がったところで内径0.9mと狭まり、底部から0.7m上の硬質礫層部で0.7m、底面では約0.5mとなる。かわらけ・瀬戸美濃系陶器・青磁・漆碗・木製品・石製品（図24-82～89、図25-90～108、図26-109～110）は、いずれも16世紀代に位置づけられる。瀬戸美濃系陶器（86・87）は大窯第2・3段階、初山窯の碗（84）は16世紀後半に比定される。覆土から炭化物・焼土塊が多い検出されたことから、16世紀代後半の火災を契機に埋め立てられたものと推定される。

6号井戸（図9、写真19～20・59）

C-1グリッドに位置する、石積み井戸である。上面で径1.4mの円形を呈し、深さは4.2mを超える。底部の確認はできなかったが、下部から柏・桐木・石積みにより構築されている。石積み部分は内径約0.7m、深さ3.2mを測る。石積みの最上面は長径80cmの大きめの石材を使用するが、井戸内面は径20～30cmほどの自然石が積まれ、間に粘土が充填されていた。桐木は幅約10×6.5cm、長さ約75cm

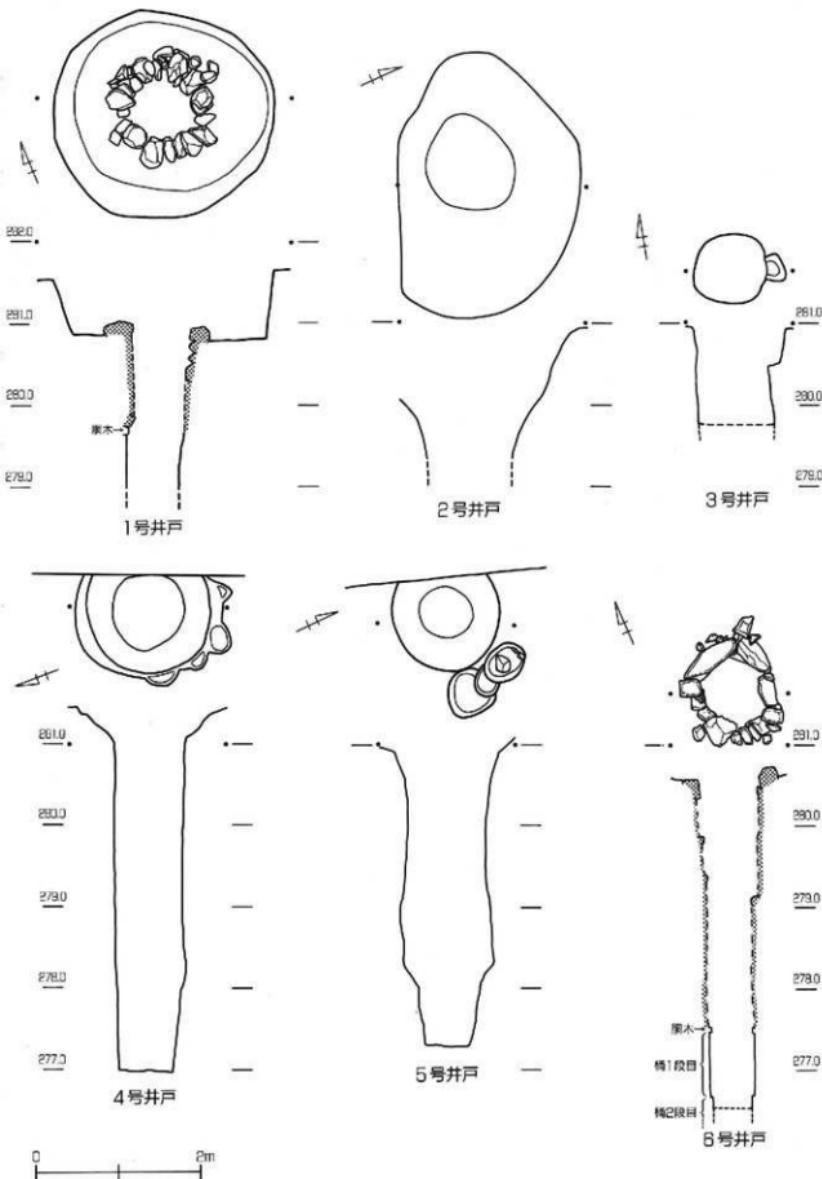
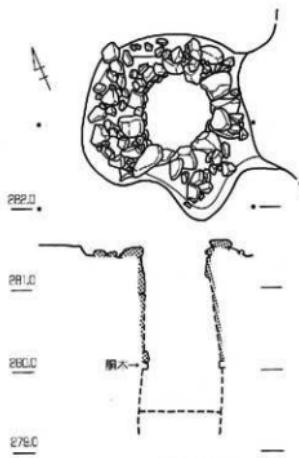
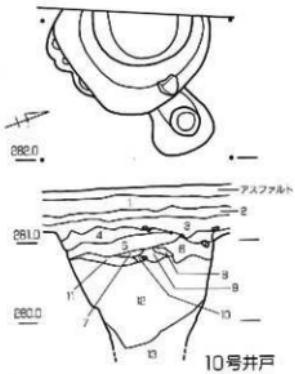
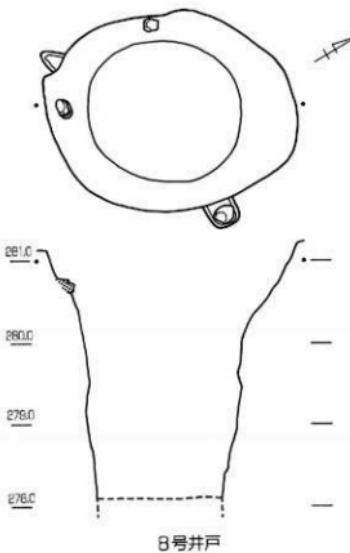
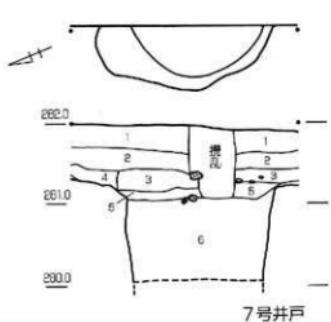


図9 A区井戸平面図・エレベーション



1. 黄土層
 2. 黑褐色土層
 3. 黑褐色土層
 4. 黑褐色土層
 5. 黑褐色土層
 6. 黑褐色土層
 7. オリーブ色粘土層
 8. オリーブ色粘土層
 9. 灰色粘土層
 10. フリーズ地盤層
 11. 黑褐色粘土層
 12. オリーブ色粘土層
 13. 黑褐色粘土層
 14. 黑褐色粘土層
 15. 黑褐色粘土層
 16. 黑褐色粘土層
- 黄化物・焼土粒子・黄褐色土を少量と砂礫をやや多く含む。土目はやや粗いが堆積は強い。
- 黄化物・焼土粒子・黄褐色土・焼土・砂礫を少量含む。粘性があり、網まりが強い。
- 黄化物・焼土粒子・黄褐色土・焼土・砂礫を少量含み、礫が混入する。粘土ブロックが隙間に入っている粘土層。
- 黄化物・焼土粒子・砂礫を少量と黄褐色粘土をやや含む。
- 5層と網膜するが、5層よりも網まりが強い。
- 黄化物・焼土粒子を微量と白目・黄褐色粘土ブロックを含む。
- 白色・黄褐色・黄褐色粘土ブロックを若干含む粘土層。
- 8層と網膜するが、土目がやや細かい。
- 白色・黄褐色粘土ブロックをやや多く含む。
- 下部は網まりがややゆるい。
- 白色・黄褐色・黄褐色粘土ブロックを多く含み、少量の礫が混入し、底部は網まりがややゆるい。
- 白目・黄褐色・黄褐色粘土を少量含む。砂礫が少量混入し、持続力が弱い。



図10 A区井戸平面図・セクション・エレベーション

の角材を井桁状に組んでいた。桶は長さ80cm、厚さ1.7cm、幅約10cmの木材を20本ほど組み合わせており、2段目まで確認した。

出土遺物（図26-111～115）の多くは16世紀代に比定される。圓化を行ってはいないが、厚さ2.1cmの近世の丸瓦片が検出された。中には被熱を受けたものも見られる。造構は1号溝に切られ、18世紀以降の遺物が検出されていないことから、17世紀代の井戸の可能性もあり得る。

7号井戸（図10、写真21・60）

1-4グリッドに位置し、東壁に掛かって検出された。素掘りの井戸で、形状は円形を呈するものと考えられる。内径は不明であるが、検出部で約1.8mを測る。出土遺物（図26-116～122）は、18世紀代を中心としたものである。

8号井戸（図10、写真22～23・62～66）

B-3・4グリッドに位置する、近世の素掘りの井戸である。掘方部分で長軸3.1m、短軸2.4m、深さ3.1mを測る。上面から1.2m下がった部分から内径が狭まり、下部では約1.5mとなる。井戸上部側壁部からは径15cmほどの礎石が2か所検出されている。覆土上層は径約10～20cmの自然石が大量に投げこまれ、その内部から18世紀後半の陶器・磁器・瓦・土製品などが大量に出土した。さらに下層からは径約5～10cm、長さ2mほどの木材が検出されている。木材の多くは枘穴が穿たれており、炭化物も検出された。木材は、井戸上層の構築材とも考えられる。覆土中に焼土が多く確認されたことから、火災を契機に埋められたものと推定される。

出土遺物（図27～図32-123～218）は、18世紀後半から19世紀初頭にかけての肥前系磁器・瀬戸美濃系陶器・土製品・瓦・木製品などが大量に検出された。126は素地は肥前で生産され、絵付けを江戸で行った「江戸染付」であり、同一個体片が1号溝と24号土坑からも検出されている。広東碗製品（図27-130～134）は、18世紀後半から19世紀にかけて流行した碗である。泉州堺製の擂鉢（図30-183～185）は18世紀代から流行し、遠隔地との物流が行われていたことを示す。涼炉（図31-209・210）は、煎茶で使用されたものと考えられ、居住者の階層制と趣味を物語る遺物である。

9号井戸（図10、写真24～25・61）

E-3グリッドに位置する。確認面の標高は381.40mである。円形を呈し、上部に石積みを施す。上面の長軸2.4m、短軸2.0m、深さ2.1mを測る。石積み上面の内径は約0.9mであるが、内部は若干フラスコ状に広がる。石積みは径30cm前後の自然石を高さ1.5mほどに積み上げている。石積み下部の地山層を若干掘り込んで、幅約7cm、長さ90cmの角材（図43-368）が六角形状に組まれていた。出土遺物（図32-219～225）は中世から近世のものである。小片のため圓化は行っていないが、近世の漆桶片も検出された。

10号井戸（図10）

B-3グリッドに位置し、西壁に掛かって検出された。円形を呈するものと推定される。正確な内径は計測できないが、検出部上面で径2.0m、上面から0.9m下がった部分で径1.2m、現状深さ約2.0mである。覆土中からの遺物の検出はなかった。

11号井戸（写真26）

調査区北西側B-3・4グリッドに位置する、近代の井戸である。レンガと石積みにより築かれ、深さ約4.5m、上面の長軸3.5m、短軸3.0mを測る。上部レンガ積みの井戸側は内径2.2m、深さ約2.0mを測る。縦10.2cm、横22.5cm、高さ5.5cmの赤褐色のレンガを小口積みで26段積み上げている。下部の石積みも上部と同じく内径2.2mを測り、径30～40cmの玉石状の自然石を積み上げている。昭和20年代以降の機械部品が大量に廃棄されていた。

この造構の北西側10mの位置に、平成11年3月までレンガ造りの煙突（写真93）が残存しており、同じレンガ造りであることから、丸茂製糸創業時からの造構であることが判明した。

（3）掘立柱建物跡（図11、写真14）

F-11-2～4に位置する、N-18°Eに軸をとった正方形の掘立柱建物跡である。桁行6.5m、梁間6.5m、面積42.25m²を測る。8基（ビット276・278・285・302・417・465・496・497）の柱穴はい

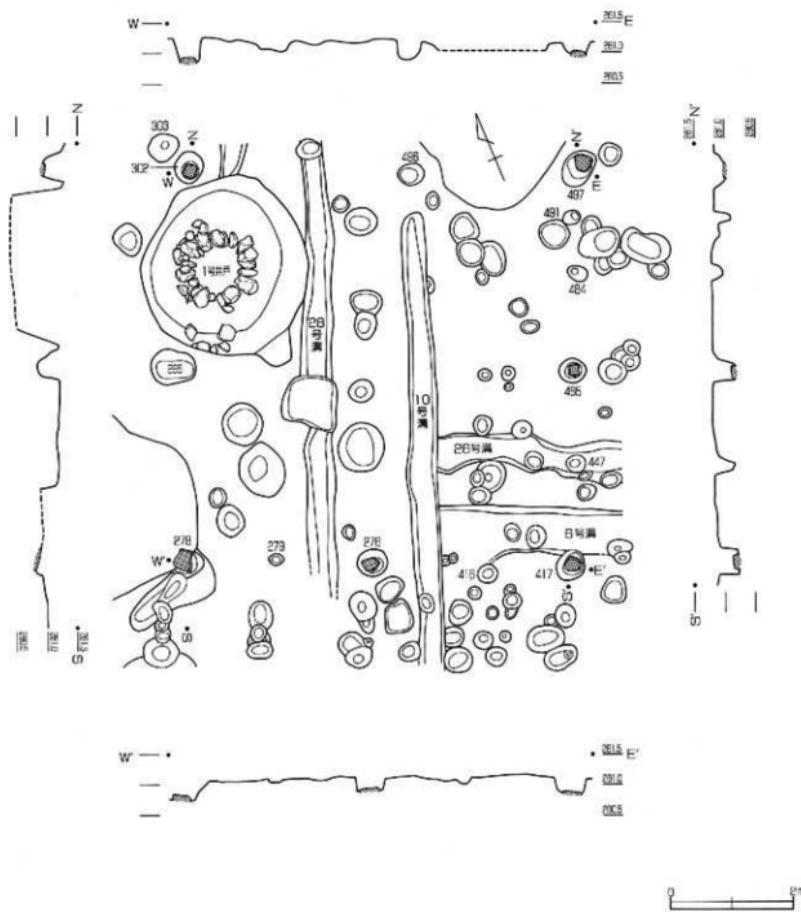


図11 A区掘立柱建物跡平面図・エレベーション

それも径50~70cm、深さ約30cmを測る。6基の柱穴の底部からは、径20~40cmの扁平な自然石が確認されている。図化していないが、ピット497から16世紀代の瀬戸美濃系陶器、さらにピット298では近世の磁器と陶器が検出された。建物跡は近世に位置づけられるが、機能は不明である。

(4) 埋桶

検出された13基は近世~近代の遺構である。桶部材は腐食が著しく、計測不能なものが多い。

埋桶1 (図12、写真27)

H-2グリッドに位置する。上部は長径約70cm、短径約60cm、下端はほぼ円形を呈し、径約50cm、深さ約10cmを測る。桶は径40cmの底板が確認され、5枚の板材に分割される。著しい腐食のため図化できなかったが、底板の東側上面から長さ約20cmの鎌状の金属製品が検出され、その上に径15~25cmの自然石4点が確認された。他に肥前系磁器2点、陶器1点、瓦片など19世紀代のものが検出されたが、小片のため図化は行っていない。

埋桶2 (図12、写真28)

E-2グリッドに位置する。上部は梢円形を呈し、東側の一部は擾乱を受けている。上面の長径70cm、短径38cmを測る。下部は長径46cm、短径33cm、深さ約15cm。桶は腐食が著しく、径約30cmの底板が確認された。図化していないが、18~19世紀代の肥前系磁器1点と、金属製品(図44-16~17)が検出されている。

埋桶3 (図12、写真29)

E・F-3グリッドに位置する。上面は円形を呈し、径約45cmを測る。下端は径約35cm、深さ12cmである。桶は径30cmの底板が確認され、2枚の板材に分割される。側板は残存していたが、腐食が著しく計測不能である。小片のため図化していないが、肥前系磁器・陶器・土器・瓦など、19世紀代の遺物が検出されている。

埋桶4 (図12、写真30)

I-2グリッド、埋桶12の西側に位置する。円形を呈し、上端径約60cm、下端径約50cm、深さ約35cmを測る。底板・側板は腐食が著しく、計測不能であった。出土遺物は確認されていない。

埋桶5 (図12、写真31・38)

E-5グリッドの埋桶8の北側に位置する。円形を呈し、上端径約45cm、下端径約40cm、深さ約15cmを測る。底板は確認されなかったが、厚さ1cm前後の側板と竹製の籠が検出されている。図化していないが、肥前系磁器・壺・瓦・土管・集緒器など19~20世紀にかけての遺物が検出されている。

埋桶6 (図12、写真32)

F-6グリッドに位置する。南西側はピットにより擾乱を受ける。掘方はほぼ円形を呈し、上端径約65cm、下端径約50cm、深さ約10cmを測る。底板は腐食が著しいが径50cmほどであろう。厚さは不明である。幅15cm、厚さ1cmの側板の断片が検出されているが、他に遺物は確認されていない。

埋桶7 (図12、写真33)

G-5グリッドに位置する。円形を呈し、上端径約50cm、下端径約45cm、深さ8cmを測る。長さ40cm、幅7cmの底板の断片が検出された。遺物は確認されていない。

埋桶8 (図12、写真34・38)

E-5グリッドの5号埋桶の南側に位置する。不整形を呈し、26号土坑とピット242が重複するが、新旧関係は不明。上端長径約1.1m、短径約60cm、深さ約20cmを測る。底板は腐食が著しかったが、径40cm程度と推定される。底板は3枚の板材に分割される。底板周辺から径13~20cmの自然石7点が検出された。遺物は緑色凝灰岩製の砥石(図34-242)1点と寛永通宝(図45-11)が検出された。

埋桶9 (図12、写真35)

H-5グリッドに位置する。ほぼ円形を呈し、上端径約70cm、下端径約60cm、深さ約20cmを測る。桶は径41cmの底板が確認された。底板は厚さ約1.5cmを測り、4枚の板に分割される。肥前系磁器・陶器製土瓶蓋・土製品・瓦など、19世紀代の遺物が検出されたが、小片のため図化していない。

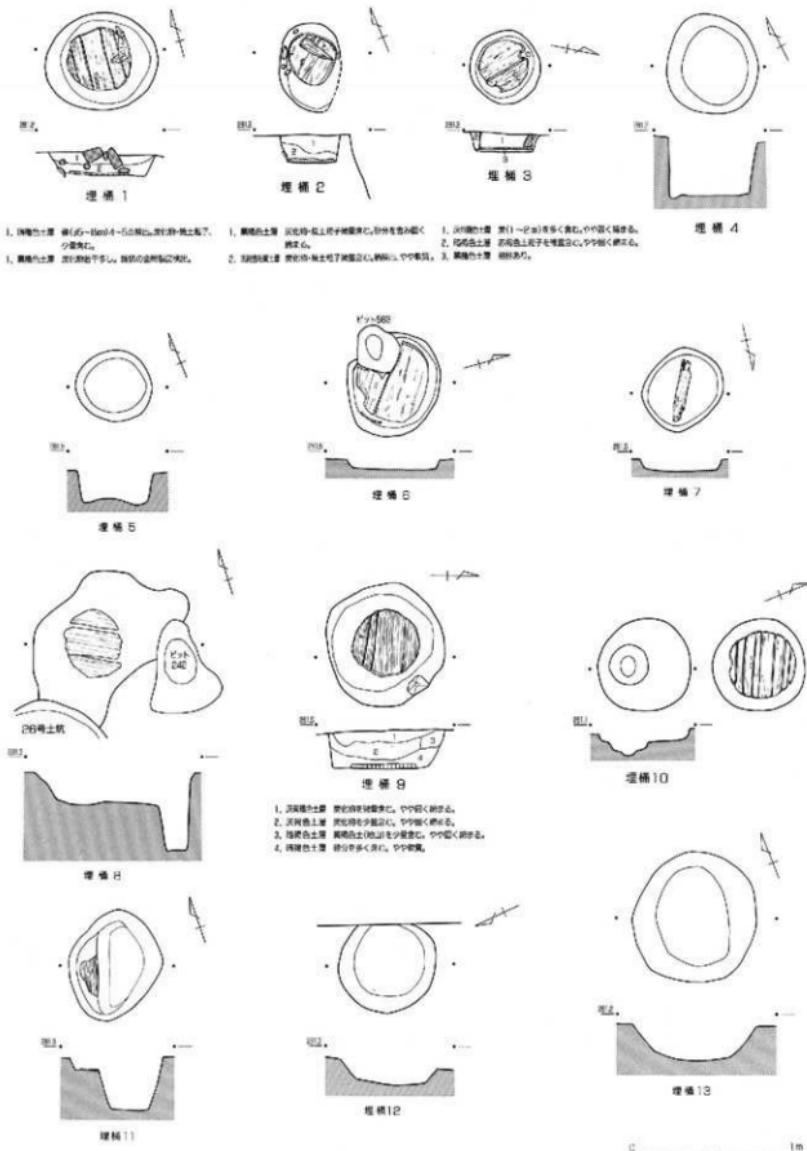


図12 A区埋桶1~13平面図・セクション・エレベーション

埋桶10 (図12、写真36)

B—5グリッドの11号井戸東側に近接する。円形を呈し、上端径56cm、深さ8cmを測る。底板は径約40cm、厚さ約1.5cmを測り、8枚の板に分割される。肥前系磁器1点と錢貨(図45—12)が検出されている。

埋桶11 (図12、写真37)

H—5グリッドに位置する。不整円形を呈し、上端長径70cm、短径58cm、下端は長径60cm、短径40cm、深さ45cmを測る。桶は腐食が著しく計測不能であった。遺物はなかった。

埋桶12 (図12)

I—2グリッドに位置する。円形を呈し、上端径約60cm、下端径約45cm、深さ約15cmを測る。桶は腐食が著しく、計測不能であった。遺物は確認されていない。

埋桶13 (図12)

G—2・3グリッドのライン上に位置する。円形を呈し、上端径約80cm、下端径約45~60cm、深さ約20cmを測る。桶は腐食が著しく、計測不能だった。遺物はない。

(5) 土 坑

土坑は26基が検出されている。時期・性格の不明なものが多いが、8号土坑は中世墓である。23・25号土坑は近世の水利造構、25号土坑は近世の地下室、26号土坑は池跡の可能性がある。ここでは、これら径約1mを越える掘り込みをすべて土坑に分類し記述する。

1号土坑 (図13、写真39・67)

F・G—2グリッドのライン上に位置する。不整形を呈する近世の土坑である。ピット262・277・250との重複関係については不明であるが、ピット278に切られる。長軸1.65m、短径0.7m、深さ20cmを測る。造構検出段階において肥前系磁器・瀬戸系陶器・土鍋など19世紀代の遺物が疊を伴って多数出土した。上層を除去した段階で、N—73°Eに軸をもつ長さ約1.9mの石列が検出されている。その間から19世紀代の棟瓦が多数出土した。19~20世紀前半の造構であるが、性格については不明である。

出土遺物(図33—226~237)は、いずれも18~19世紀代に比定される。長皿(227)は焼締ぎが見られる。鉢(228)は19世紀代の肥前系磁器である。小壺(232)、小鍋(233)、土釜(234)、鍋(235)などは台所用品である。軒平瓦は、寄棟部分に使用される三角形の瓦である。唐草文と菊文が見られ、19~20世紀前半にかけての瓦と考えられる。

2号土坑

B—3グリッドに位置する。ピット35に切られる。楕円形を呈し、長径0.9m、短径0.6m、深さ約25cmを測る。上面からは径約10~25cmの自然石多数検出され、覆土から繩文土器・肥前系磁器・瀬戸系陶器・瓦・錢貨(図45—8~9)が検出された。これらの遺物の岡化は行っていない。遺物から18世紀以降の土坑と考えられるが、性格は不明である。

3号土坑 (図13)

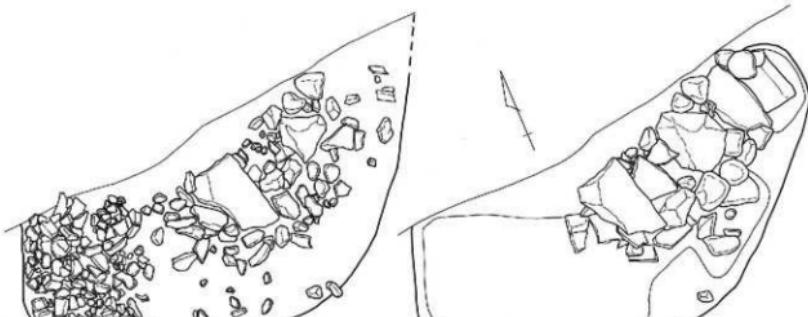
B—4グリッドに位置する。12号溝とピット88・89に切られる。楕円形を呈し、長径1.1m、短径0.7m、最深約0.4mを測る。上面では径約20cmの自然石8点が、底部からは径35cmの扁平な石1点が検出された。暗黒褐色土の覆土中には、部分的に炭化物の堆積が確認され、16世紀代に比定されるかわらけ5点が出土した。土坑は近世以前に位置づけられるが、性格については不明である。

4号土坑 (図13)

C—4グリッドに位置する。12号溝を切って検出された。楕円形を呈し、長径約0.73m、短径0.64m、深さ0.66mを測る。暗黒褐色土の覆土からは、径約10~20cmの自然石が検出されたが、遺物は未検出である。時期・性格については不明である。

5号土坑 (図15)

D—5グリッドに位置する。21号土坑を切る。楕円形を呈し、長径約0.9m、短径0.4m、深さ15cmを測る。覆土より径10~15cmの自然石数点が確認された。遺物はなく、時期・性格は不明である。



1号土坑換出状況

1号土坑石列換出

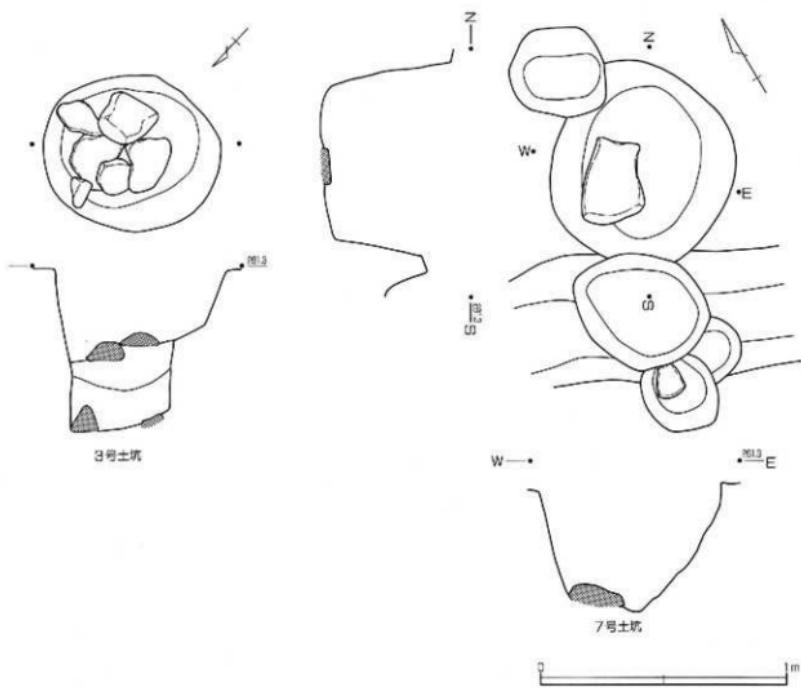


図13 A区1号・3号・7号土坑平面図・エレベーション

6号土坑

E-4グリッドに位置する。東側は擾乱を受けている。楕円形を呈し、長径約1.1m、短径0.54m、深さ17.5cmを測る。黒褐色土の覆土からは、17~18世紀の肥前磁器1点(図38-287)が検出された。遺構は18世紀以降に位置づけられるが、性格は不明。

7号土坑(図13、写真40)

F-4グリッドに位置する。楕円形を呈し、12号溝及びピット307・315に切られる。N-50°-Eに軸をもち、長径0.9m、短径0.7m、深さ約0.5mを測る。土坑底部から径45cmの扁平な自然石が出土した。造物は、16世紀代の瀬戸美濃系陶器片と北宋銭(図45-10)が検出されている。16世紀代の遺構であるが、性格は不明である。

8号土坑(図14、写真41・68)

G-5グリッドに位置する。楕円形を呈する中世の土坑墓である。北側はピット339、南側は溝跡に切られる。N-21°-Eに軸をとるものと考えられ、長径0.85m、短径0.60m、深さ約0.2mを測る。遺構北側では人骨頭部と歯、中央部から錢貨3枚(図45-5~7)、南側よりかわらけ(図34-238)が検出されている。覆土からは、15~16世紀の白磁片(239)が1点検出された。

9号土坑(図14)

G-5グリッドに位置する。楕円形を呈し、長径約0.9m、短径0.65m、深さ約17cmを測る。覆土は暗黒褐色土であり、かわらけと土器の小片と、釘(図44-15)が検出された。遺構の時期・性格は不明である。

10号土坑(図14)

I-4グリッドに位置し、遺構上面は近代の擾乱を受けていた。楕円形を呈し、長径約0.8m、短径0.6m、深さ約43cmを測る。土坑内からは、径30cmの扁平な自然石が確認されている。遺物は検出されず、遺構の時期・性格は不明である。

11号土坑(図14)

G-6グリッドに位置する。楕円形を呈し、遺構内には円形のピットが確認されている。長径0.85m、短径0.75m、深さ約18cmを測る。ピットは径8cm、深さ約15cmである。かわらけ・肥前系磁器・瀬戸系陶器・平瓦など19世紀代を下限とする小片が検出されている。遺構の性格は不明である。

12号土坑

G-6・7グリッドのライン上に位置する。円形を呈し、径約1.1m、深さ約25cmを測る。検出段階において、上面に径5~25cmの集石が見られた。肥前系磁器・擂鉢・平瓦・丸瓦・焼土塊が出土した。遺物の一部は熱を受けている。近世段階に位置づけられるが、遺構の性格は不明である。

13号土坑(図14)

H-9グリッドに位置する。N-73°-Wに軸をもつ、隅丸長方形の土坑である。上面は削平を受けしており、東西約1.0m、南北0.7m、深さ約0.1mを測る。ピット666に切られる。土坑内から瓦などが検出されており、近世の遺構と判断される。

14号土坑

G-1グリッドに位置する。ピット261に切られ、西側は近代の擾乱を受けている。円形を呈し、径約1.5m、深さ約0.4mを測る。肥前系磁器・瀬戸系陶器・かわらけ・瓦・荷絵櫛など近世遺物の小片が検出されている。

15号土坑

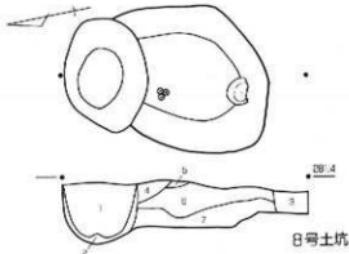
G-3グリッドに位置する。堀柵3・13に近接し、近代の28号溝に切られる。隅丸長方形を呈し、長軸0.9m、短軸0.85m、深さ約13cmを測る。遺物はなく、遺構の時期・性格は不明である。

16号土坑

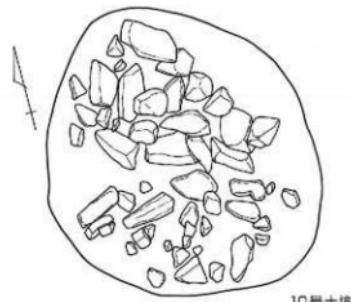
H-4グリッドに位置し、10号溝の東側に平行して検出された。長軸1.13m、短軸0.4m、深さ15cmを測る。遺物はなく、遺構の時期・性格は不明である。

17号土坑

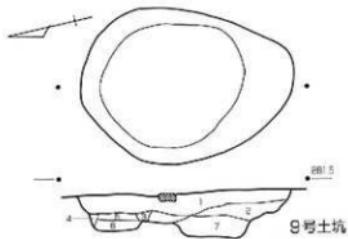
F-6グリッドに位置する。北側は擾乱を受け、ピット373に切られる。長軸1.2m、短軸0.6m、最



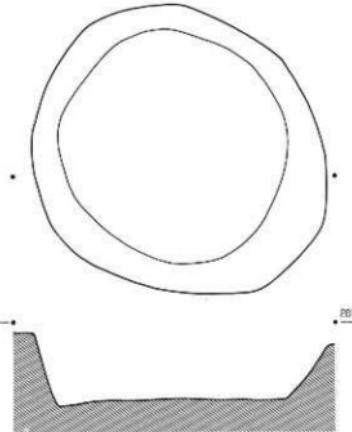
1. 黒褐色土層 深褐色・粉粒を含む。やや軟弱。(ピット)
 2. 黄褐色土層 黄褐色の砂質粘土。やや軟弱。(ピット)
 3. 黄褐色土層 黄褐色粘土をやや多量含む。やや堅く持まる。(路盤?)
 4. 黑褐色土層 黒褐色粘土を含む。やや堅く持まる。
 5. 黄褐色土層 黄褐色粘土を含む。やや固く持まる。
 6. 黄褐色土層 黄褐色粘土を含む。やや固く持まる。
 7. 黑褐色土層 黒褐色粘土を含む。やや弱く持まる。かわらけ碎片・結晶出土。



10号土坑



1. 沈没褐色土層 黒褐色粘土・白色浚子を多量含む。やや固く持まる。
 2. 黑褐色土層 黒褐色粘土を多量含む。やや軟弱があり。西側に現れる。
 3. 黄褐色土層 黄褐色粘土を含む。やや軟弱。
 4. 黄褐色土層 黄褐色粘土を含む。やや固く持まる。
 5. 黑褐色土層 黒褐色粘土を含む。やや固く持まる。
 6. 黄褐色土層 黄褐色粘土を含む。やや固く持まる。
 7. 黑褐色シルト層 黒褐色シルトを含む。やや固く持まる。



13号土坑

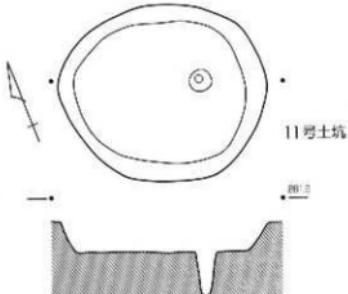


図14 A区8号・9号・10号・11号・13号土坑平面図・セクション・エレベーション

深10cmを測る。16世紀代の瀬戸美濃系鉄釉陶器・土製擂鉢・近世瀬戸系陶器・瓦・土器などの小片が検出された。近世18世紀以降の土坑であるが、性格は不明。

18号土坑

H-6グリッドに位置する。15号溝を切り、ピット194・604・721に切られる。東側は擾乱を受けている。北側19号土坑との重複関係は不明。長方形を呈し、N-21°-Eに軸を持つ。長軸2.6m、短軸0.58m、深さ20cmを測る。覆土は炭化物と砂分を少量含む黒色粘質土で、遺物は検出されていない。土坑の時期・性格は不明である。

19号土坑

H-8・9グリッドのライン上に位置する。東側の18号土坑との重複関係については不明である。南北1.5m、東西0.8m、深さ27cmを測る。中世のかわらけ小片や近代のレンガ片などが検出されている。遺物から近代の遺構と考えられる。

20号土坑

I-6グリッドに位置し、西側は擾乱を受ける。長軸0.7m、短軸0.4m、深さ5cmを測る。遺物は未検出であり、時期・性格は不明である。

21号土坑(図15、写真42)

D-4・5グリッドのライン上に位置する。N-21°-Eに主軸をとる。ピット225・226・228・229及び5号土坑に切られるが、ピット231-233との重複関係は不明。隅丸方形を呈し、径約1.9m、深さ約15cmを測る。出土遺物(図34-244-247)は、18世紀代以降に比定される。土製品(247)は明和9年(1765)～天保元年(1830)に鑄造された「南鐸二朱銀」の模造品である。中世の瀬戸美濃系陶器・棧瓦・焼土塊も検出されている。遺物の一部には焼錆びが見られ、19世紀代に廃絶した土坑と考えられる。

22号土坑(図15、写真42・69)

D-5グリッドに位置する。N-21°-Eに主軸をとる長方形の遺構である。ピット235に切られ、244を切る。ピット227との重複関係は不明である。長軸約1.9m、短軸約1.3m、深さ約35cmを測る。北東隅が一部突出する。内部は平坦面であるが、北西隅にテラス状の段差がある。

出土遺物(図35-248-263)は、いずれも18-19世紀代の遺物である。肥前系赤絵磁器(250)・香合(251)などは、武士層など比較的上層階級の所持品と考えられる。散り蓮華(252)は18世紀後半から出現した器種である。瓦(260-263)のほか土坑内から大量の棧瓦が検出されている。遺物の器種構成や大量の瓦が検出されたことから、武家屋敷の建物に伴う19世紀代の遺構と推定される。

23号土坑(図16、写真44・45・47・70)

G-7・8・9グリッドに位置する。擾乱のため遺構の全容は把握できなかった。13・15号溝を切り、4号溝に切られている。N-17°-Eに軸をもち、南北8.0m、東西は北側で1.5m、南側で2.5m、深さ約0.5mを測る。底部は平坦で、25号土坑とはほぼ同レベルである。覆土上面は礫に覆われ、礫内から近世遺物が大量に検出された。遺構下層部は25号土坑と類似する粘土質の堆積層である。

出土遺物(図36-264-280)は18-19世紀代にかけてのものが主体で、かわらけ・肥前系磁器・瀬戸系陶器・壺製擂鉢など生活用品が多く検出された。焼塩壺(278・279)は18世紀代に比定されるものと考えられる。瓦はいずれも小片のため図化していないが、19世紀代の棧瓦である。25号土坑と、土層の堆積状況や遺物の時期などに類似性が見られる。

24号土坑(図15、写真43-44)

G-H-6グリッドに位置する。N-69°-Wに軸をもち、長軸約6.5mを測る長方形の大規模土坑である。重複関係については東西方向の11号溝(近世)と21・22・23号溝(時期不明)、南北方向の10号溝と13・15号溝(時期不明)、ピット634・635・636を切り、ピット609と28号溝に切られる。ピット605・608・615・616・617・618・619・620・714の重複関係については不明である。遺構は2基の方形プランにより構成される。東側部分は東西4.0m、南北3.6m、深さ約0.7mを測る。南壁からは長さ約1mの杭が検出された。両プランの時期差については不明である。西側部分は2.5m四方の方形を呈し、最深0.25mを測る。両プランの段差部分北側には階段状のステップが見られる。

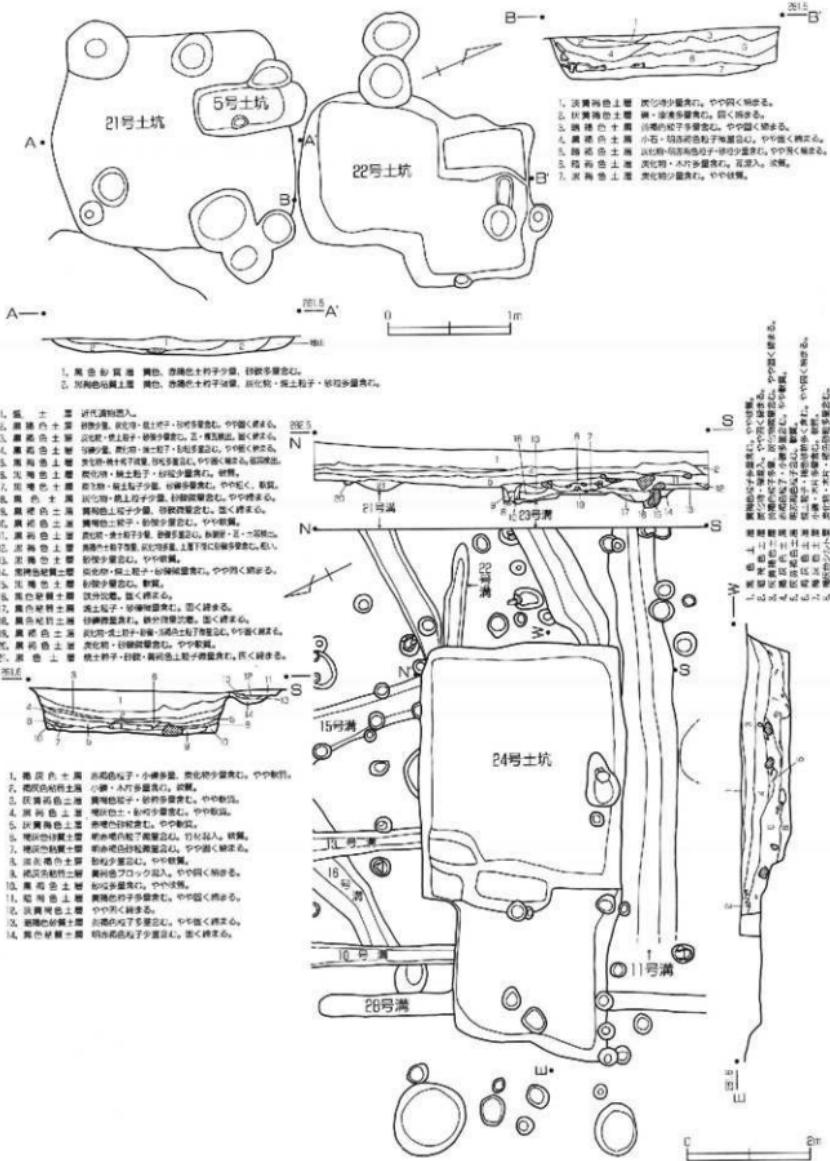


図15 A区5号・21号・22号・24号土坑平面図・セクション

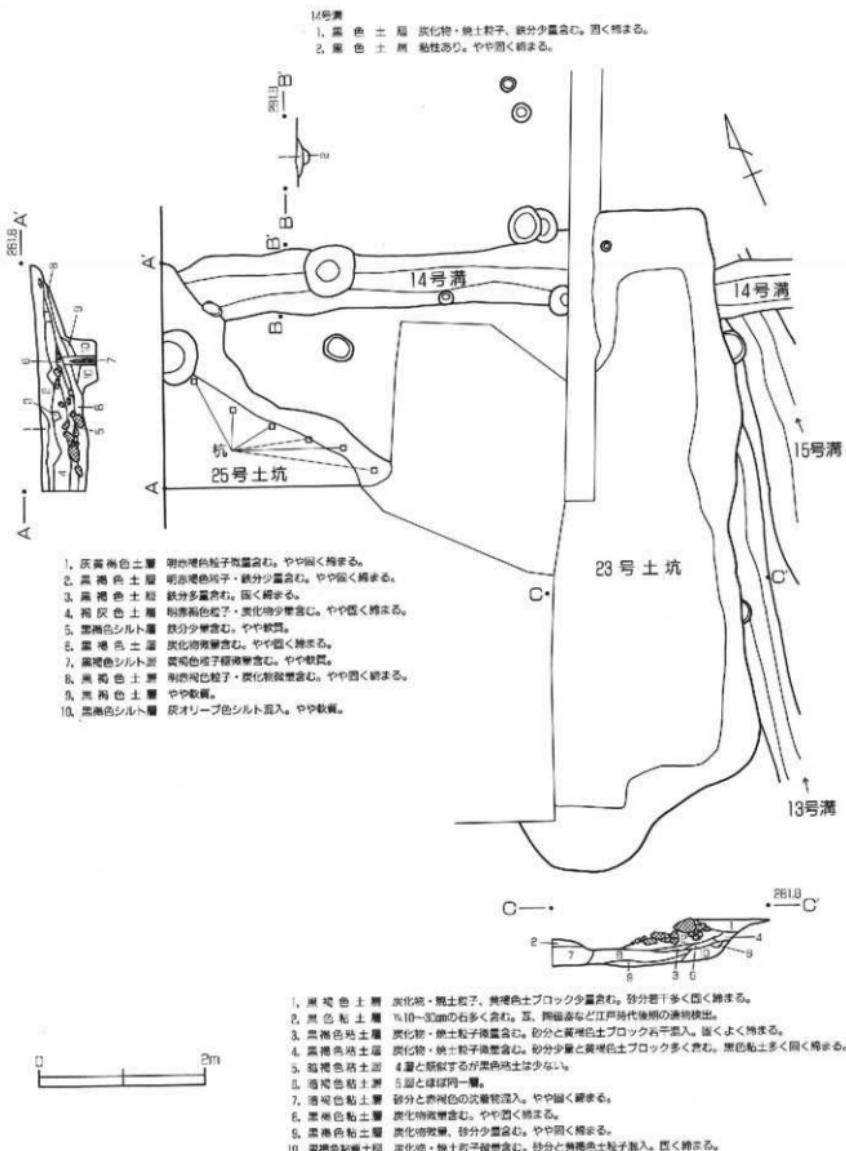


図16 A区23号・25号土坑平面図・セクション、14号溝セクション

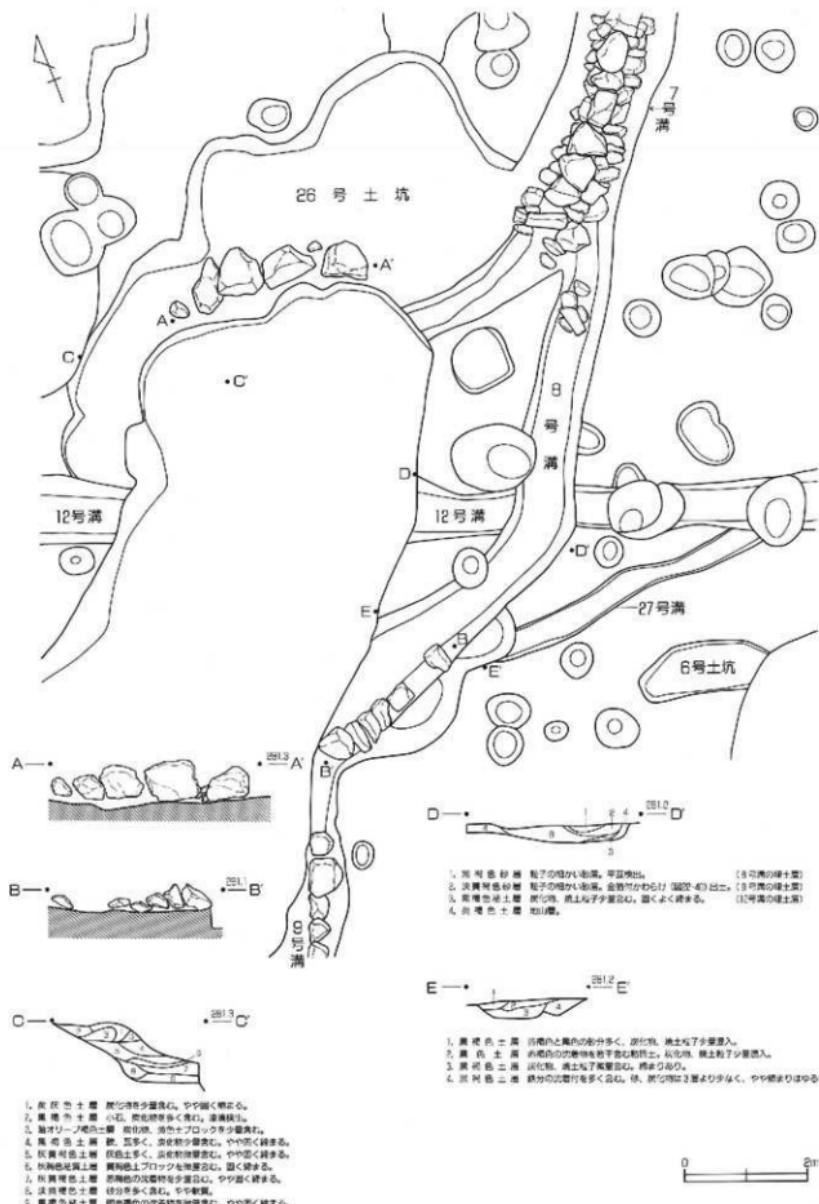


図17 A区 26号土坑、8号溝平面図・セクション・石列側面図

遺構は19世紀代に廃絶したものと考えられる。東側部分の遺構底部には粘質土が多く堆積しているが、遺構から外部への排水機能を伴う溝が確認されていないこと、さらに階段状の段差があることから、東京の近世遺跡で多く確認されている地下室遺構である可能性も考えられる。

質上からは、18~19世紀代の遺物（図37~281~286）が検出された。図化していないが肥前系磁器・小杉茶碗・瀬戸系陶器・土瓶蓋・平瓦・桶など、主に19世紀代の生活用品の小片が多數出土している。25号土坑（図16、写真44~46）

F-8・9グリッドに位置し、14号溝を切る。遺構西・南側が擾乱を受けているなど、遺構の全容は把握できなかった。上面はN-45°-Wに軸をとり、深さ約50cmを測る。下端には径約3cmの杭6本が、40~60cm間隔で検出された。遺物（図38~288~297）は、16世紀代からの近世の所産で、小杉茶碗（288）・肥前系磁器碗（293）など19世紀代のものが多い。かわらけ・肥前系磁器・瀬戸系陶器・壺型鉢・棟瓦などの小片も検出された。

23号土坑と同様な粘質土が堆積し、杭が確認されたことから、両土坑は一体の水利遺構と考えられる。19世紀代の遺物を含む疊に覆われており、この時期に埋設されたものと推定される。

26号土坑（図17）

D-E-4・5グリッドに位置し、南側は擾乱を受けている。北側の平面プランは蛇行状を呈し、長軸約4.3m、深さ約0.5mを測る。遺構中央部から長さ1.4mにわたり石列が確認された。石列は南側に面を持ち、加工された径20~40cmの安山岩4石が出土した。石列の裏込め部分から自然石や19世紀代の棟瓦などが多數検出された。遺構西側には、棟瓦を多數含む瓦溜まりが存在した。棟瓦の出土は、遺構の廃絶時が19世紀代であることを示唆する。遺構北東隅には7号溝が見られ、遺構底部に粘土質が堆積することから、池などの水利遺構と考えられる。

（6）ビット

727基が検出された。掘立柱建物跡の柱穴として（ビット276・278・285・302・417・465・496・497）が確認された。ビット533からは12cm四方の角柱（写真72）が検出されている。杭や底部に扁平な自然石が据えられたビットもあるが、規則的な配列は認められない。他のビットは、別掲「A区ビット観察表」にまとめた。

（7）その他

石積遺構（図18、写真48）

森下小路側のC-1・2グリッドに位置する。2.8m四方のプランで、内法は南北1.85m、東西1.95m、高さ約1mを測り、5~6段の石積みが回続する。石積みは径約25~30cmの玉石状の自然石を、落とし積みではば垂直に積む。底部から80cmの位置には、径約25cm、長さ1mの土管が南側の側溝へ通じる。内部から径約7cmの杭が2本直立して検出され、黒褐色泥質土が多く堆積していた。集結器・措輪など製糸工場設備の部品や、靴・缶・瓶など大正~昭和時代の遺物が検出されている。遺構は、堆積土と土管等から、汚水沈殿池等の機能を備えた製糸工場の水利施設と考えられる。

支柱状遺構（図18、写真49~50）

森下小路側F-E-1に位置する近代の遺構である。1・3号溝を切り検出された。支柱間は3.7mを測りほぼ道路と平行する。長さ1.2~1.5m、深さ30~40cmの十字状の掘り込みに、幅10cm、長さ1.0~1.1mの角材を十字状に組み、その交点に枘穴を穿ち径20cmの円柱が垂直に据えられている。円柱は四方から長さ約40cmの木片により支えられ、上面には径20~30cmの自然石が据えられていた。周辺からは近代の遺物が検出されていることから製糸工場関連の遺構と考えられる。

（8）遺物観察表

A区出土遺物を、別掲の表にまとめ、一覧化した。

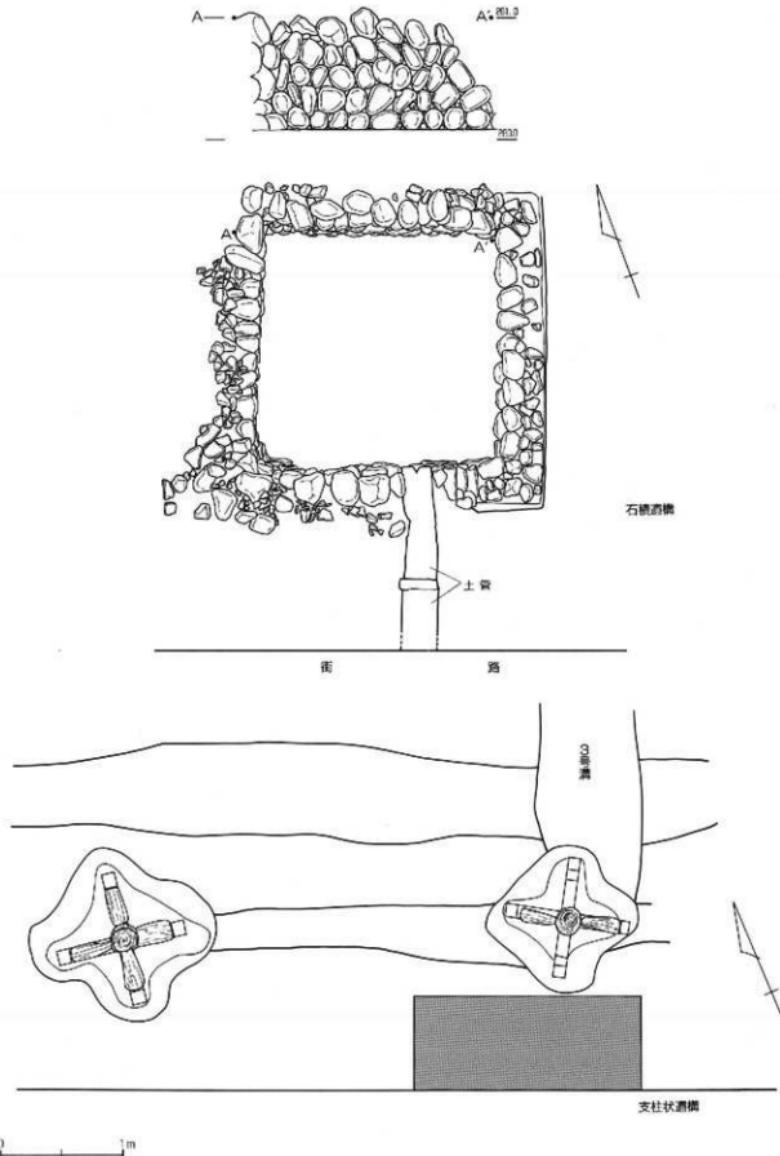


図18 A区石積造構・支柱状造構

表1 A区ピット觀察表①

番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係
1	B-1	楕円形	34	28	17	底面に平石 1号溝に切られる
2	C-1	円形	24	—	34	1号溝に切られる
3	C-1	円形	25	—	33	
4	C-1	円形	19	—	—	5を切る
5	C-1	不整円形	32	—	—	4に切られる
6	B-2	円形	31	24	20	瀬戸美濃系 鉄軸轆轤 焼土塊
7	B-2	楕円形	49	36	27	土器 焼土塊
8	B-2	円形	48	36	17	かわらけ
9	B-2	楕円形	56	41	79	底部に隙 10を切る
10	B-2	楕円形	—	42	9	9に切られる
11	B-2	不整円形	57	30	10	
12	B-2	円形	33	—	7	かわらけ
13	C-2	不整円形	33	—	45	3号井戸に切られる
14	B-2	楕円形	48	35	40	
15	B-2	円形	26	34	26	
16	B-2	円形	25	48	23	かわらけ
17	B-2	円形	27	—	20	かわらけ
18	C-2	楕円形	59	—	76	かわらけ 20号溝に切られる
19	C-2	円形	20	49	—	20号溝に切られる
20	C-2	円形	18	—	14	焼土塊
21	C-2	円形	30	—	17	
22	C-2	楕円形	38	—	7	
23	C-2	円形	29	—	23	
24	C-2	円形	25	—	12	
25	C-2	円形	29	—	39	底部に平石
26	C-2	楕円形	(22)	14	11	
27	B-3	円形	22	—	20	
28	B-3	楕円形	18	35	10	陶器(大窓3) 上部に埋
29	B-3	円形	24	—	5	
30	B-3	不整円形	48	—	13	
31	B-2	円形	33	—	9	
32	B-3	円形	30	—	30	
33	B-3	円形	35	—	37	
34	B-3	円形	28	—	37	
35	B-3	不整円形	43	—	36	2号土坑を切る
36	B-3	—	—	21	斐作(近世 平瓦浅造) 10号井戸に切られる	
37	C-2	円形	56	—	25	
38	B-1	円形	15	—	17	焼土塊 1号溝に切られる
39	C-3	円形	32	—	25	焼土塊 20号溝を切る
40	C-3	円形	18	—	32	
41	C-3	円形	31	—	29	
42	C-3	円形	30	—	19	20号溝を切る
43	C-3	円形	25	—	16	底部に埋 20号溝を切る
44	B-3	楕円形	20	13	—	
45	B-3	不整円形	—	26	—	8号井戸に切られる
46	B-3	円形	39	—	70	焼土塊
47	C-3	楕円形	36	18	28	
48	C-3	円形	26	—	9	かわらけ 上器
49	C-3	円形	30	—	39	かわらけ
50	C-3	楕円形	34	25	11	上器 亜文化 焼土塊 20号溝を切る
51	C-3	楕円形	—	—	10	染付(近世) 土器
52	C-3	円形	25	—	14	かわらけ 焼土塊
53	C-3	楕円形	47	33	21	底部に平石
54	C-3	不整円形	62	—	46	20号溝を切る
55	C-3	楕円形	40	—	—	
56	C-3	楕円形	19	—	32	
57	C-3	円形	26	—	14	
58	B-3	円形	17	—	34	
59	B-3	円形	29	—	16	
60	C-3	円形	15	—	22	
61	C-4	円形	34	—	26	かわらけ
62	B-4	円形	42	—	14	かわらけ 焼土塊 上部に埋
63	B-4	円形	51	—	20	平瓦(近世) 上部に埋
64	B-4	楕円形	33	25	27	
65	B-4	楕円形	(41)	34	11	12号溝に切られる
66	B-4	楕円形	(34)	30	24	かわらけ 底部に埋
67	B-4	楕円形	(46)	32	—	
68	C-3	楕円形	48	38	12	上部に埋 20号溝を切る
69	C-4	楕円形?	(31)	38	12	底部に平石 8号井戸に切られる
70	C-4	円形	29	—	4	
71	C-4	円形	39	—	23	かわらけ
72	C-4	円形	12	—	14	
73	C-4	楕円形	41	31	20	底部に埋
74	C-4	円形	14	—	33	
75	C-4	楕円形	25	19	49	
76	C-4	楕円形	35	30	36	かわらけ
77	C-4	楕円形	33	—	17	78号に切られる
78	C-4	楕円形	33	26	14	77・163を切る
79	C-4	円形	34	—	6	
80	C-4	楕円形	30	25	42	土器(香呑形) 焼土塊 底部に埋
81	C-4	円形	21	—	—	
82	C-4	円形	23	—	19	
83	C-4	円形	41	—	15	上部に埋
84	C-4	楕円形	35	28	13	焼土塊 上部に埋 18号溝を切る
85	C-4	不整円形	30	28	32	上部に埋
86	B-4	楕円形	45	35	—	上部に埋
87	B-4	楕円形	30	25	—	
88	B-4	楕円形	42	33	14	3号土坑を切る
89	B-4	不整円形	60	—	45	3号土坑を切る
90	B-3	—	—	—	—	29号井戸に切られる
91	B-4	楕円形	27	20	19	12号溝に切られる
92	B-4	不整円形	45	24	—	底部に埋 12号溝を切る
93	B-4	円形	29	—	—	底部に埋 12号溝を切る
94	C-4	楕円形	32	19	21	かわらけ 陶器 土器 焼土塊
95	B-3	—	—	—	41	
96	C-4	円形	28	—	19	
97	C-4	楕円形	35	25	39	かわらけ 焼土塊 底部に埋
98	C-4	—	—	18	—	17
99	C-4	円形	25	—	19	底器に埋
100	C-4	楕円形	—	—	20	
101	C-4	円形	23	—	44	底部に埋
102	C-4	楕円形	33	28	17	
103	B-4	楕円形	35	26	25	かわらけ 陶器 棘鉢 底部に埋
104	B-4	円形	31	—	13	
105	B-4	楕円形	37	25	25	17号溝を切る
106	B-4	楕円形	28	17	25	17号溝を切る
107	B-4	不整円形	45	—	17	かわらけ 焼土塊 17号溝を切る
108	C-4	円形	20	—	12	
109	C-4	円形	25	—	42	焼土塊
110	C-4	円形	21	—	16	17号溝を切る
111	C-4	円形	28	—	16	
112	C-5	円形	35	—	21	かわらけ
113	C-5	楕円形	38	29	24	17号溝を切る
114	C-4	楕円形	42	28	27	陶器 平瓦(近世)
115	C-4	楕円形	40	31	32	
116	C-5	不整円形	—	21	22	
117	B-4	—	61	39	23	
118	B-5	—	—	40	17	
119	B-4	楕円形	39	24	22	平瓦(近世) 120・726を切る
120	B-4	不整円形	32	—	4	119に切られる
121	B-5	円形	29	—	12	かわらけ 焼土塊
122	C-5	円形	23	—	16	

表2 A区ピット観察表②

番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複開示
123	C-5	円形	29	-	40	かわらけ 1器 207に切られる
124	C-5	円形	24	-	6	
125	C-5	円形	24	-	23	
126	C-5	円形	47	-	5	
127	C-5	円形	62	-	8	
128	B-5	楕円形	-	26	-	かわらけ 土器 底部に平石
129	B-5	不整円形	47	-	34	底部に塵
130	B-5	不整円形	62	-	18	
131	B-5	円形	42	-	21	底部に塵
132	C-5	不整円形	30	-	36	
133	C-5	円形	19	-	12	
134	C-5	円形	38	-	14	18号溝に切られる
135	C-5	楕円形	42	-	34	
136	C-5	円形	32	-	27	土器 焼土塊
137	C-5	楕円形	27	18	-	
138	C-5	不整円形	63	-	21	
139	D-1	楕円形	17	13	17	
140	D-1	楕円形	28	19	16	
141	D-1	円形	30	-	35	磁器(近世)
142	D-1	円形	28	-	38	
143	D-1	円形	28	-	35	
144	D-1	—	-	34	26	
145	D-1	—	-	37	11	5号溝を切る
146	B-3	楕円形	60	38	-	
147	D-1	—	-	14	27	上器
148	D-1	不整円形	35	22	-	杭 5号溝を切る
149	D-1	円形	42	-	29	5号溝を切る
150	D-1	不整円形	31	-	6	
151	D-1	楕円形	34	21	20	
152	D-1	楕円形	30	24	18	
153	E-1	楕円形	58	37	16	
154	E-1	楕円形	27	19	-	
155	E-1	楕円形	30	22	11	平瓦(近世)
156	E-1	楕円形	27	23	4	
157	E-1	円形	30	-	34	平瓦 平枝瓦(近世~近代)
158	E-1	円形	29	-	10	
159	E-1	楕円形	31	28	25	
160	E-1	楕円形	33	-	30	土器 平瓦 戻瓦 杭 161を切る
161	E-1	円形	37	-	12	160に切られる
162	B-3	楕円形	52	52	-	上部に塵
163	C-4	円形	12	12	12	焼土塊 底部に塵 78に切られる
164	B-4	不整円形	34	34	15	上部に塵 17号溝を切る
165	E-2	楕円形	40	25	9	
166	E-2	不整円形	84	65	17	鉢輪陶器 杭
167	E-2	楕円形	70	58	25	底部に平石
168	E-2	不整円形	47	-	27	かわらけ
169	F-2	不整円形	70	-	54	
170	E-2	円形	28	-	25	
171	E-2	円形	30	-	13	6号溝に切られる
172	E-2	円形	39	-	37	
173	D-2	円形	35	-	18	
174	D-2	不整円形	29	-	39	
175	D-2	楕円形	33	25	5	
176	D-2	楕円形	38	29	12	
177	D-3	楕円形	40	33	6	
178	D-3	楕円形	33	22	6	19号溝に切られる
179	D-3	楕円形	27	21	7	
180	D-3	楕円形	43	33	17	
181	D-3	円形	38	-	35	磁器(近世)
182	D-3	楕円形	21	16	10	
183	D-3	楕円形	43	26	11	
番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複開示
184	D-3	円形	17	-	6	
185	E-3	楕円形	36	30	-	
186	E-3	—	-	-	23	かわらけ 瓦 上器
187	E-3	楕円形	40	-	15	陶器 土器 磁器
188	E-3	円形	43	-	-	
189	E-3	円形	40	-	48	
190	E-3	円形	33	-	4	レンガ
191	E-3	円形	20	-	6	
192	E-3	円形	33	-	12	かわらけ
193	E-3	円形	25	-	26	
194	E-3	円形	40	-	10	上器 18号土坑を切る
195	E-3	不整円形	39	-	6	土器 平枝瓦
196	E-3	円形	22	-	12	
197	B-4	楕円形	16	19	10	
198	E-3	不整円形	39	-	26	窯口/瓦礫系陶器 かわらけ
199	E-3	楕円形	35	28	10	
200	E-3	円形	38	-	19	かわらけ 底部に平石
201	E-3	円形	41	-	-	
202	E-3	円形	25	-	24	
203	E-3	楕円形	27	21	-	上器
204	E-4	円形	30	-	16	底部に塵
205	E-4	円形	32	-	10	磁器
206	C-4	不整円形	33	-	9	17号溝を切る
207	C-5	円形	24	-	12	123を切る
208	E-4	楕円形	19	17	6	
209	E-4	楕円形	39	30	26	
210	E-4	円形	30	-	14	
211	D-1	円形	37	-	24	
212	E-4	—	-	-	27	
213	E-4	—	-	-	12	
214	E-4	円形	30	-	24	
215	E-4	円形	25	-	9	
216	E-4	楕円形	48	38	40	
217	D-4	楕円形	32	27	-	
218	D-4	楕円形	30	24	21	かわらけ 土器
219	C-5	円形	20	-	15	17号溝を切る
220	E-4	楕円形	77	55	45	底部に平石 瓦 8号溝に切られる
221	E-4	—	-	27	6	
222	E-4	不整円形	57	-	47	陶器 土器 底部に塵
223	E-4	不整円形	51	-	9	21号上坑を切る
224	E-4	円形	30	-	40	
225	D-4	円形	50	-	57	外輪縞陶器(近世) 21号上坑を切る
226	D-4	円形	31	-	22	21号上坑を切る
227	D-5	円形	23	18	50	
228	D-5	円形	38	-	13	21号上坑を切る
229	D-5	不整円形	39	-	30	21号上坑を切る
230	D-1	—	-	23	26	磁器
231	D-5	円形	54	-	22	上器 底部に塵
232	D-5	円形	30	-	15	土器 かわらけ 上器 底部に塵
233	D-5	円形	40	-	40	染付 平枝瓦(近世) 底部に塵
234	D-5	楕円形	37	29	29	
235	D-6	楕円形	42	33	16	底部に塵 22号土坑・236を切る
236	D-5	円形	46	-	24	磁器(買入・近世) 底部に塵
237	E-3	不整円形	37	29	28	
238	E-5	不整円形	55	-	16	上器 焼土塊
239	E-5	楕円形	39	30	37	
240	D-5	楕円形	37	28	15	上器 染付(タコ唐草) 底部に塵
241	D-5	円形	43	-	-	釘付 陶器 瓦 底部に塵
242	E-5	不整円形	59	67	52	焼土塊
243	D-5	円形	23	-	-	
244	D-5	円形	30	-	22	22号土坑に切られる

表3 A区ピット観察表③

番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係	番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係						
245	D-5	小整円形	55	-	42	九頭(火薬2) 陶器 青磁瓦 底部に埋	306	F-4	円形	48	-	28							
246	D-5	不整円形	23	-	7		307	F-4	小整円形	56	39	5	支付 半瓦(近世) 286-308-7号坑を切る						
247	E-5	円形	30	-	18		308	F-4	不整円形	37	-	43	上層 286を切り307に切られる						
248	E-5	不整円形	34	-	25	土製品 水晶	309	F-4	円形	29	-	11							
249	E-5	精円形	27	21	-		310	G-4	不整円形	65	-	66	12号坑を切る						
250	G-2	円形	25	-	25		311	G-4	精円形	55	45	-	縫合						
251	E-5	円形	25	-	21	底部に埋	312	G-4	円形	54	-								
252	E-5	円形	20	-	-		313	G-4	円形	34	-	-							
253	E-5	円形	30	-	21	土製品(釘付)	314	G-4	円形	25	-	-							
254	E-5	不整円形	39	-	19	底部に埋	315	F-4	不整円形	40	-	204	砾石 平瓦(近世) 7号坑を切る						
255	E-5	精円形	18	10	8		316	G-5	精円形	55	45	33							
256	F-1	楕円形	56	46	41	底部に埋 瓦 桃	317	F-5	円形	33	-	13							
257	E-5	-	14	-	24	11	318	F-4	不整円形	74	-	12	陶器 粘付						
258	E-5	南凹形	44	27	8		319	E-4	不整円形	43	-	13							
259	G-1	円形	48	-	26		320	E-4	不整円形	40	-	6							
260	G-2	不整円形	66	-	48	底部に埋	321	E-4	不整円形	50	-	25	白磁 七錠						
261	G-2	円形	58	-	39	焼土塊 底部に埋 14号坑を切る	322	F-4	楕円形	30	25	13							
262	G-2	円形	27	-	12		323	F-4	円形	26	-	33							
263	G-2	楕円形	45	30	19	底部に埋	324	F-4	不整円形	85	-	25							
264	G-2	円形	27	-	-	底部に埋	325	F-4	円形	17	-	13							
265	G-2	小整円形	-	41	81		326	F-4	円形	23	-	21	石英						
266	G-2	楕円形	50	40	38		327	F-4	楕円形	48	34	35							
267	G-2	円形	48	-	33		328	F-4	楕円形	50	34	10							
268	G-2	不整円形	45	-	40		329	G-4	楕円形	26	19	17							
269	G-2	円形	16	-	27		330	F-5	円形	30	-	37							
270	G-2	円形	39	-	10		331	F-5	小整円形	32	-	15							
271	G-2	-	-	-	-		332	F-5	円形	40	-	19	染付 平瓦						
272	G-2	楕円形	37	28	33	かわらけ	333	F-5	楕円形	78	50	13	平瓦(近世)						
273	G-2	精円形	-	25	12		334	F-5	円形	23	-	39							
274	G-2	不整円形	58	-	14	かわらけ 天目茶碗 逸土塊 赤絵 染付	335	F-5	円形	25	-	27							
275	G-2	不整円形	50	-	49		336	G-5	円形	34	-	23	かわらけ 上製品 黒曜石 上部に埋						
276	G-2	円形	51	-	32	底部に半石	337	F-5	円形	24	-	14							
277	G-2	不整円形	-	28	37	軽轍 半瓦(近世) 278号坑を切る277号坑に埋れる	338	F-5	円形	21	-	19	かわらけ 半瓦(近世)						
278	G-2	円形	47	-	17	平石 1号坑を切る277号坑に埋れる	339	G-5	楕円形	51	38	24	8号坑を切る						
279	G-2	楕円形	26	19	6		340	G-5	楕円形	40	35	14							
280	G-2	円形	28	-	29		341	G-5	円形	27	-	21							
281	G-2	円形	43	-	34	焼土塊	342	G-5	楕円形	35	26	22							
282	G-2	円形	34	-	10		343	G-5	円形	19	-	14							
283	G-2	不整円形	92	-	21		344	G-5	円形	58	-	12							
284	F-1	不整円形	35	-	8	上部に埋 桃	345	F-5	円形	20	-	10							
285	G-3	精円形	77	57	46	陶器 染付 磁器 刺	346	F-5	円形	29	-	14							
286	F-4	-	-	-	28	かわらけ 土器 燃土塊 307-308号坑に埋れる	347	F-5	円形	30	-	29							
287	F-5	円形	-	-	19		348	F-5	楕円形	72	46	15							
288	G-3	楕円形	43	34	15		349	F-5	-	-	32	13							
289	F-3	円形	27	91	32	上層	350	F-5	円形	25	-	16	平瓦(近代)						
290	F-3	不整円形	54	-	13	磁器	351	F-6	楕円形	25	19	50							
291	F-5	円形	25	-	11		352	F-5	円形	15	-	8							
292	G-3	不整円形	43	37	32	焼土塊 底部に埋	353	F-5	円形	31	-	10							
293	G-3	不整円形	37	-	-		354	F-5	円形	26	-	22							
294	F-3	円形	39	-	17		355	G-5	円形	47	-	12	黒曜石						
295	F-3	不整円形	50	-	14		356	G-5	楕円形	48	-	13	10号坑に埋れる						
296	F-4	円形	28	-	-		357	G-5	楕円形	48	41	24							
297	F-4	円形	35	-	13		358	G-5	円形	19	-	7							
298	G-4	小整円形	58	47	47	染付 陶器 半瓦	359	G-5	円形	20	-	15							
299	G-4	円形	27	-	-		360	G-5	楕円形	32	15	17							
300	F-4	円形	27	-	15		361	G-5	楕円形	42	32	15							
301	F-4	不整円形	45	-	17		362	G-5	楕円形	33	18	11							
302	G-4	円形	47	-	48	底部に半石	363	G-5	円形	70	56	53	土器						
303	G-4	不整円形	56	-	53	五輪塔(火輪)	364	G-5	円形	39	-	13							
304	G-4	円形	55	-	9	磁器	365	E-5	円形	27	-	6							
305	F-4	精円形	58	47	44		366	F-5	楕円形	60	46	9	焼土塊						

表4 A区ピット観察表④

番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係	番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係
367	F-5	円形	36	-	10	瀬戸美濃系陶器	428	I-2	円形	22	-	16	
368	F-5	円形	26	-	44	かわらけ	429	I-2	円形	18	-	13	
369	F-5	円形	32	27	50	かわらけ	430	I-2	円形	17	-	8	
370	F-5	楕円形	45	31	39	7号溝に切られる	431	I-2	円形	18	-	-	
371	F-5	円形	28	-	4		432	I-2	円形	19	-	6	
372	F-5	不整円形	56	-	19	底部に埋	433	H-2	楕円形	37	-	15	
373	F-5	円形	33	-	12	17号土坑を切る	434	H-2	円形	26	29	45	
374	F-5	椭円形	40	30	25	かわらけ(江戸時代)	435	H-2	円形	33	-	11	
375	F-5	円形	33	-	19		436	H-2	不整円形	34	-	9	
376	F-5	楕円形	34	26	41		437	H-2	楕円形	23	14	6	
377	F-7	-	-	-	7		438	H-2	楕円形	33	27	12	陶器 瓦皿(大窓2)
378	G-5	円形	28	-	36	平瓦 28号溝に切られる	439	H-2	円形	26	-	29	
379	G-6	円形	38	-	21		440	H-2	円形	17	-	5	
380	H-1	円形	45	-	26		441	I-2	円形	33	-	41	
381	H-1	円形	50	-	27		442	I-2	円形	38	-	-	
382	H-1	不整円形	30	-	-		443	F-4	円形	29	-	36	
383	H-1	円形	34	-	30	底部に埋	444	I-2	楕円形	24	19	11	杭
384	H-2	円形	48	-	24	ヒュル かわらけ 施土地 底部に埋	445	I-2	円形	31	-	21	
385	H-2	楕円形	30	23	-		446	H-2	円形	29	-	29	
386	H-2	不整円形	40	-	34	底部に埋	447	H-2	円形	33	-	30	
387	H-2	円形	28	-	24		448	H-2	楕円形	26	18	9	
388	H-2	円形	33	30	10		449	I-2	不整円形	37	-	16	底部に埋
389	H-2	円形	18	-	7		450	I-3	楕円形	26	22	3	
390	H-2	円形	19	-	12		451	I-2	楕円形	-	16	-	
391	H-2	円形	20	-	36		452	I-2	円形	26	-	-	
392	H-2	楕円形	65	46	35	中世 濱戸里 底部に埋	453	I-3	楕円形	30	14	4	
393	H-2	楕円形	56	35	21	底部に埋	454	H-3	円形	30	-	24	
394	H-2	円形	38	-	42	壊土塊	455	H-3	円形	30	18	50	
395	F-6	円形	28	-	17		456	H-3	楕円形	22	-	18	
396	F-2	不整円形	39	-	24	277を切る	457	H-3	円形	24	-	18	
397	H-2	不整円形	83	-	41	平瓦(近世)	458	I-3	円形	28	14	22	
398	H-2	-	28	-	-		459	I-3	楕円形	19	-	-	
399	H-2	楕円形	30	26	29	上縁 磁器 陶器 上器	460	I-3	不整円形	24	23	26	陶器
400	I-2	円形	36	-	22	底部に埋	461	I-3	楕円形	33	-	10	
401	I-2	円形	26	-	19	底部に埋	462	II-3	円形	19	-	27	鉄棒擂鉋
402	I-2	不整円形	34	-	31	底部に埋	463	H-3	円形	22	-	26	
403	I-2	円形	40	-	51		464	II-3	円形	13	-	6	
404	I-2	楕円形	36	30	41		465	H-3	円形	40	-	44	底部に平石
405	I-2	円形	22	-	23	底部に埋	466	II-3	円形	40	-	44	
406	I-2	楕円形	23	17	19		467	H-3	-	-	-	12	かわらけ
407	I-2	楕円形	27	18	27	杭	468	I-3	円形	35	-	27	
408	I-2	円形	20	-	22	瀬戸美濃系陶器	469	I-3	円形	26	-	14	
409	I-2	楕円形	28	24	24	かわらけ 底部に平石	470	I-3	円形	21	-	8	
410	I-2	楕円形	31	-	31		471	I-3	円形	18	-	7	
411	H-2	円形	20	-	9		472	I-3	円形	22	15	11	底部に埋
412	II-2	円形	29	-	12		473	I-3	円形	51	-	33	
413	H-2	-	17	-	4		474	H-3	楕円形	33	23	18	
414	H-2	円形	18	-	-	壊土塊 丸瓦	475	H-3	円形	30	-	39	
415	H-2	円形	23	-	-		476	H-3	円形	42	-	64	
416	II-2	楕円形	35	28	30		477	I-3	円形	14	-	10	
417	H-2	不整円形	53	-	36	底部に平石	478	I-3	円形	22	-	17	
418	II-2	不整円形	40	-	49	瀬戸美濃系陶器 瓦 底部に埋	479	II-3	円形	27	-	-	かわらけ 10号溝に切られる
419	H-2	円形	28	-	34	砥石	480	H-3	円形	25	-	4	
420	I-2	楕円形	37	27	-		481	II-3	楕円形	55	45	18	
421	I-2	円形	18	-	12		482	H-3	円形	43	-	30	底部に埋 杭
422	I-2	楕円形	50	-	23		483	II-3	円形	50	-	26	
423	H-2	楕円形	30	26	12	かわらけ	484	H-3	楕円形	35	24	26	
424	H-2	楕円形	38	30	29		485	II-3	円形	46	-	14	
425	H-2	楕円形	40	-	13	磁器	486	H-3	不整円形	81	-	33	染付 内塗外青 灯明加 陶器 土器
426	I-2	円形	18	-	30		487	I-3	円形	35	-	20	
427	I-2	楕円形	30	18	27		488	H-3	不整円形	74	46	34	上部 灯明加 陶器

表5 A区ピット觀察表⑤

番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係	番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係	
489	H-3	円形	33	39	12		550	I-5	円形	24	—	—		
490	I-3	楕円形	43	36	43	鉄軸灯明皿 丸瓦	551	I-5	精円形	36	—	33		
491	H-3	円形	24	—	27		552	H-5	円形	33	—	26	かわらけ	
492	H-3	円形	34	—	27		553	H-5	不整円形	62	—	8		
493	H-4	円形	17	—	12		554	I-5	精円形	27	20	27		
494	I-3	円形	41	—	40	上器 染付	555	I-5	楕円形	39	30	12		
495	H-4	円形	23	—	17		556	I-5	円形	35	—	32	10号溝に切られる	
496	H-4	楕円形	45	35	32		557	I-5	円形	23	—	17		
497	II-4	楕円形	67	46	29	陶器 天日茶碗か? 底部に平石	558	I-5	円形	21	—	16		
498	H-4	精円形	40	—	28	底部に平石	559	I-5	円形	22	—	19		
499	II-4	円形	38	—	17	底部に埋	560	I-5	精円形	40	36	30		
500	I-4	円形	22	—	18		561	I-5	不整円形	50	—	24		
501	I-4	円形	17	—	11		562	H-5	精円形	43	29	45	かわらけ	
502	I-4	円形	20	—	29		563	H-5	円形	21	—	20	銅鏡	
503	I-4	円形	23	—	25		564	H-5	円形	29	—	20		
504	I-4	円形	39	—	42		565	H-5	円形	38	—	22		
505	I-4	円形	33	—	40	かわらけ	566	I-5	円形	40	—	26	上器 底部に埋	
506	I-4	楕円形	18	40	—	かわらけ	567	I-5	円形	22	—	10	24号溝に切られる	
507	I-4	円形	26	—	40		568	D-6	円形	29	—	12	上器 底部に埋	
508	I-4	不整円形	85	50	60		569	D-6	精円形	43	32	46	底部に埋	
509	F-4	円形	21	—	16		570	D-6	円形	28	—	20		
510	H-4	円形	20	—	—		571	E-6	精円形	33	27	13		
511	H-4	円形	11	—	16		572	E-6	円形	43	—	32		
512	I-4	精円形	27	17	24	底部に埋	573	E-6	円形	34	—	15	底部に埋	
513	I-4	楕円形	40	30	32	底部に埋	574	E-6	精円形	40	29	45		
514	I-4	円形	29	—	24		575	E-6	円形	21	—	8		
515	I-4	円形	23	—	38	土器	576	E-6	精円形	23	17	6		
516	H-5	楕円形	63	45	41	漁戸 平瓦	577	E-6	円形	31	—	20	底部に埋	
517	H-5	円形	30	—	43		578	E-6	精円形	30	20	13		
518	H-5	精円形	35	30	31	かわらけ 染付 平瓦	579	E-6	円形	36	—	11		
519	H-5	円形	27	—	7		580	F-5	円形	21	—	30	かわらけ 燃土塊	
520	H-5	円形	34	—	37	染付	581	F-5	楕円形	27	22	34	平瓦	
521	H-5	円形	33	—	28		582	F-5	精円形	37	27	25		
522	I-5	円形	34	—	18		583	F-5	楕円形	35	31	14	堤柵6を切る	
523	F-4	円形	22	—	16		584	F-6	円形	40	—	21		
524	I-5	円形	30	—	17		585	F-6	精円形	30	24	50		
525	F-4	不整円形	39	—	19		586	F-6	円形	31	—	41		
526	I-5	円形	28	—	19		587	F-6	円形	24	—	24	4分溝に切られる	
527	II-5	楕円形	42	32	36		588	F-6	精円形	44	29	32	平瓦 斧平瓦(近世) 底部に埋	
528	I-5	円形	25	—	31		589	F-6	円形	23	—	10		
529	I-5	楕円形	30	—	36		590	F-6	円形	30	—	20		
530	I-5	円形	16	—	37		591	F-6	円形	40	—	17	平瓦(近世)	
531	I-5	円形	28	—	38		592	F-6	円形	28	—	21		
532	H-5	—	—	—	35	10号溝に切られる	593	F-6	円形	54	—	30	塗付 鉄袖陶器 土器	
533	II-5	円形	37	—	46	軒平棟丸角柱	594	F-6	円形	25	—	17		
534	H-5	円形	53	—	16	10号溝に切られる	595	F-6	円形	29	—	21	かわらけ	
535	II-5	円形	34	—	47		596	F-6	円形	32	—	32	かわらけ 陶器 レンガ 底部に埋	
536	H-5	円形	40	—	25	上器	597	F-7	円形	18	—	8		
537	II-5	不整円形	47	43	36	かわらけ 金葉巻足型器 陶器 平瓦 丸瓦	598	F-7	精円形	38	27	9		
538	H-5	円形	30	—	24		599	F-7	円形	35	—	38		
539	II-5	不整円形	56	—	17		600	F-7	円形	42	—	25	陶器 杖	
540	H-5	円形	50	—	45		601	F-7	円形	33	—	14		
541	II-5	不整円形	55	—	33	磁器	602	F-7	精円形	—	41	29		
542	H-5	円形	50	—	16		603	G-6	円形	22	—	41		
543	H-5	不整円形	55	—	30		604	H-8	円形	40	—	18	18号坑を切る	
544	I-5	精円形	42	35	38	染付(高) 平瓦 15号溝・549を切る	605	G-6	円形	29	—	17	上器 陶器 茶匙	
545	H-5	円形	37	—	18		606	G-6	円形	31	—	10		
546	H-5	円形	40	—	16	陶器(買入有り) 底部に埋	607	G-6	円形	35	—	50	かわらけ 漁戸 天蓋系乳頭 石製 直字瓦	
547	I-5	円形	29	—	28		608	G-6	円形	30	—	22		
548	I-5	精円形	42	35	26		609	G-6	円形	30	—	24	28分溝を切る	
549	I-5	楕円形	44	32	44	平瓦 544に切られる	610	G-6	円形	23	—	13		

表6 A区ピット遺物表⑥

番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係
611	G-6	円形	28	-	15	
612	G-6	円形	41	-	11	
613	G-6	楕円形	50	38	5	
614	G-6	楕円形	27	19	10	
615	G-6	不整円形	40	-	21	
616	G-6	楕円形	39	30	23	
617	H-6	楕円形	23	15	23	
618	H-6	円形	31	-	21	
619	H-6	円形	30	-	37	底部に繩
620	H-6	楕円形	20	13	32	
621	H-6	円形	31	-	28	
622	I-6	円形	40	-	23	かわらけ
623	I-6	円形	29	-	13	23号溝に切られる
624	I-6	円形	25	-	15	
625	I-6	不整円形	40	-	17	
626	I-6	不整円形	51	-	29	
627	I-6	円形	51	-	10	
628	I-6	-	-	-	22	底部に繩 23号溝に切られる
629	I-6	楕円形	30	26	19	
630	G-7	楕円形	37	30	33	
631	G-7	円形	35	-	16	
632	G-7	円形	34	-	19	
633	G-7	円形	53	-	15	染付 磁器
634	H-7	-	-	-	12	24号七坑に切られる
635	H-7	円形	26	-	33	24号土坑に切られる
636	H-7	円形	25	-	19	24号土坑に切られる
637	I-7	円形	34	-	15	底部に繩
638	I-7	円形	32	-	12	繩
639	H-7	円形	35	-	17	
640	H-7	円形	24	-	22	
641	H-7	不整円形	41	-	10	
642	H-7	円形	25	-	7	
643	H-7	楕円形	25	21	12	13号溝を切る
644	H-7	円形	30	-	10	
645	H-7	円形	18	-	7	
646	H-7	楕円形	68	51	13	丸皿か?
647	H-7	円形	19	-	7	16号溝を切る
648	H-7	円形	57	-	5	陶器 16号溝を切る
649	I-7	円形	33	-	35	
650	I-7	円形	28	-	32	
651	I-7	楕円形	27	22	23	染付
652	I-7	円形	28	-	15	底部に繩 16号溝を切る
653	I-7	円形	28	-	20	底部に繩
654	I-7	円形	27	-	7	16号溝を切る
655	G-8	-	-	-	6	杭
656	G-8	円形	14	-	14	
657	G-8	楕円形	41	35	30	
658	G-8	円形	26	-	-	
659	I-8	円形	37	-	19	十器 底部に繩 16号溝を切る
660	I-8	-	24	-	9	
661	I-8	-	(50)	-	13	磁器
662	H-9	楕円形	28	22	13	磁器 底部に平石
663	H-9	不整円形	49	-	17	底部に平石 15号溝を切る
664	H-9	楕円形	40	33	20	
665	H-9	不整円形	40	-	22	焼土塊
666	H-9	楕円形	33	26	18	13号土坑を切る
667	H-9	円形	27	-	10	底部に繩
668	H-9	楕円形	42	35	17	底部に繩 14号溝に切られる
669	H-9	不整円形	38	-	23	底盤に平石
670	H-9	円形	31	-	9	
671	H-9	楕円形	25	23	9	底部に平石

番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	出土遺物・重複関係
672	H-9	楕円形	30	24	8	底部に平石
673	H-9	楕円形	35	28	14	
674	H-9	円形	36	-	14	
675	I-9	円形	26	-	13	底部に繩
676	I-9	円形	20	-	17	
677	I-9	円形	30	-	7	
678	I-9	円形	31	-	11	底部に繩
679	I-9	円形	33	27	29	
680	H-9	楕円形	40	32	13	
681	I-9	楕円形	30	15	12	
682	F-9	不整円形	37	-	11	
683	G-9	円形	62	-	31	14号溝を切る
684	G-9	円形	15	-	18	
685	G-9	円形	37	-	13	
686	G-9	楕円形	47	38	16	
687	G-9	円形	24	-	20	
688	G-9	円形	16	-	14	
689	G-9	円形	12	-	-	
690	F-5	円形	31	-	6	
691	G-4	-	-	-	8	
692	G-5	円形	26	-	14	
693	G-5	-	24	-	29	
694	G-7	楕円形	53	-	-	10号溝・28号溝に切られる
695	I-2	円形	23	-	45	底部に繩
696	II-2	円形	25	-	11	
697	I-2	不整円形	29	-	11	
698	II-3	円形	26	-	15	
699	H-3	円形	36	-	27	
700	II-3	円形	24	-	25	
701	H-3	円形	12	-	25	
702	II-3	-	-	-	8	
703	I-3	-	-	-	11	
704	I-3	-	-	-	21	
705	I-3	-	-	-	40	底部に平石
706	I-3	-	-	-	9	
707	I-5	-	-	-	5	
708	I-5	楕円形	34	26	16	
709	H-5	円形	57	-	10	11号溝に切られる
710	I-6	-	-	-	14	
711	I-6	-	-	-	10	底部に繩
712	I-6	円形	23	-	16	
713	I-6	円形	30	-	10	
714	H-6	円形	23	-	-	
715	H-7	円形	19	-	3	15号溝を切る
716	H-7	円形	28	-	9	15号溝を切る
717	H-7	楕円形	30	24	5	15号溝を切る
718	H-7	楕円形	45	-	7	15号溝を切る
719	H-7	-	12	-	4	
720	II-7	不整円形	26	-	5	
721	H-8	不整円形	35	-	19	15号溝を切る 18号土坑を切る
722	G-9	楕円形	45	-	17	
723	F-8	円形	65	-	-	杭
724	B-5	不整円形	-	-	20	
725	E-5	不整円形	-	-	28	石英
726	B-4	不整円形	-	-	28	11号溝に切られる
727	G-4	楕円形	44	32	24	底部に繩 28号溝に切られる

表7 A区遺物類表①

() 復元値、() < 値存値

図 番号	出土位置	種別・器種	法 盤(cm)			部位	観察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定年代	備考
			口径	底径	高さ					
19	1号溝	磁器 碗	(10.6)	(3.8)	5.8	口縁～底部	染付	砥部焼か	18～19世紀	
〃	2号溝	磁器 碗	(10.5)	4.4	5.5	口縁～底部	染付	瀬戸	19世紀	
〃	3号溝	磁器 碗	(8.6)	4.5	4.5	口縁～底部	染付			肥前
〃	4号溝	磁器 壺反碗	(9.6)	(4.1)	4.95	口縁～底部	染付			瀬戸
〃	5号溝	磁器 碗	(6.0)	2.5	3.1	口縁～底部	染付	肥前	19世紀	
〃	6号溝	磁器 小皿	(7.8)	(3.8)	2.4	口縁～底部	染付	瀬戸		
〃	7号溝	磁器 碗	—	(6.2)	6.5	口縁～底部	染付	肥前		
〃	8号溝	磁器 碗	(12.7)	(5.6)	7.3	口縁～底部	染付	肥前		
〃	9号溝	磁器 段重蓋	10.0	最大幅11.1	3.5	口縁～底部	染付、流垂ぎ	肥前		
〃	10号溝	磁器 段重蓋	9.7	最大幅11.2	2.6	口縁～底部	染付	肥前		
〃	11号溝	磁器 横木鉢	4.5	7.0	3.3	口縁～底部	染付	瀬戸か		
〃	12号溝	磁器 仏壇器	(6.1)	4.2	5.4	口縁～底部	白磁			
〃	13号溝	陶器 灯明受皿(台付)	(6.25)	4.6	4.1	口縁～底部	底部無釉、口縁部被熱			
〃	14号溝	陶器 灯明皿	(8.5)	(3.3)	1.9	口縁～底部	外面部～底部無釉			
〃	15号溝	陶器 灯明皿	(9.5)	—	(2.0)	口縁～底部	外面部～底部無釉			
〃	16号溝	陶器 灯明受皿	(9.45)	(5.3)	1.7	口縁～底部	外面部～底部無釉			
〃	17号溝	陶器 急須蓋	(5.7)	—	2.0	口縁～把手	素焼き、外面部			
〃	18号溝	陶器 山水土瓶	7.6	—	—	口縁～底部			19世紀	
〃	19号溝	陶器 行平蓋	(15.8)	最大幅(15.8)	3.0	口縁～体部	内面鉄絲 外面トビガナ		19世紀	
〃	20号溝	磁器 碗	(6.4)	(3.5)	4.6	口縁～底部	内面白釉、外面部金彩 高台内「萬古」	萬古焼		
〃	21号溝	磁器 盆	(10.0)	5.8	2.0	口縁～底部	コバルト染付	肥前	近代	
〃	22号溝	磁器 碗	(5.3)	(2.9)	—	体部～底部	吉窯 高台内「有限会社三井商店」	瀬戸	近代	
20	23号溝	瓦 丸瓦	長さ (25.8) <(15.15)	幅 2.0	厚さ —	口縁～底部	外面部コロ形成		—	近世
〃	24号溝	磁器 碗	(11.5)	5.2	6.6	口縁～底部	燒翫ぎ 裏面燒翫ぎ文字		1740年～ 1780年代	
〃	25号溝	磁器 碗	(11.2)	(5.8)	5.5	口縁～底部	口縁糊ハギ	肥前		
〃	26号溝	磁器 壺反碗	(8.2)	(3.2)	4.4	口縁～底部		瀬戸	19世紀	
〃	27号溝	陶器 大皿(馬の皿)	(24.3)	12.4	4.9	口縁～底部		瀬戸	19世紀	
21	28号溝	上器 七輪	(28.4)	—	(11.6)	口縁～体部	内外面クロコ成形、内面被熱			
〃	29号溝	瓦 軒技瓦	—	—	厚さ 1.75	—				
〃	30号溝	瓦 軒技瓦	—	—	1.7	—	軒部に刻印△			
〃	31号溝	瓦 軒技瓦	外径 7.5	内径 4.8	厚さ 1.8	—				
〃	32号溝	瓦 丸瓦	長さ (16.4)	幅 17.0	厚さ 1.65	—	侧面部に刻印△			
〃	33号溝	石製品 石臼	(46.8)	—	(24.3)	口縁～体部	安山岩製			
〃	34号溝	石製品 石臼	(32.0)	(10.23)	(31.0)	下臼	安山岩製			
22	35号溝	石製品 石臼	(32.25)	(30.8)	(10.3)	上臼	安山岩製			
〃	36号溝	石製品 石臼	(28.45)	(27.5)	(11.2)	上臼	安山岩製			
〃	37号溝	陶器 灯明皿	(8.0)	(2.8)	1.7	口縁～底部	外面部～底部無釉			

表 8 A区遺物觀察表②

() 複元値、< > 独存値

図	番号	出上位	種別・器種	法 量(cm)			部位	観察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定年代	備考
				口径	底径	高さ					
22	38	8号清	陶器 灯明受皿	(8.7)	(4.5)	2.3	口縁～底部	外面全体～底部輪ハギ			
"	39	8号清	磁器 瓢	(15.3)	—	<3.0>	口縁～体部	染付	中国製か		
"	40	8号清	上器 かわらけ?	—	—	—	体部	外面黒褐色、陽刻部分金箔付			
"	41	8号清	瓦 あご付板瓦	11.5	7.3	2.0	厚さ	表面ヘラ彫形			
23	42	10号清	磁器 瓢	(6.3)	3.1	4.4	口縁～底部	染付	肥前		
"	43	10号清	磁器 盆	(15.8)	—	<3.2>	口縁～体部	内面たこ唐草文 外面唐草文	肥前	18～19世紀	
"	44	10号清	陶器 不明	—	(6.8)	<3.2>	底部	底部回転糸切り			1号+複数 割合
"	45	10号清	磁器 御持酒利	—	3.4	<6.5>	体部～底部	染付、たこ唐草文	肥前	18～19世紀	
"	46	10号清	陶器 行平蓋	(16.8)	最大幅 (17.0)	2.6	口縁～体部	内面鉄輪 外側ヒガシナ	—	19世紀	
"	47	10号清	陶器 楠木鉢	(24.6)	—	<14.8>	口縁～体部	体部外側～口縁内面緑釉	瀬戸 勇右衛門窯	18～19世紀	
"	48	10号清	瓦 軒瓦	長さ	幅 3.65	厚さ 1.55	—				
"	49	11号清	上器 かわらけ	(9.6)	(7.0)	2.1	口縁～底部	内外面ロクロ成形、底部回転糸切り、口縁部炭化物付着		近世	
"	50	11号清	上製品 ミュエア製 造利か	—	(2.95)	<1.9>	底部	内面ロクロ成形 底部回転糸切り	江戸近郊	近世	
"	51	12号清	土器 かわらけ	(6.8)	(4.4)	1.3	口縁～底部	内外面ロクロ成形、底部回転糸切り、内面炭化物付着		近世	
"	52	12号清	土器 かわらけ	(6.9)	(4.4)	1.6	口縁～底部	内外面ロクロ成形、底部回転糸切り、内面炭化物付着		近世	
"	53	12号清	土器 かわらけ	(11.5)	(6.0)	2.7	口縁～底部	内外面ロクロ成形、底部回転糸切り、内面炭化物付着			
"	54	12号清	土器 かわらけ	(10.75)	(5.6)	2.55	口縁～底部	内外面ロクロ成形、底部回転糸切り、内面炭化物付着			
"	55	12号清	土器 土鍋	(13.7)	(13.0)	4.3	口縁～底部	内面炭化物付着 外側指彫痕			
"	56	12号清	陶器 丸皿	(11.8)	—	<2.2>	口縁部		瀬戸・美濃	大室2	
"	57	12号清	上器 楠鉢	—	(13.0)	<4.5>	体部～底部	外側削り痕 内面炭化物付着			
"	58	12号清	磁器 盆	—	(8.0)	<1.1>	底部	染付、内面「富」 高台部「天」	中国	16世紀	
"	59	12号清	陶器 離反皿	(9.8)	—	<2.6>	口縁～体部		瀬戸・美濃	大室2	
"	60	12号清	石製品 五輪塔 大輪	上部幅 8.9	底面幅 16.5	最高さ 23.7	最大幅 11.45				中世
"	61	13号清	土器 かわらけ	10.2	5.5	2.3	完形	内外面ロクロ成形 底部回転糸切り		中世	
"	62	14号清	土器 高脚壺	—	—	<3.9>	脚部	内外面ナナフ成形		古墳時代	
24	63	1号井戸	上器 かわらけ	(7.4)	(4.8)	1.7	口縁～底部	内外面ロクロ成形 底部回転糸切り		16世紀	
"	64	1号井戸	陶器 丸皿	—	(6.4)	<1.2>	底部		瀬戸・美濃	大室1	
"	65	1号井戸	磁器 白磁碗	(11.1)	4.1	4.2	口縁～底部	見込み及び高台部に砂目	朝鮮	16世紀末～ 17世紀初頭	
"	66	1号井戸	磁器 瓢	(10.0)	—	<1.6>	口縁部	染付	中国製	16世紀	
"	67	1号井戸	石製品 基石	長径 2.4	短径 1.8	厚さ 0.4	完形	貝岩製	—		
"	68	2号井戸	土器 かわらけ	(12.3)	5.8	2.9	口縁～底部	内外面ロクロ成形 底部回転糸切り		16世紀	
"	69	2号井戸	土器 かわらけ	(12.6)	(6.8)	2.6	口縁～底部	内外面ロクロ成形 底部回転糸切り		16世紀	
"	70	2号井戸	上器 かわらけ	(7.7)	(5.0)	2.6	口縁～底部	内外面ロクロ成形 底部回転糸切り		16世紀	
"	71	2号井戸	上器 かわらけ	(8.0)	(4.0)	2.0	口縁～底部	内外面ロクロ成形 底部回転糸切り		16世紀	
"	72	2号井戸	陶器 盆	(11.8)	—	<1.9>	口縁部	溶融物付着	瀬戸美濃	大室2	
"	73	2号井戸	土器 かわらけ	(14.0)	(8.7)	(4.0)	口縁～底部				
"	74	2号井戸	土器 楠鉢	—	—	—	底部				

表9 A区遺物觀察表③

() 復元値、() 現存値

図	番号	出土位置	種別・器種	法 蓋(cm)			部位	観察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定年代	備考
				口径	底径	高さ					
24	75	2号井戸	石製品 くぼみ石	最大幅 9.8	高さ 6.1	孔径 5.9	孔深さ 2.0	輝石安山岩製			
〃	76	3号井戸	土器 かわらけ	12.0	5.8	3.0		完形 内外面クロコ成形、底部回転系切り		16世紀	
〃	77	4号井戸	土器 かわらけ	(6.9)	4.0	2.0		口縁部 内外面クロコ成形		16世紀	
〃	78	4号井戸	土器 かわらけ	(7.3)	—	(1.7)	口縁部	底部回転系切り		16世紀	
〃	79	4号井戸	陶器 丸皿	(10.6)	(7.0)	(2.0)	口縁部	内外面クロコ成形	瀬戸・美濃 大室2		
〃	80	4号井戸	陶器 楠鉢	—	—	—	口縁部	内外面鉄輪	瀬戸・美濃 大室1		
〃	81	4号井戸	木製品 不明	長さ 7.8	幅 1.8	厚さ 1.25	口縁部	内外面クロコ成形		16世紀	
〃	82	5号井戸	土器 かわらけ	(12.6)	(7.0)	2.3	口縁部	内外面クロコ成形、底部回転系切り		16世紀	
〃	83	5号井戸	土器 かわらけ	9.3	4.9	2.15	口縁部	内外面クロコ成形、底部回転系切り、内面炭化物付着			
〃	84	5号井戸	陶器 碗	(9.8)	—	(1.9)	口縁部	鉄輪	初山窯		
〃	85	5号井戸	陶器 枝	(26.3)	—	(4.9)	口縁部			志戸馬か	
〃	86	5号井戸	陶器 楠鉢	(30.0)	—	(4.2)	口縁部			瀬戸・美濃 大室2	
〃	87	5号井戸	陶器 天目茶碗	(11.2)	—	(4.0)	口縁部			瀬戸・美濃 大室3	
〃	88	5号井戸	磁器 青磁・圓	(12.0)	(5.0)	2.3	口縁部	口縁輪花	中国 龍泉窯	15~16世紀	
〃	89	5号井戸	漆器 碗	(13.5)	(7.9)	3.3	口縁部	内面朱 外面黒、鶴松文様朱			
25	90	5号井戸	木製品 曲物底	長さ 10.5	幅 6.3	厚さ 0.4	口縁部				
〃	91	5号井戸	木製品 植蓋	長さ 8.0	幅 5.2	厚さ 0.7	口縁部				
〃	92	5号井戸	木製品 植蓋	長さ 9.4	幅 2.75	厚さ 0.7	口縁部				
〃	93	5号井戸	木製品 曲物	長さ 13.6	幅 6.45	厚さ 0.6	口縁部				
〃	94	5号井戸	木製品 箸	長さ (21.55)	幅 0.7	厚さ 0.45	口縁部				
〃	95	5号井戸	木製品 箸	長さ (16.2)	幅 0.65	厚さ 0.45	口縁部				
〃	96	5号井戸	木製品 箸	長さ (19.5)	幅 0.5	厚さ 0.7	口縁部				
〃	97	5号井戸	木製品 箸	長さ (16.2)	幅 0.65	厚さ 0.45	口縁部				
〃	98	5号井戸	木製品 箸	長さ 14.95	幅 0.7	厚さ 0.45	口縁部				
〃	99	5号井戸	木製品 箸	長さ 25.4	幅 0.45	厚さ 0.6	口縁部				
〃	100	5号井戸	木製品 箸	長さ 26.15	幅 0.7	厚さ 0.5	口縁部				
〃	101	5号井戸	木製品 箸	長さ 27.6	幅 0.5	厚さ 0.55	口縁部				
〃	102	5号井戸	木製品 不明	長さ 23.5	幅 10.65	厚さ 0.7	口縁部				
〃	103	5号井戸	木製品 不明	長さ 19.3	幅 1.03	厚さ 0.5	口縁部				
〃	104	5号井戸	木製品 不明	長さ (11.95)	幅 0.6	厚さ 0.4	口縁部				
〃	105	5号井戸	木製品 不明	長さ 18.7	幅 10.3	厚さ 0.7	口縁部	上部炭化			
〃	106	5号井戸	木製品 不明	長さ 17.5	幅 1.4	厚さ 0.75	口縁部	上部炭化			
〃	107	5号井戸	木製品 下駄	長さ 20.4	幅 10.2	厚さ 4.3	高さ 10.3	表面十字の刻み有り 衝部擦痕			
〃	108	5号井戸	木製品 下駄	長さ 18.2	幅 9.8	厚さ 1.65	高さ 2.7	表面擦痕の使用痕 表面下部が炭化			
26	109	5号井戸	石製品 石臼	(30.7)	(29.2)	(12.3)	上口	安山岩製、外面上部縁辺炭化物付着			
〃	110	5号井戸	石製品 ヒダ鉢	(28.0)	—	—	口縁部	安山岩製、内面炭化物付着			
〃	111	6号井戸	陶器 丸皿	(10.5)	(6.0)	2.45	底部	底部輪トチ痕	瀬戸・美濃 大室2		

表10 A区遺物觀察表④

()復元値、()残存値

図	番号	出土位置	種別・器種	法 量(cm)			部位	觀察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定期代	備考
				口径	底径	高さ					
26	112	6号井戸	陶器 擂鉢	—	—	—	体部		志戸呂	16世紀後半	
"	113	6号井戸	陶器 擂鉢	—	—	—	口縁部	胎土赤褐色			
"	114	6号井戸	石製品 砾石	長さ 10.6	幅 4.35	厚さ 2.45	—				
"	115	6号井戸	石製品 茶臼	20.0	14.1	19.85	上臼	安山岩製、被熱			
"	116	7号井戸	磁器 碗	(9.0)	—	(4.5)	口縁～ 体部	花部分赤絵と金使用	肥前	18世紀	
"	117	7号井戸 [†]	磁器 碗	(9.0)	—	(4.7)	口縁～ 体部	染付、コンニャク印判	肥前	18世紀 前半～中期	
"	118	7号井戸 [†]	磁器 小碗	(6.0)	(2.2)	(3.0)	口縁～ 底部	染付	肥前	18世紀	
"	119	7号井戸	陶器 皿	(12.4)	(7.8)	2.2	口縁～ 底部		瀬戸		
"	120	7号井戸	陶器 碗	(14.7)	—	(4.3)	口縁～ 体部	内外面灰色			
"	121	7号井戸	陶器 花瓶か	(8.0)	—	<10.0	口縁～ 底部	胎土灰褐色、綠釉、耳付痕、 口縁折断			
"	122	7号井戸	土器 焼塙壺蓋	(8.7)	重上部 (7.4)	1.7	口縁～ 蓋上部		堺	18世紀	
27	123	8号井戸 [†]	磁器 碗	(9.4)	(2.8)	5.3	口縁～ 底部	染付	肥前系	18世紀	
"	124	8号井戸 [†]	磁器 (筒形碗)	(8.0)	—	—	口縁～ 体部	染付	肥前		
"	125	8号井戸	磁器 碗	(8.8)	(3.2)	6.0	口縁～ 底部	あさみ文様	肥前		
"	126	8号井戸	磁器 碗	(8.2)	(4.4)	7.5	口縁～ 底部	江戸染付 焼錆ぎ	肥前	18世紀 中後 150年と合	
"	127	8号井戸	磁器 (筒形碗)	7.2	3.9	5.95	口縁～ 底部	見込み五弁花文	肥前		
"	128	8号井戸	磁器 小碗	(6.8)	—	(2.3)	口縁～ 体部		肥前系		
"	129	8号井戸	磁器 碗	(6.7)	2.7	3.5	口縁～ 底部		肥前系		
"	130	8号井戸	磁器 広東碗蓋	10.25	重上部 6.0	2.5	口縁～ 蓋上部	内外面あり釉	肥前系	18世紀末～ 19世紀 131と セットか	
"	131	8号井戸	磁器 広東碗	(11.4)	—	(4.4)	口縁～ 体部	内外面あり釉	肥前系	18世紀末～ 19世紀 130と セットか	
"	132	8号井戸	磁器 広東碗	(11.1)	—	—	口縁～ 体部		肥前	18世紀後半	
"	133	8号井戸	磁器 広東碗	(10.5)	5.8	5.9	口縁～ 底部		肥前	18世紀末～ 19世紀	
"	134	8号井戸	磁器 広東碗蓋	(10.3)	重上部 (5.6)	2.6	口縁～ 蓋上部	外面コウモリ、花文 里面白サギ	肥前系	18世紀末～ 19世紀	
"	135	8号井戸 [†]	磁器 (通反形小鉢)	(12.3)	(4.5)	(5.3)	口縁～ 底部	外側有葉文 口縁部内側 達弧文帯	肥前系	17世紀末～ 19世紀 皿山本 登窯	
"	136	8号井戸 [†]	磁器 皿	(13.9)	(8.6)	(4.2)	口縁～ 底部	見込みコニャク羽五弁花文	肥前	18世紀	
"	137	8号井戸	磁器 皿	(13.1)	(7.4)	(4.0)	口縁～ 底部	底裏銘「油桶」	肥前	18世紀	
"	138	8号井戸	磁器 皿	(17.2)	(8.7)	(4.75)	口縁～ 底部	見込みコニャク羽五弁花文 底裏墨跡有り	肥前	18世紀	
"	139	8号井戸	磁器 皿	10.8	6.4	2.5	口縁～ 底部	波線、内面施文	肥前系	18世紀	
"	140	8号井戸 [†]	磁器 皿	(10.0)	(4.9)	(2.1)	口縁～ 底部	染付	肥前系		
"	141	8号井戸 [†]	磁器 皿	(13.2)	(7.4)	3.2	口縁～ 底部	見込み蛇ノ目模ハギ コンニャク羽五弁花文	肥前	18世紀	
"	142	8号井戸 [†]	磁器 皿	(13.8)	(8.0)	2.5	口縁～ 底部	見込み蛇ノ目模ハギ コンニャク羽五弁花文	肥前	18世紀	
"	143	8号井戸	磁器 皿	—	(9.3)	(3.2)	体部～ 底部	見込み蛇ノ目模ハギ コンニャク羽五弁花文	肥前	18世紀	
28	144	8号井戸	磁器 白磁体	—	(7.8)	<2.9	体部～ 底部	内面陽刻の唐草文	肥前系		
"	145	8号井戸 [†]	磁器 皿	(10.5)	(6.0)	2.3	口縁～ 底部	梨形底形、見込み染付文 口横輪花、口跡	肥前	17～18世紀	
"	146	8号井戸 [†]	磁器 皿	(13.3)	8.6	2.5	口縁～ 底部	染付、龍文	肥前	18世紀	
"	147	8号井戸 [†]	磁器 钵	—	(5.4)	(4.7)	体部～ 底部	内面底部、松竹梅文	肥前系	18世紀後半	
"	148	8号井戸	磁器 (蓋付鉢)	(14.9)	—	(7.3)	口縁～ 底部	口縁内曲面ハギ	肥前	18世紀	

表11 A区遺物観察表⑤

() 復元値、(<) 現存値

図	番号	出土位置	種別・器種	法量(cm)			部位	觀察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定年代	備考
				口径	底径	器高					
28	149	8号井戸	磁器 呑壺・火入れ	—	(8.0)	(4.8)	体部～ 底部	丸ノ目四形高台 内面無輪	肥前系	18世紀末～ 19世紀	
n	150	8号井戸	磁器 鉢蓋	(8.1)	—	(1.7)	体部～ 底部	染付	肥前系	18世紀末～ 19世紀	
n	151	8号井戸	磁器 蓋	(5.2)	—	1.0	口縁～ 底部	染付	肥前系	18世紀末～ 19世紀前期	
n	152	8号井戸	磁器 火入れ	5.5	4.4	6.8	口縁～ 底部	染付	肥前系	18世紀	
n	153	8号井戸	磁器 碗	6.3	5.3	6.5	口縁～ 底部	口線内面輪ハギ	肥前系	18世紀	
n	154	8号井戸	磁器 火入れ	(5.7)	(4.5)	6.75	口縁～ 底部	ペタ底	肥前系		
n	155	8号井戸	磁器 利	—	(5.8)	(9.0)	体部～ 底部	染付	肥前系	18世紀	
n	156	8号井戸 [†]	磁器 仏版器	—	4.7	(5.1)	体部～ 底部	染付	肥前系	18世紀～ 19世紀	
n	157	8号井戸	陶器 (小杉茶碗)	(9.0)	(2.8)	4.8	口縁～ 底部	鉄繪	京都、信楽系	1730年代～ 1860年代	
n	158	8号井戸	陶器 (小杉茶碗)	(9.2)	3.6	4.9	口縁～ 底部	—	京都、信楽系	1730年代～ 1860年代	
n	159	8号井戸	陶器 (小杉茶碗)	(9.5)	(3.6)	5.3	口縁～ 底部	—	京都、信楽系	1730年代～ 1860年代	
n	160	8号井戸	陶器 碗	(13.1)	4.6	4.3	口縁～ 底部	—	肥前系		
n	161	8号井戸	陶器 碗	(11.0)	4.0	6.0	口縁～ 底部	貢入	瀬戸		
n	162	8号井戸	陶器 碗	(10.0)	—	<4.8	口縁～ 底部	貢入	瀬戸		
n	163	8号井戸	陶器 碗	(8.4)	—	<5.0	口縁～ 底部	灰釉、貢入	京都、信楽系		
n	164	8号井戸	陶器 (舟器子碗)	(4.6)	(4.5)	—	体部～ 底部	貢入	肥前系	1650年～ 1740年	
n	165	8号井戸	陶器 碗	—	4.0	<4.3	体部～ 底部	—	瀬戸		
n	166	8号井戸	陶器 皿	(10.4)	(5.2)	1.8	口縁～ 底部	外腹体部～底部無輪	瀬戸		
n	167	8号井戸	陶器 鉢	—	—	—	口縁部	三島手跡	唐津		
29	168	8号井戸	陶器 皿	—	(10.2)	(4.3)	体部～ 底部	白釉・墨釉、内面鉄繪 高台のぶ無輪	瀬戸・美濃		
n	169	8号井戸 [†]	陶器 皿	(17.6)	12.0	(4.7)	口縁～ 底部	削出L字凸・須絵鉄绘文 外腹体部～底部無輪	瀬戸	18世紀	小西窯
n	170	8号井戸	陶器 盤	—	—	(7.7)	体部～ 底部	外面の灰釉(緑色)	瀬戸		
n	171	8号井戸	陶器 盤	—	(8.6)	(3.1)	体部～ 底部	底部無輪	瀬戸 [†]	18世紀	尾高窯
n	172	8号井戸	陶器 不明	(15.4)	(9.0)	(7.0)	口縁～ 底部	内外面鉄繪	瀬戸		
n	173	8号井戸	陶器 火入	—	(18.0)	(7.3)	体部～ 底部	—	瀬戸		
n	174	8号井戸	陶器 鉢又は片口	—	(9.6)	(6.5)	体部～ 底部	—	瀬戸	かみた 窯跡	
n	175	8号井戸	陶器 上鍋	(15.2)	(6.4)	(7.3)	口縁～ 底部	外面底部無輪	瀬戸		
n	176	8号井戸	陶器 半胴腰	—	(17.4)	(11.5)	体部～ 底部	鉄繪、底部無輪	瀬戸・美濃		
n	177	8号井戸	陶器 土瓶	(8.2)	—	(3.3)	口縁～ 体部	シノギ、鉄繪	瀬戸		
n	178	8号井戸	陶器 甕	(27.8)	—	(7.4)	口縁～ 体部	桔輪、外腹口縁部黒色釉タレ	瀬戸		
n	179	8号井戸 [†]	陶器 鉢	—	(18.0)	(5.9)	体部～ 底部	外腹底印花文、内面底部 ハリ痕4ヵ所	瀬戸		
n	180	8号井戸	陶器 擂鉢	(13.0)	5.0	(5.9)	口縁～ 底部	内外面鉄繪	瀬戸 [†]		
n	181	8号井戸	陶器 擂鉢	—	(12.7)	(4.6)	体部～ 底部	内外面鉄繪、胎土に長石含む 単口 9本単位	信楽窯		
n	182	8号井戸	陶器 擂鉢	—	10.5	(4.6)	体部～ 底部	内外面鉄繪 底部回転式切り	瀬戸		
n	183	8号井戸	陶器 擂鉢	(35.6)	(18.4)	15.4	口縁～ 底部	—	瀬戸	18世紀中葉	
n	184	8号井戸 [†]	陶器 擂鉢	(39.2)	—	(12.0)	口縁～ 体部	梅口 8本単位	瀬戸	18世紀中葉	
n	185	8号井戸 [†]	陶器 擂鉢	(34.8)	—	(12.1)	口縁～ 底部	—	瀬戸	18世紀中葉	

表12 A区遺物観察表(6)

() 後元値、< > 残存値

団	番号	出土位置	種別・器種	法量(cm)			部位	観察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定年代	備考
				口径	底径	器高					
30	186	8号井戸	陶器 蓋	(10.3)	最大幅 (10.5)	<2.5	口縁～ 把手	外面茶葉地の施釉			
#	187	8号井戸	陶器 磁利	—	(7.6)	<5.5	体部～ 底部	底部刻印有り			
#	188	8号井戸	陶器 酒入れ	(4.4)	(4.0)	2.3	口縁～ 底部	底部回転糸切り	瀬戸		
#	189	8号井戸	陶器 醤水入れ	—	—	<1.8	体部～ 底部	鉄絵	瀬戸		
#	190	8号井戸	陶器 油受け皿	7.7	3.6	1.9	口縁～ 底部	内外面鉄釉 底部釉拭き取り			
#	191	8号井戸	陶器 油受け皿	9.4	4.5	1.8	口縁～ 底部	内外面鉄釉 底部釉拭き取り			
#	192	8号井戸	陶器 油受け皿	10.6	5.1	2.2	口縁～ 底部	内外面鉄釉、外面釉拭き取り 内面以化物付着			
#	193	8号井戸	陶器 油受け皿	10.5	4.8	2.2	口縁～ 底部	内外面鉄釉、外面釉拭き取り			
#	194	8号井戸	陶器 油受け皿	10.0	4.7	1.9	口縁～ 底部	内外面鉄釉、外面釉拭き取り			
#	195	8号井戸	陶器 灯明皿	7.8	3.6	1.5	口縁～ 底部	内外面鉄釉、外面釉拭き取り			
31	196	8号井戸	土器 かわらけ	(9.6)	(5.6)	(2.3)	口縁～ 底部	内外面クロコ成形 底部回転糸切り			
#	197	8号井戸	土器 かわらけ	(8.1)	(5.7)	(2.3)	口縁～ 底部	内外面クロコ成形 底部回転糸切り			
#	198	8号井戸	土器 かわらけ	(7.9)	(6.0)	(1.8)	口縁～ 底部	内外面クロコ成形 底部回転糸切り			
#	199	8号井戸	土器 燃壺蓋	—	4.8	<1.9	体部～ 底部	内外面クロコ成形 底部回転糸切り		18世紀末	
#	200	8号井戸	土器 燃壺蓋蓋	6.1	蓋上部 6.4	0.95	口縁～ 蓋上部	内面布目		18世紀末	
#	201	8号井戸	土器 燃壺蓋蓋	6.9	蓋上部 6.75	1.0	口縁～ 蓋上部	内面布目		18世紀末	
#	202	8号井戸	土器 不明	(18.6)	(19.8)	5.2	口縁～ 底部	内外面クロコ成形 口縁部底化物付着			
#	203	8号井戸	土器 不明	(13.6)	(16.0)	5.05	口縁～ 底部	内外面クロコ成形 内面底化物付着			
#	204	8号井戸	土器 鉢	—	(8.0)	(2.5)	体部～ 底部	内面白粉 外面墨有り			
#	205	8号井戸	土器 消火器	—	(22.5)	(7.8)	体部～ 底部	内面クロコ成形、内面指彫痕、 二足脚付			
#	206	8号井戸	土器 不明	—	—	厚さ 1.3	—	板作成形			
#	207	8号井戸	土器 丸七輪	—	—	(9.2)	体部	内外面クロコ成形 内面墨化物付着			
#	208	8号井戸	土器 手縫り?	—	(11.1)	(7.4)	体部～ 底部	ロクロ成形、内外面緑色の施釉 内面文様有り			
#	209	8号井戸	土器 漆炉	—	11.7	(5.8)	体部～ 底部	ロクロ成形、内面研磨 胎土雲母混入			
#	210	8号井戸	土器 漆炉	—	(11.8)	(7.9)	体部～ 底部	ロクロ成形、内面研磨 胎土雲母混入、内面被熱			
#	211	8号井戸	瓦 軒丸瓦	外径 14.0	内径 9.8	2.15	—				
#	212	8号井戸	瓦 軒丸瓦	外径 14.2	内径 10.0	2.25	—				
#	213	8号井戸	瓦 斜丸瓦	外径 13.6	内径 10.4	2.1	—				
#	214	8号井戸	瓦 丸瓦	厚さ 1.85	孔径 1.8	—	—				
32	215	8号井戸	瓦 丸瓦	厚さ 2.2	—	—	—				
#	216	8号井戸	瓦 平瓦	厚さ 1.9	—	—	—				
#	217	8号井戸	木製品 下駄	長さ 21.0	幅 7.4	厚さ 1.15	—	齒部磨耗			
#	218	8号井戸	木製品 下駄箱	最大幅 12.25	最小幅 9.3	高さ 9.95	厚さ 1.6	内外面クロコ成形 灰褐色被熱			
#	219	9号井戸	土器 かわらけ	(6.1)	(4.0)	1.4	口縁～ 底部	内外面クロコ成形 灰褐色、被熱			
#	220	9号井戸	土器 かわらけ	(8.0)	—	<2.5	口縁～ 底部	内外面クロコ成形 灰褐色、被熱			
#	221	9号井戸	磁器 瓢	(10.1)	(6.0)	2.1	口縁～ 底部				
#	222	9号井戸	磁器 染付皿	—	(6.0)	(1.0)	底部	染付			

表13 A区造物観察表⑦

()復元値、(<)残存値

図	番号	出土位置	種別・器種	法量(cm)			部位	観察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定年代	備考
				口径	底径	高さ					
32	223	9号井戸	磁器 瓶	—	—	—	胴部	外面印き目			
"	224	9号井戸	陶器 瓶鉢	—	—	—	体部	内外面鉄輪	志戸・呂戸		
"	225	9号井戸	本製品 瓶蓋	直径 (26.2)	厚さ 2.0	—					
33	226	1号土坑	磁器 瓶	(9.0)	3.8	4.85	口縁～底部	染付	肥前	18～19世紀	
"	227	1号土坑	磁器 長皿	長15.8 幅9.0	10.6	2.85	口縁～底部	染付、型打成形、焼継ぎ	肥前	19世紀	
"	228	1号土坑	磁器 鉢	18.5	9.4	8.75	口縁～底部	染付、ロココ型打成形(輪花)	肥前	19世紀	
"	229	1号土坑	陶器 小壺	(5.6)	(2.9)	2.3	口縁～底部		瀬戸		
"	230	1号土坑	陶器 灯明皿	(7.8)	(2.5)	2.0	口縁部と内面施釉		江戸近郊		
"	231	1号土坑	陶器 上瓶	5.7	—	(9.0)	口縁～体部				
"	232	1号土坑	陶器 小壺	11.8	—	(7.75)	口縁～体部	外面施釉、外面部黑色釉	瀬戸	19世紀	
"	233	1号土坑	陶器 土鍋	(16.1)	—	(6.2)	口縁～体部	継状把手貼付 施釉、内面炭化物付着		19世紀	
"	234	1号土坑	瓦質土器 十差か	—	—	—	体部	外面型文様			
"	235	1号土坑	土器 瓢	(22.6)	(25.4)	7.3	口縁～底部	把手部分穿孔			
"	236	1号土坑	瓦 斧平瓦	厚さ 1.5	—	—	—	唐草と衝文		19～20世紀	
"	237	1号土坑	土製品 泥人形	長さ 1.27	幅 0.95	厚さ 0.35	—	大黒 表面に指紋痕			
34	238	8号土坑	土器 かわらけ	12.1	6.3	3.2	口縁～底部	内外面ロココ成形 底部回転条切り		16世紀	
"	239	8号土坑	磁器 口磁皿	—	—	—	口縁		中国	16世紀	
"	240	2号土坑	土器 不明	(19.3)	—	(11.1)	口縁～体部	ロココ成形、内面上部赤釉 炭化物付着			
"	241	2号土坑	土器 4製鉢	—	—	(2.4)	口縁～見込み指頭脱 底部、脚の痕跡2ヶ所			近世	
"	242	埋植8	石製品 研石	長さ 10.25	幅 3.55	厚さ 2.8	—	緑色凝灰岩製			
"	243	13号土坑	石製品 ヒテ鉢	(39.5)	—	—	口縁～底部	安山岩製、内面炭化物付着			
"	244	21号土坑	磁器 盆	(10.4)	6.9	2.75	口縁～底部	染付	肥前		
"	245	21号土坑	陶器 德利	—	—	(5.3)	体部	外面鉄輪	瀬戸	18世紀	
"	246	21号土坑	磁器 八角鉢	—	(8.0)	(3.9)	体部～底部	染付、ロココ型打成形 絞り/日彌高台、焼継ぎ	肥前	18～19世紀	
"	247	21号土坑	土製品 横造鉢	長さ 2.05	幅 1.2	厚さ 0.25	—	南嶺二朱銀の横造	江戸近郊	1765年以前	
35	248	22号土坑	磁器 小壺	(6.0)	—	(2.3)	口縁～体部	染付	肥前	19世紀	
"	249	22号土坑	磁器 瓶	7.3	3.05	3.8	口縁～底部	染付	瀬戸	19世紀	
"	250	22号土坑	磁器 瓶	(7.9)	—	(3.3)	口縁～底部	赤繪染付	肥前	18世紀	
"	251	22号土坑	磁器 香合	3.4	4.2	1.5	口縁～底部	蓋接合部のみ白ハギ	瀬戸・美濃	19世紀	
"	252	22号土坑	磁器 散り蓮華	幅 (3.85)	厚さ 0.85	—	—	染付	肥前系	19世紀	
"	253	22号土坑	陶器 鋼入れ	—	(5.0)	(2.0)	体部～底部	底部回転条切り	瀬戸	18～19世紀	
"	254	22号土坑	陶器 上瓶	(5.6)	—	(5.0)	口縁～体部			赤目、鉄種	19世紀
"	255	22号土坑	土器 かわらけ	(10.0)	(7.0)	2.3	口縁～底部	内外面ロココ成形、底部回転 条切り、口縁部炭化物付着			
"	256	22号土坑	土器 小皿	(6.8)	(3.2)	(1.4)	口縁～底部	内外面ロココ成形、内面白釉 底部回転条切り			
"	257	22号土坑	上製品 ミニチュア 埴輪	長さ 2.45	幅 1.24	厚さ 0.45	—	表面のみ施釉			
"	258	22号土坑	上器 不明	厚さ 1.65	—	—	—	外畠ウロコ状			
"	259	22号土坑	瓦器 丸瓦	—	—	厚さ 2.0	—	表面ヘラ削り整形			

表14 A区遺物観察表⑥

() 複元値、(<) 残存値

図	番号	出土位置	種別・器種	法 量(cm)			部位	觀察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定期代	備考
				口径	底径	高さ					
35	260	22号土坑	瓦 平瓦	厚さ 1.65	—	—	—	—	—	—	—
#	261	22号土坑	瓦 軒棟瓦	厚さ 1.80	—	—	—	—	—	—	—
#	262	22号土坑	瓦 軒棟瓦	厚さ 1.55	—	—	—	三巴文	—	—	—
36	264	23号土坑	磁器 碗	(10.5)	4.4	5.2	口縁～ 底部	染付	肥前	18世紀	—
#	265	23号土坑	磁器 碗	(9.9)	(3.0)	4.9	口縁～ 底部	染付	肥前	18世紀	—
#	266	23号土坑	磁器 青磁・皿	(12.8)	—	<2.1>	口縁～ 底部	口縁輪花、内面口縁部陰刻	中国	15世紀	—
#	267	23号土坑	磁器 紅猪口	2.5	0.8	1.2	完形	壓押し成形	肥前	19世紀	—
#	268	23号土坑	陶器 皿	—	(5.8)	(2.9)	体部～ 底部	—	瀬戸	—	—
#	269	23号土坑	陶器 皿	(11.6)	5.6	2.7	口縁～ 底部	—	瀬戸	—	—
#	270	23号土坑	陶器 皿	—	—	—	底部	—	唐津系	—	—
#	271	23号土坑	陶器 皿	5.8	—	<1.5>	口縁～ 底部	内面菊花文様	京・信楽系	19世紀か	—
#	272	23号土坑	陶器 指鉢	(16.6)	—	<6.4>	体部～ 底部	内外面模様、柄目19本単位 底部回転糸切り	瀬戸・美濃	18世紀～ 19世紀	—
#	273	23号土坑	陶器 指鉢	(29.3)	(12.0)	12.0	口縁～ 底部	内外面模様、柄目14本単位 底部回転糸切り・ヘラ整形	瀬戸・美濃	18世紀～ 19世紀	—
#	274	23号土坑	上器 かわらけ	(9.0)	—	1.5	口縁部	内外面クロコ形	—	近世	—
#	275	23号土坑	陶器 斜縫又は 片口	(17.0)	—	<6.8>	口縁～ 底部	—	瀬戸	江戸中期 以降	—
#	276	23号土坑	陶器 德利	—	(7.8)	(9.7)	体部～ 底部	外面施釉 削出し高台	瀬戸・美濃	18世紀	—
#	277	23号土坑	土器 かわらけ	9.0	6.3	2.2	口縁～ 底部	内外面クロコ形 口縁炭化物付着	—	—	—
#	278	23号土坑	土器 焼塙壺	(6.3)	—	<8.4>	口縁～ 底部	板作成形	—	18世紀	—
#	279	23号土坑	土器 焼塙壺	—	(5.6)	(8.7)	体部～ 底部	板作成形	—	18世紀	—
#	280	23号土坑	上器 上鍋	(25.8)	(24.8)	(5.2)	口縁～ 底部	内外面クロコ形 外面炭化物付着	—	—	—
37	281	24号土坑	磁器 皿	(10.6)	5.6	(3.6)	口縁～ 底部	染付、ロクロ型打成形 高台内「大明年製」	肥前	17世紀後半 ～18世紀	—
#	282	24号土坑	陶器 皿	—	6.2	—	底部	—	瀬戸	—	—
#	283	24号土坑	磁器 香合蓋	長さ (2.3)	幅 (1.5)	厚さ (0.4)	—	染付	—	—	—
#	284	24号土坑	瓦 平棟瓦	長さ 26.45	幅 25.7	厚さ 1.7	—	—	—	—	19世紀
#	285	24号土坑	瓦	長さ 18.4	幅 13.3	厚さ 1.5	—	—	—	—	—
#	286	25号土坑	磁器 德利	—	(5.1)	<6.3>	体部～ 底部	染付	瀬戸か	19世紀	—
38	287	6号土坑	磁器 (端反陶)	(8.0)	—	<3.9>	口縁～ 底部	染付	肥前	17世紀後半 ～18世紀前半	—
#	288	25号土坑	陶器 小杉茶碗	(9.1)	(3.5)	(5.45)	口縁～ 底部	—	—	—	18～19世紀
#	289	25号土坑	磁器 皿	(9.0)	—	—	口縁～ 底部	染付	肥前	1780～ 1810年代	皿山本 登室
#	290	25号土坑	陶器 千鶴爪	(23.65)	—	<8.1>	口縁～ 底部	内外面施釉	瀬戸	19世紀	—
#	291	25号土坑	陶器 瓢	—	(9.0)	(3.4)	体部～ 底部	—	—	—	—
#	292	25号土坑	磁器 千鶴爪	(7.9)	—	(1.8)	口縁～ 底部	上面鉄線	—	—	皿山本 登室
#	293	25号土坑	磁器 碗	—	3.4	(3.3)	体部～ 底部	染付 見込みコンニャク判五弁花文	肥前	1780～ 1810年代	—
#	294	25号土坑	陶器 指鉢	—	—	—	体部	内外面施釉	瀬戸・美濃	—	—
#	295	25号土坑	磁器 白磁碗	—	—	—	口縁～ 底部	—	中国	15～16世紀	—
#	296	25号土坑	陶器 灯明皿	9.0	4.2	1.75	完形	内外面白釉 基底底	瀬戸	18世紀 中期	—

表15 A区遺物観察表(9)

() 復元値、< > 現存値

図	番号	出土位置	種別・器種	法量(cm)			部位	觀察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定年代	備考
				口径	底径	高さ					
38	297	25号七坑	磁器 紅拂口	4.1	1.5	1.53	完全	壓打成形	肥前	18~19世紀	
"	298	ピット51	陶器 皿	(10.2)	(4.9)	2.3	口縁~底部	底部削出し	志戸呂か		
"	299	ピット274	陶器 丸皿	(9.25)	(4.7)	1.75	口縁~底部	見込み無袖 削出し高台	瀬戸・美濃		
"	300	ピット315	石製品 砕石	長さ 3.7	幅 1.9	1.45	—				
"	301	ピット369	上器 かわらけ	(6.0)	(3.5)	1.9	口縁~底部	内外面クロコ成形 底部回転糸切り			
"	302	ピット533	木製品 角柱	長さ (2.65)	直径 13.0	12.7	—				
"	303	ピット562	土器 かわらけ	(6.0)	3.5	1.5	口縁~底部	内外面クロコ成形 底部回転糸切り			
"	304	ピット588	土器 鋼	(15.2)	(13.9)	3.5	口縁~底部	口縁部指頭底 底部			
39	305	I-6	磁器 小环	(6.9)	3.0	4.6	口縁~底部	型紙模	肥前	18世紀 前半	
"	306	D-5	磁器 茶(施反向)	(8.0)	4.0	4.0	口縁~底部	染口、口銘、見込み文様	瀬戸	19世紀	
"	307	E-4	磁器 茶	(6.3)	3.2	5.35	口縁~底部	染付、貫入	肥前系		
"	308	D-4	磁器 茶	(6.8)	3.6	5.1	口縁~底部		瀬戸		
"	309	A区	磁器 湯飲み碗(筒型)	(6.0)		(4.9)	口縁~体部	コバルト釉	瀬戸	19世紀	
"	310	A区	磁器 碗	(6.1)	2.65	3.45	口縁~底部	染付、蛇ノ目高台、見込み文様	肥前系	19世紀	
"	311	II-2	磁器 碗	(8.8)	(3.6)	4.8	口縁~底部	染付、高台内4文字記載	肥前	18世紀	
"	312	E-2	磁器 碗	(9.0)	(3.5)	(4.3)	口縁~底部	染付、見込み「革武年製」、 高台内マーク有り	瀬戸	19世紀	
"	313	A区一括	磁器 碗	10.0	4.1	5.9	口縁~底部	疊付に砂付着、染付	肥前		
"	314	A区	瓶23	碗	(10.1)	(4.1)	6.1	口縁~底部	染付		
"	315	Tr-3	磁器 碗	7.0	3.1	5.0	口縁~底部	染付	肥前	1820~1860年代	
"	316	G-8	磁器 碗	10.05		(4.8)	口縁~体部	染付	肥前		
"	317	T-3	磁器 痢薈	(8.5)	卷上部 3.4	2.6	口縁~卷上部	染付、焼錆ぎ	肥前	19世紀	
"	318	A区	磁器 碗	—	(6.2)	(2.6)	底部	見込みコニニャク判五弁花文 高台内「通福」	肥前	18世紀	
"	319	A区	磁器 碗	(15.25)	6.4	7.9	口縁~底部	見込み手描き五弁花文 高台内「滿福」	肥前	18世紀中葉	
"	320	A区	磁器 大皿	(24.3)	(14.0)	3.1	口縁~底部	口輪絞り 焼錆ぎ、底部焼起文	肥前系	19世紀	
"	321	E-5	磁器 皿	(15.1)	(8.3)	4.1	口縁~底部	ロクロ型压成形、口縁絞り ・口錆、内面絞り有り	肥前系	19世紀	
40	322	H-2	磁器 調利	—	—	(11.95)	体部	文字表面行書、裏面革古 「御神酒」	肥前	18~19世紀	
"	323	H-2	陶器 土瓶壺	4.9	最大幅 6.6	(2.0)	口縁~ 蓋上部	上面のみ施釉、イッテン		19世紀	
"	324	F-5	陶器 山水土瓶壺	(6.9)	最大幅 (8.2)	(1.3)	口縁~ 蓋上部	上面のみ施釉		19世紀	
"	325	A区	磁器 カンテラ	4.7	4.7	4.55	口縁~ 底部			18~19世紀	
"	326	F-5	陶器 灯明受皿	10.0	4.0	2.0	口縁~ 底部	外面瓦礫状焼き取り、 外周化粧物付着			
"	327	E-2	陶器 灯明受皿(台付)	6.8	5.1	5.15	完全	底部無釉	信楽か	19世紀	
"	328	D-5	陶器 灯明皿	(6.85)	(3.1)	1.6	口縁~ 底部	外面無釉、口縁炭化物付着		18~19世紀	
"	329	E-4	陶器 灯明皿	(6.8)	3.0	1.2	体部~底部	底部無釉、貫入	瀬戸	18~19世紀	
"	330	G-8	陶器 線鉢(大)	(39.7)		<12.13	口縁~ 体部	内外面体部~底部施釉	瀬戸	18世紀 第9小期	
"	331	F-5	陶器 線鉢(中)	(29.3)	—	(6.7)	口縁~ 体部	内外面体部~底部施釉	瀬戸	第11小期 (1850年~)	
"	332	B-2	陶器 碗	(11.7)	—	(7.3)	口縁~ 体部	外面底部無釉	瀬戸	18世紀	尾呂呂
"	333	A区一括	土器 かわらけ	(12.2)	(7.0)	3.0	口縁~ 底部	内外面クロコ成形 底部回転糸切り			

表16 A区遺物・B区近代遺物観察表⑩

() 複元値、() < > 現存値

団	番号	出土位置	種別・器種	法量(cm)			部位	觀察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定期代	備考
				口径	底径	器高					
40	334	A区	七器 焼風呂	(6.7)	(5.6)	9.05	口縁～ 底部	板作成形		18世紀	
〃	335	D-5	土器 鉢	(10.2)	5.8	6.85	口縁～ 底部	内外面ロクロ成形			
〃	336	F-5	土器 鍋	(20.8)	(17.1)	5.0	口縁～ 底部	内外面ロクロ成形 外向風化物付着			
〃	337	H-2	陶器 擂鉢	—	(13.0)	(12.6)	体部～ 底部	鉄袖、觸目磨耗	瀬戸	18~19世紀	
〃	338	H-2	土製品 泥人形	C.092	1.97	1.73	—	底部穿孔			
〃	339	F-5	土製品 泥人形	長さ (2.7)	幅 2.41	厚さ 1.20	表面一部線粒 底部穿孔				
〃	340	F-5	ガラス ガラス棒	長さ (4.0)	幅 0.35	—	—				
41	341	E-5	瓦 軒棟瓦	外径 7.8	内径 5.45	厚さ 1.9	—				
〃	342	E-5	瓦 軒棟瓦	外径 7.5	内径 4.75	厚さ 2.2	—				
〃	343	A区	瓦 軒棟瓦	—	—	厚さ 1.9	—				
〃	344	E-5	瓦 軒棟瓦	—	—	厚さ 1.75	—				
〃	345	I-4	石製品 ヒズ鉢	長さ (8.55)	幅 7.95	厚さ 2.6	脚部	安山岩製、三脚			
〃	346	A区	石製品 硯	長さ (6.8)	幅 3.1	厚さ 0.7	—	オカの跡み研磨、縦刻有り			
〃	347	T-3	石製品 砾石	長さ 底部	幅 上部	高さ 11.65	孔径				
〃	348	D-7	石製品 五輪塔	底部 16.6	上部 16.1	高さ 6.5	安山岩製				
〃	349	A区	石製品 火輪	底部 16.2	上部 7.3	高さ 8.25	孔開き 6.4	安山岩製			
〃	350	B-5	石製品 五輪塔 火輪	底部 15.0	上部 6.2	高さ 8.4	—	安山岩製			
42	351	T-5	磁器 碗	(10.3)	4.7	(3.2)	口縁～ 底部	外向輪車と日章旗 高台底部系号とマーク		大正～ 昭和20年	
〃	352	T-5	磁器 小壺	5.5	2.0	3.0	完形			大正～昭和	
〃	353	B区	ガラス 化粧容器	5.4	6.0	5.0	完形	白色		20世紀	
〃	354	B区	磁器 化粧容器	4.8	4.9	3.4	完形	底部無釉		20世紀	
〃	355	T-5	ガラス 化粧容器	5.4	5.3	3.4	完形	白色		20世紀	
〃	356	骨	鹿アラシ	長さ 15.65	幅 1.15	厚さ 0.55	完形	持ち手表面に「馬」		20世紀	
〃	357	石積造橋	ガラス インク瓶	2.9	7.5	16.5	完形	外面「PILOT」の銘 削型成形		20世紀	
〃	358	T-5	ガラス 蒸瓶	長さ 1.8	幅 4.2	16.4	完形	外面「鉄道病院 訓道 室標【】」の銘、削型成形		20世紀	
〃	359	石積造橋	ガラス ビール瓶	2.1	6.8	28.7	完形	削型成形		20世紀	
〃	360	T-1	ガラス ガラス棒	長さ (19.3)	幅 1.75	—	—	コバルト色 製糸工場の器械部品		20世紀	
〃	361	D-5	陶器 縁条鍋	—	—	10.75	口縁～ 底部		深川製陶	20世紀	
43	362	T-1	磁器 碗	(14.6)	6.0	7.5	口縁～ 底部			昭和22年以降	
〃	363	T-1	磁器 皿	(11.8)	(7.0)	(2.6)	口縁～ 底部	内面印判		大正期	
〃	364	D-5	磁器 碗	6.5	3.4	4.7	完形	染付		19~20世紀	
〃	365	T-5	磁器 碗	(6.0)	(2.8)	(5.1)	口縁～ 底部	内面「伊賀市野町守後河原町 一五一二 外表面と粗面、底部角質		20世紀	
〃	366	A区1号清	磁器 集結器	1.9	—	0.6	完形	外面に○の染付		20世紀	
〃	367	A区1号清	磁器 集結器	1.9	—	0.6	完形	内面に○の染付		20世紀	
〃	368	9号井戸	木製品 圓木	長さ 90.8	幅 9.2	厚さ 5.9	—			近世	

表17 A区出土金属製品観察表

()残存

番号	出土位置	種別・器種	材質	法量(mm)		(g)	観察所見	備考
				最大長	最大幅			
1	1号溝	鍔のつまみ	銅	23.0	—	(1.4)	—	裏込めより出土
2	7号溝	釘	鉄	366.0	122.0	15.0	—	—
3	1号井戸	鉗	真鍮	33.0	34.0	1.8	穿径 2.0mm	—
4	5号井戸	釘	鉄	58.5	11.3	—	—	—
5	8号井戸	煙管	銅	42.0	15.7	16.3	—	—
6	8号井戸	煙管	銅	61.1	11.1	10.3	—	—
7	8号井戸	煙管	銅	32.4	12.1	11.6	—	—
8	8号井戸	釘	鉄	79.2	8.9	—	—	—
9	8号井戸	釘	鉄	36.6	16.0	—	—	—
10	8号井戸	釘	鉄	43.5	59.0	—	角釘	—
11	8号井戸	釘	鉄	75.2	13.1	—	角釘	—
12	8号井戸	鈎	銅	30.5	10.7	10.3	—	—
13	8号井戸	雁首銭	銅	18.9	17.4	1.9	穿径 5.8mm	—
14	1号土坑	釘	鉄	26.6	11.5	—	—	—
15	9号土坑	釘	鉄	87.0	35.0	—	—	—
16	埋植2	不明	鉄	36.1	11.3	7.9	鉢の一部か?	—
17	埋植2	釘	鉄	44.0	11.2	—	—	—
18	22号土坑	釘	鉄	27.3	9.8	—	—	—
19	ピット241	釘	鉄	43.8	7.7	—	—	—
20	ピット607	釘	鉄	55.6	10.8	—	—	—
21	B-3	不明	鉄	29.9	4.3	4.0	中空	—
22	E-2	釘	鉄	41.0	5.3	—	—	—
23	1号溝	小鉤	真鍮	13.8	13.0	0.5	—	近世～近代
24	1号溝	眼鏡	—	(65.3)	(31.5)	4.2	—	近代

表18 A区出土銭貨観察表

()は復元品、()は残存品

番号	出土地点	銭種	材質	法量(mm)		(g)	観察所見	時代	初鑄
				外徑	穿径				
1	1号井戸	永樂通宝	銅	24.5	5.40	1.40	2.8	—	明 1408
2	4号井戸	熙寧通宝	銅	23.8	6.00	1.50	3.0	真 ほぼ完形	北宋 1068
3	4号井戸	元通宝	銅	24.4	6.85	1.60	< 2.1 >	真 1/4欠損	— —
4	4号井戸	□上元宝	銅	(25.3)	6.75	1.40	< 1.6 >	— 1/2欠損	— —
5	8号土坑	□□通宝	銅	23.5	6.10	1.70	3.5	— ほぼ完形嘉祐通宝か?	— —
6	8号土坑	元□口宝	銅	24.9	6.75	1.50	2.7	— ほぼ完形	— —
7	8号土坑	祥符元宝	銅	25.7	6.10	1.55	3.1	真 ほぼ完形	北宋 1008
8	2号土坑	天聖元宝	銅	24.9	7.20	1.20	2.5	篆 完形	北宋 1023
9	2号土坑	寛永通宝	銅	25.1	5.75	1.50	4.1	— 完形 裏面上に「文」	江戸時代 —
10	7号土坑	元□通宝	銅	23.0	6.55	1.00	1.8	— ほぼ完形 元祐通宝か?	北宋 1068
11	埋植8	寛永通宝	銅	27.6	5.75	1.80	4.2	— ほぼ完形、短尾寛、裏面21波有り	明和5 1768
12	埋植10	—	銅	23.6	5.10	2.10	3.5	— ほぼ完形だが腐蝕が著しく判別不能	— —
13	B-4	元祐通宝	銅	23.9	6.75	1.45	2.7	真 完形	北宋 1086
14	B-4	永樂通宝	銅	24.7	5.70	1.35	2.4	— 完形	明 —
15	F-5	寛永通宝	銅	24.0	5.70	1.20	3.1	— 完形	江戸時代 —
16	H-5	熙寧元宝	銅	23.6	6.80	1.15	2.3	篆 ほぼ完形だが腐蝕が著しい	北宋 1068
17	II-5	紹聖元宝	銅	23.5	6.10	1.30	3.1 篆	— ほぼ完形	北宋 1094
18	I-5	紹興元宝	銅	23.8	6.55	1.55	3.1 真	— ほぼ完形	南宋 1131
19	B-5	□□二宝	銅	23.6	6.55	1.45	2.0 篆	— 2/5欠損明道元宝か?	— —
20	F-3	□□二宝	銅	23.7	5.95	1.45	2.4 —	— ほぼ完形淳化元宝か?	— —
21	G-7	寛永通宝	銅	26.7	6.00	1.75	3.4 —	— ほぼ完形	江戸時代 —
22	G-2	元祐通宝	銅	24.2	6.90	1.60	3.6 篆	— ほぼ完形搅乱内出土	北宋 1086
23	II-2	熙寧元宝	銅	23.3	6.85	1.40	3.2 真	— ほぼ完形	北宋 1087
24	G-6	2銭銅貨	銅	32.0	—	2.35	13.5 —	— 完形波クロコ	明治14 1881



図19 A区1号溝出土遺物

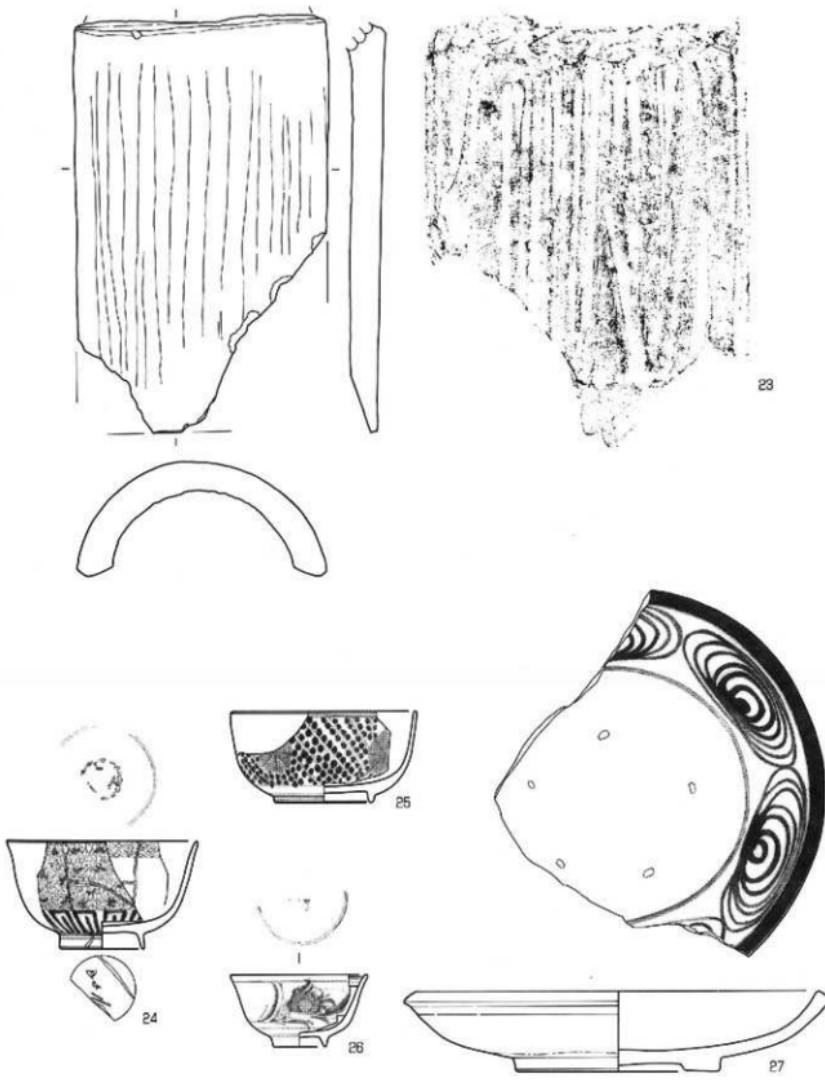


图20 A区1号沟出土瓦·2号沟出土遗物

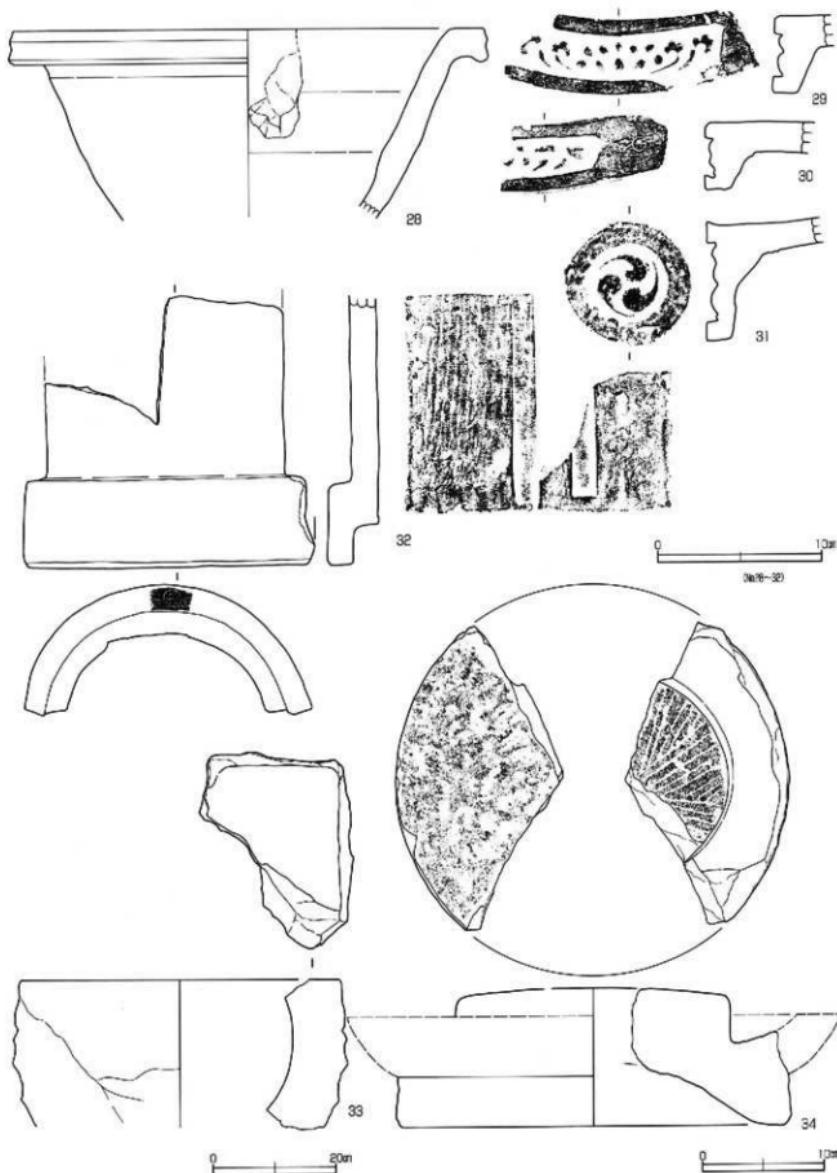


图21 A区7号沟出土遗物

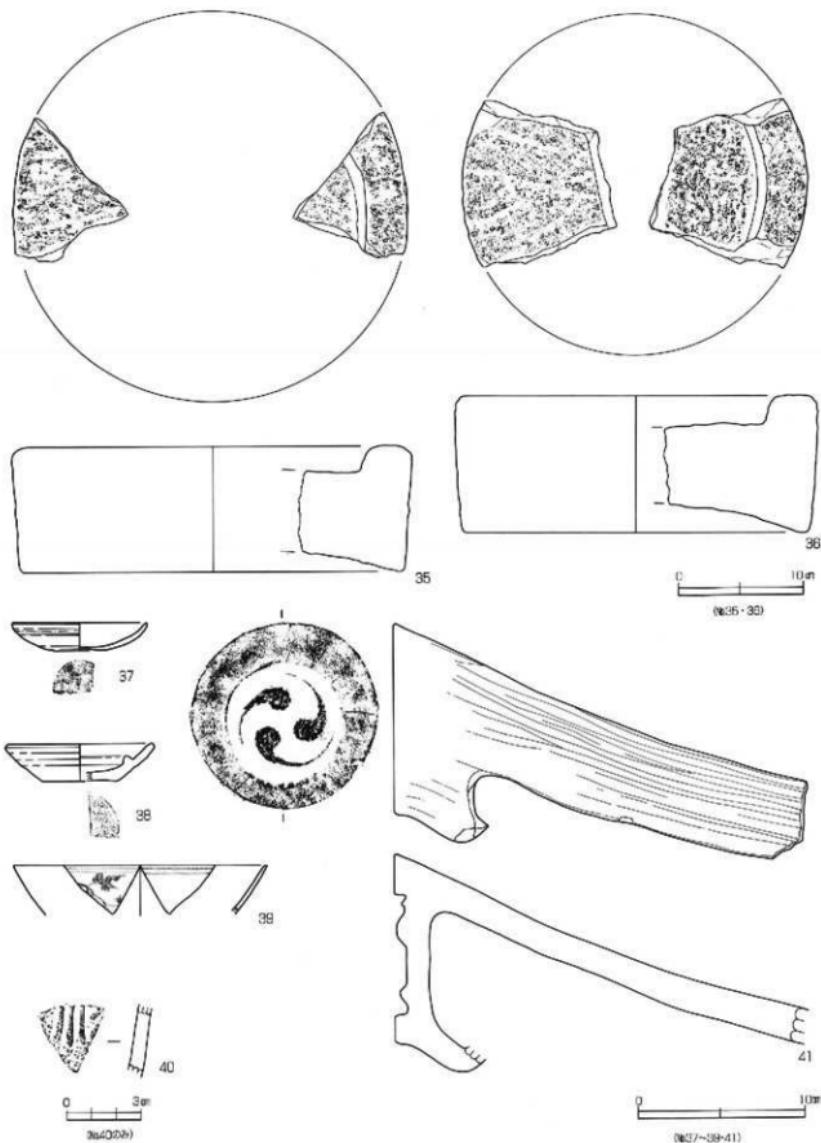


図22 A区7号・8号溝出土遺物

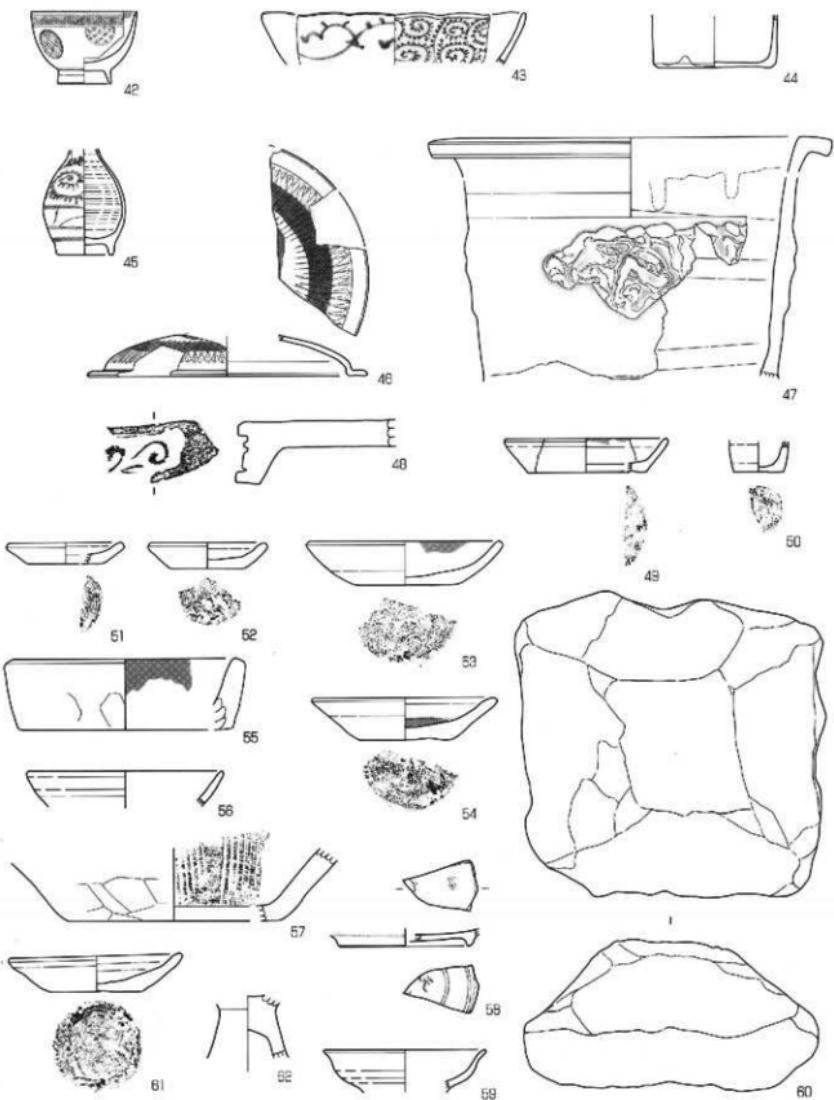


図23 A区10号・11号・12号・13号・14号溝出土遺物

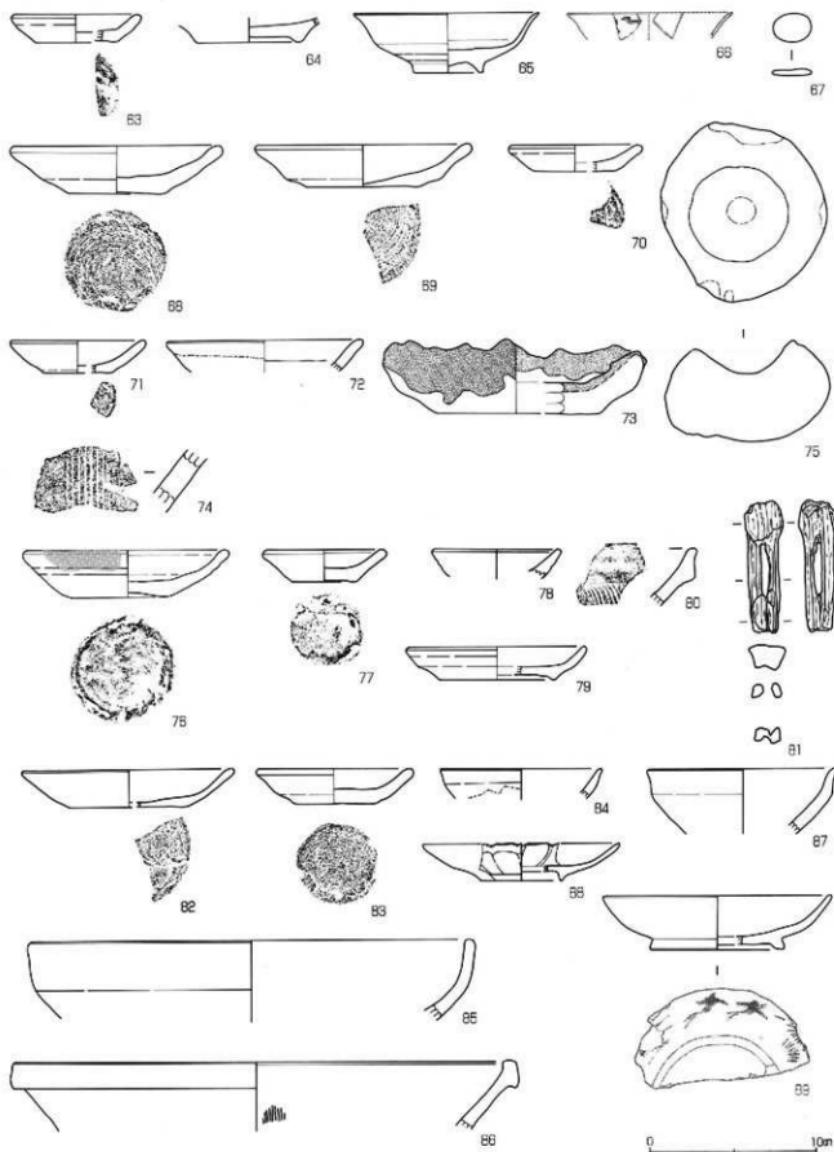


図24 A区1号・2号・3号・4号・5号井戸出土遺物

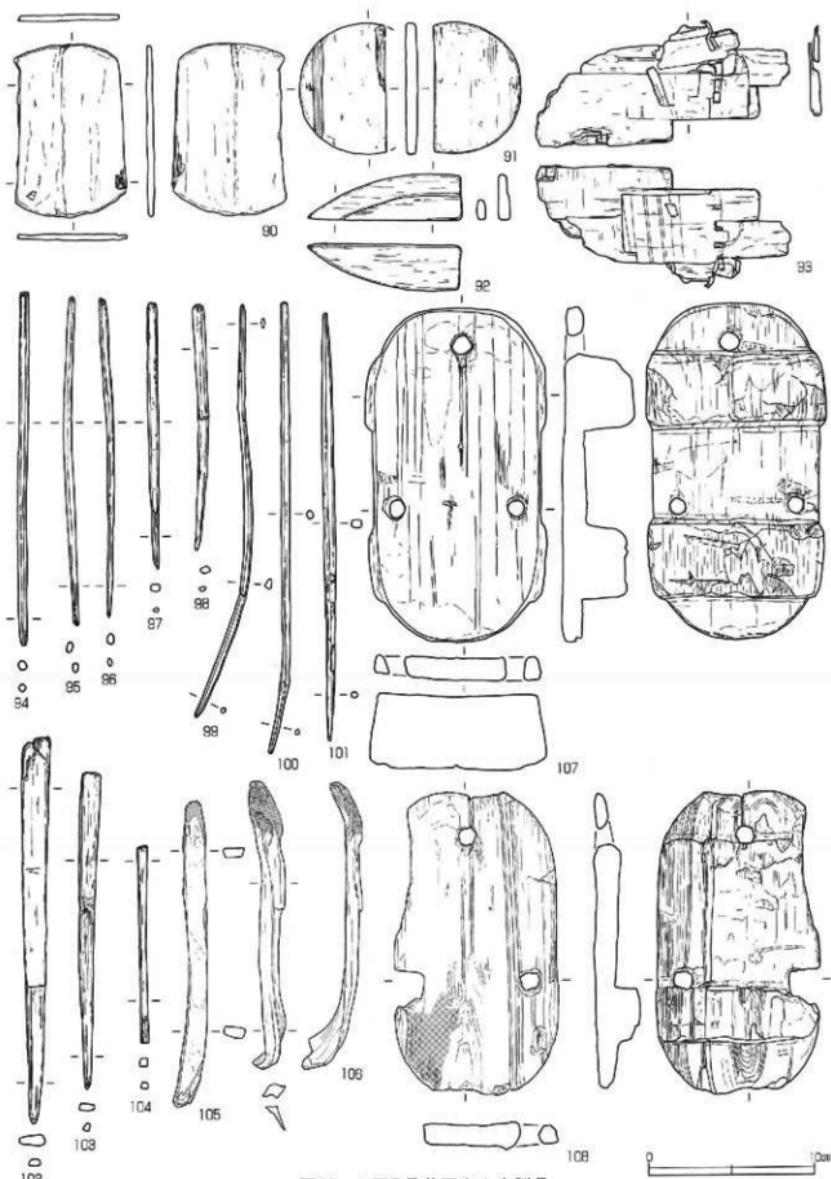


図25 A区5号井戸出土木製品

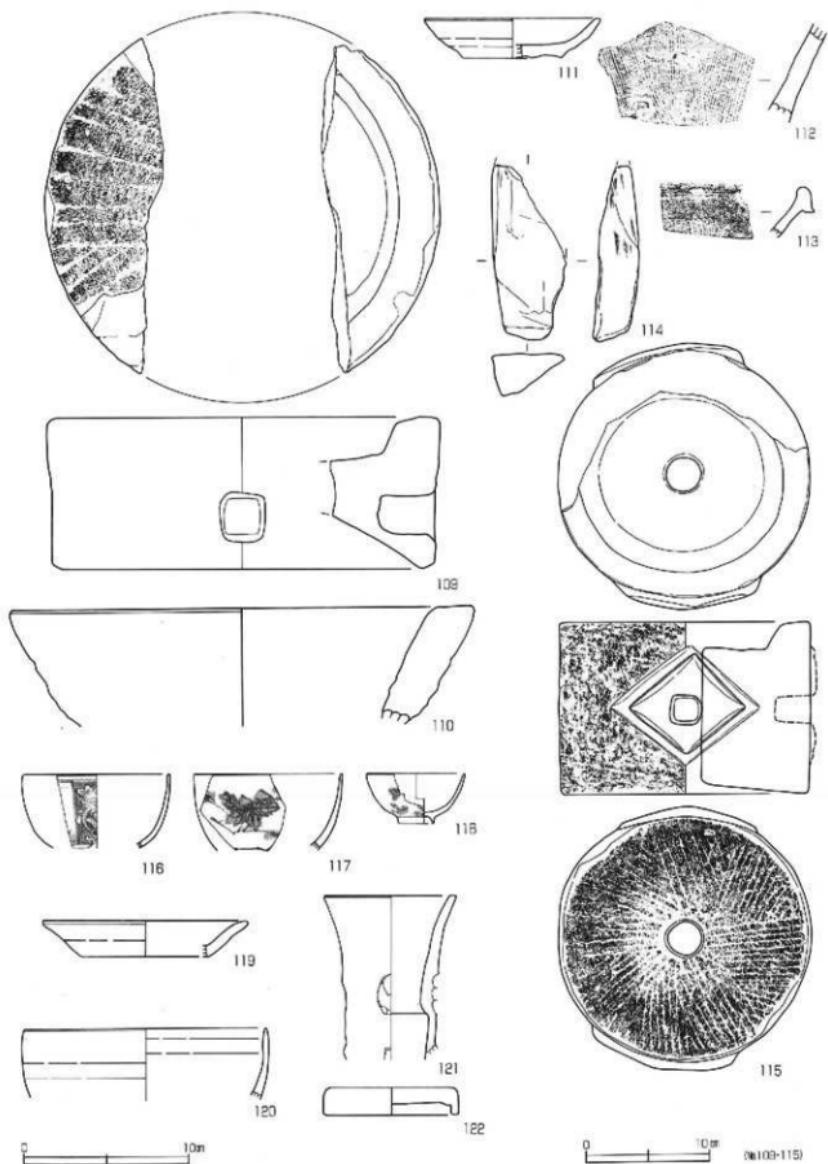


图26 A区5号・6号・7号井戸出土遺物

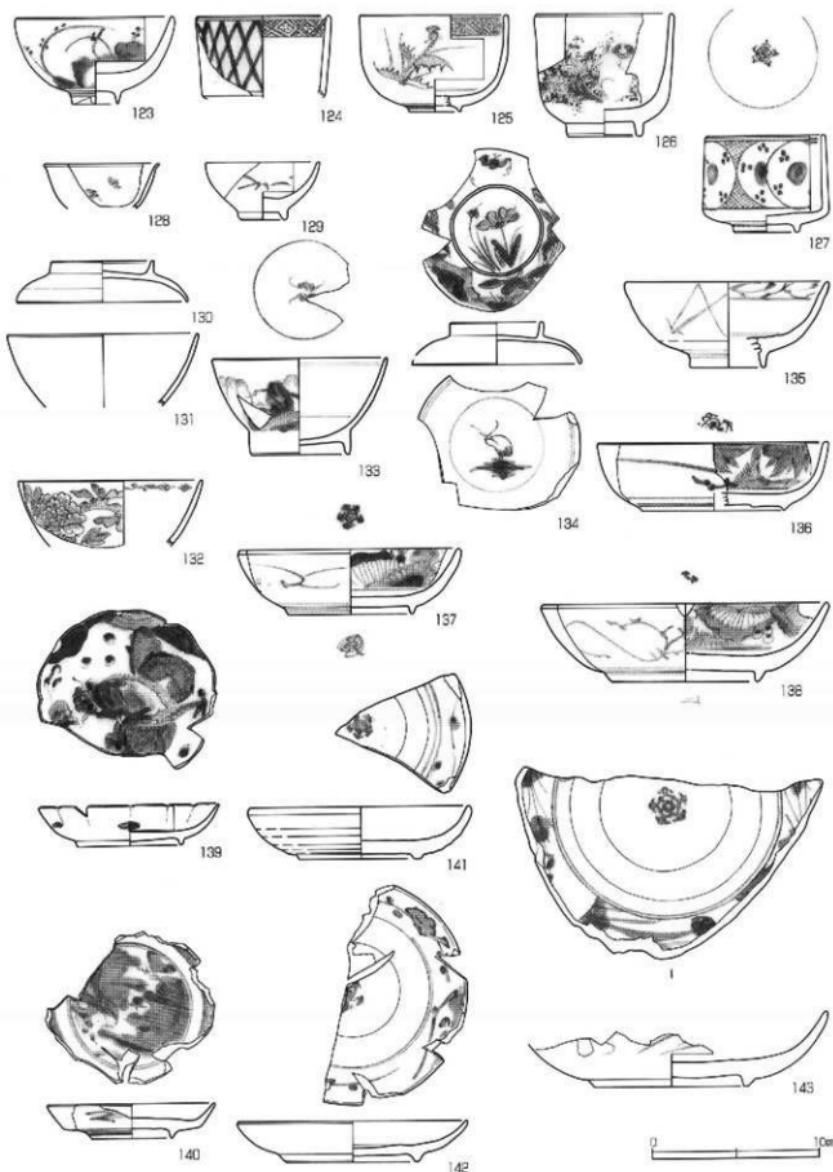


図27 A区8号井戸出土磁器

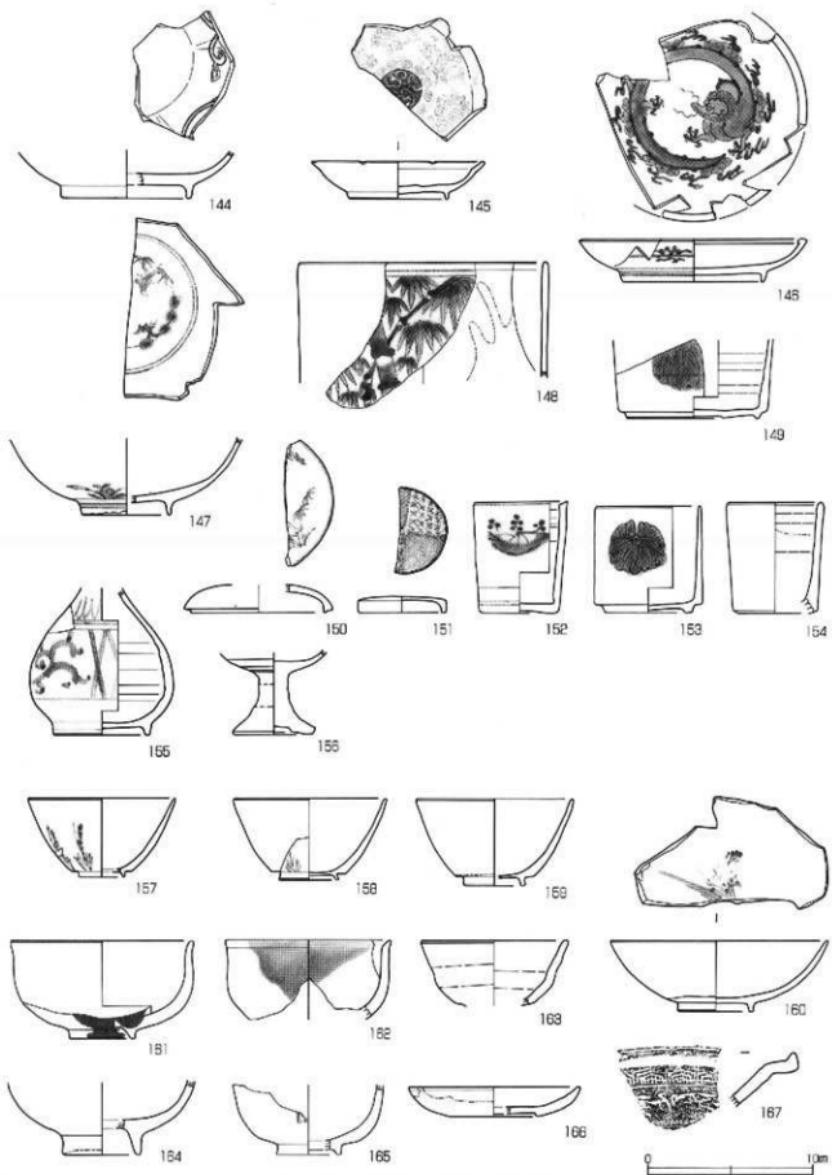


图28 A区8号井出土陶磁器

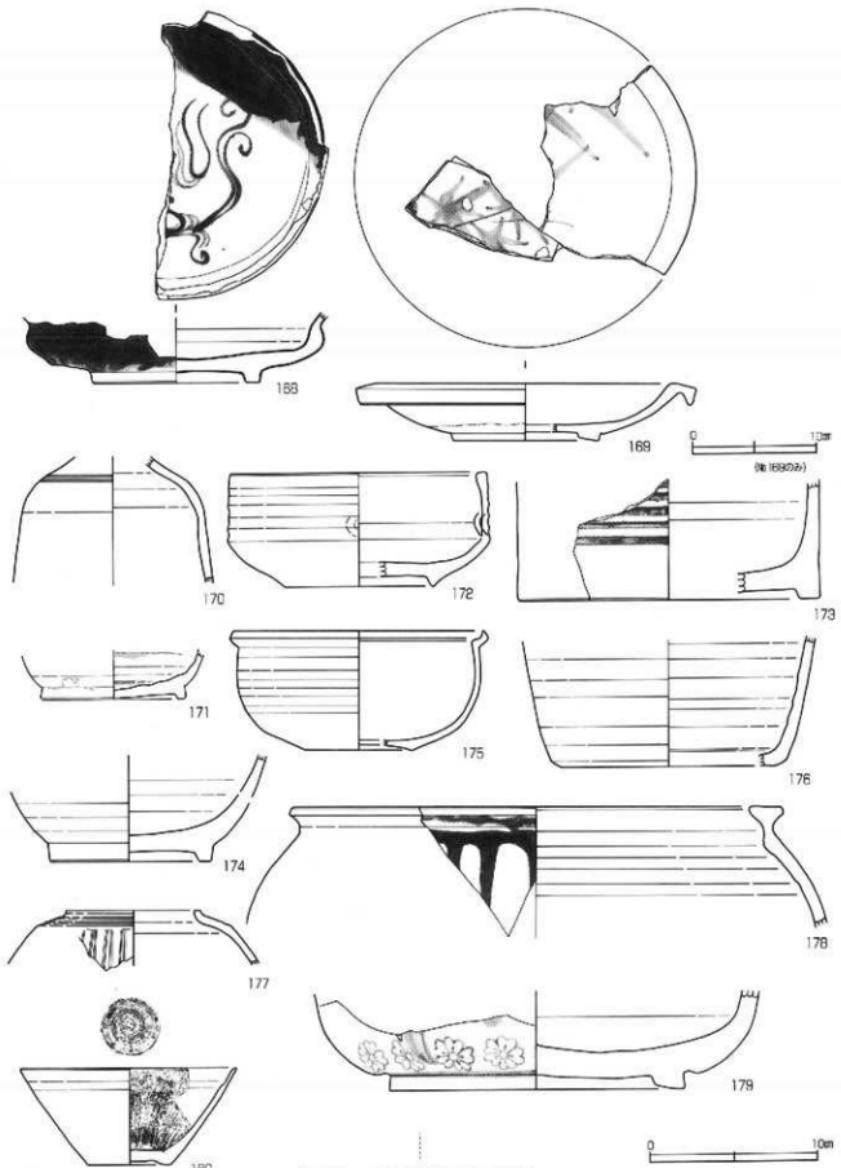


図29 A区8号井戸出土陶器

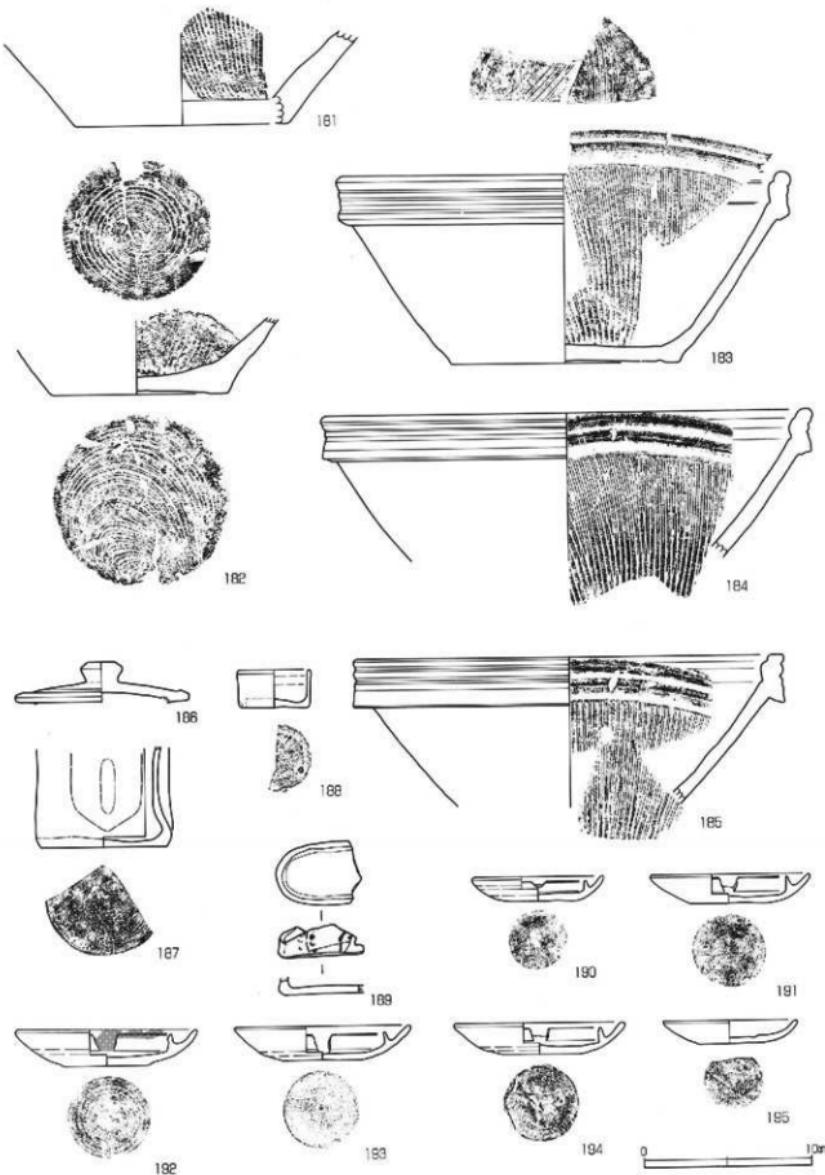


図30 A区8号井戸出土陶器

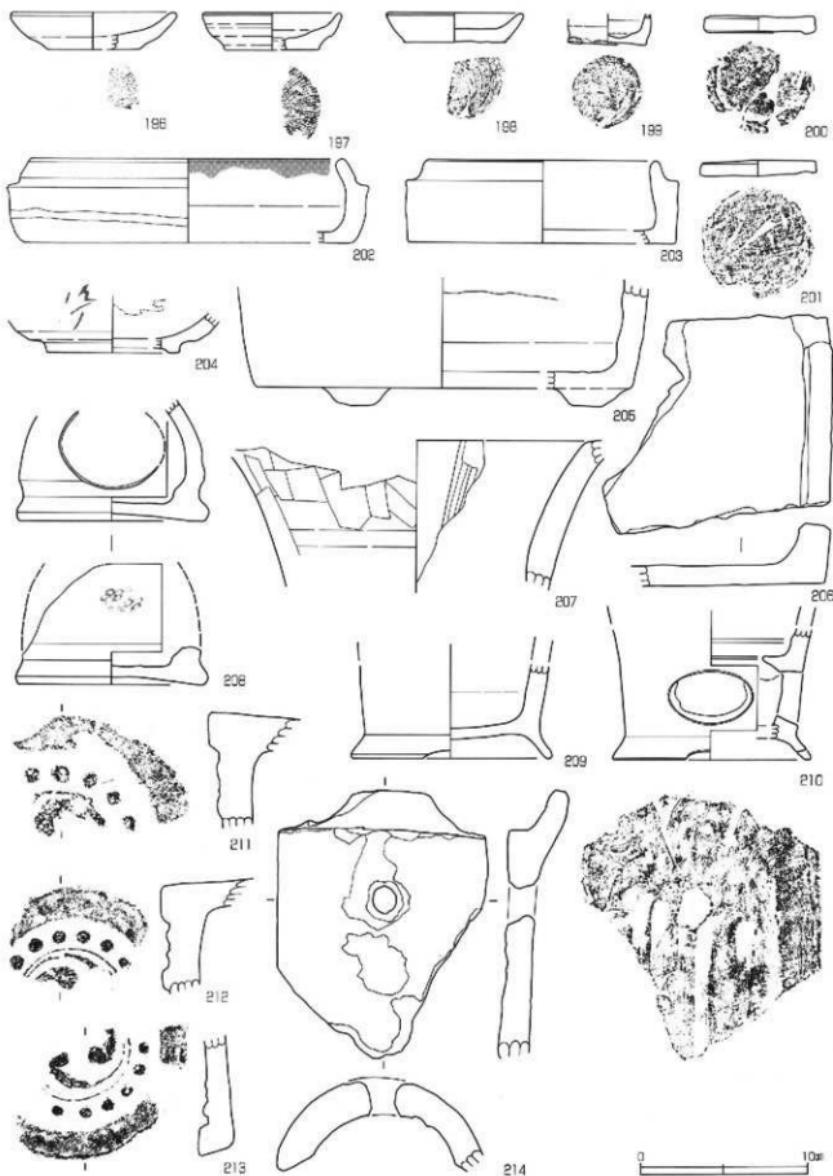


図31 A区8号井戸出土遺物

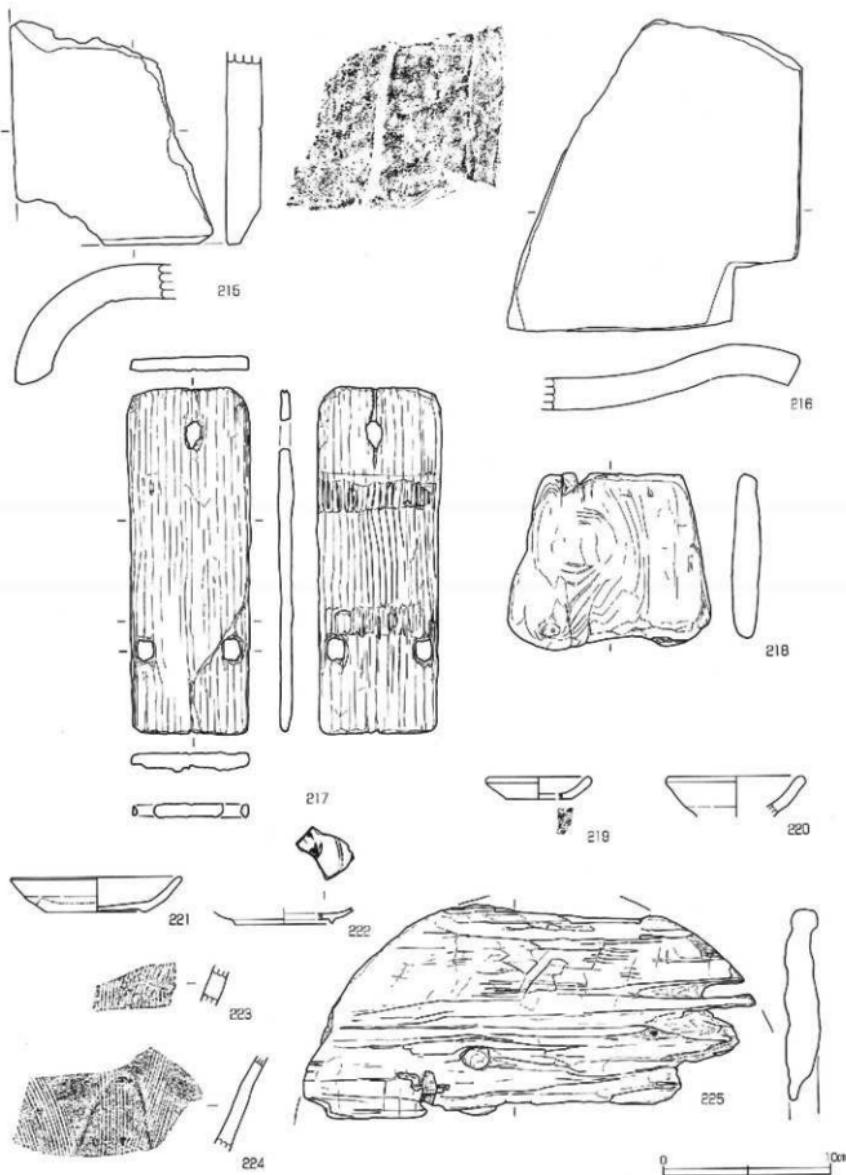


图32 A区8号・9号井戸出土遺物

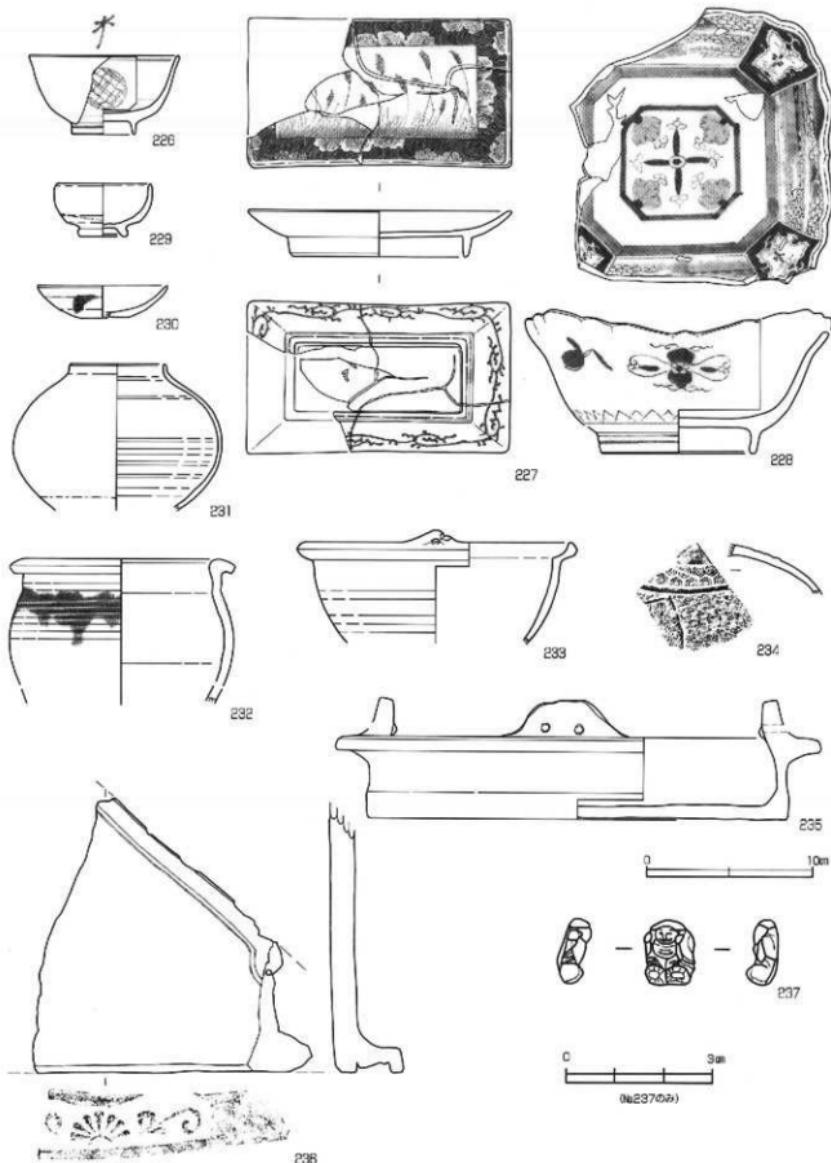


图33 A区1号土坑出土遗物

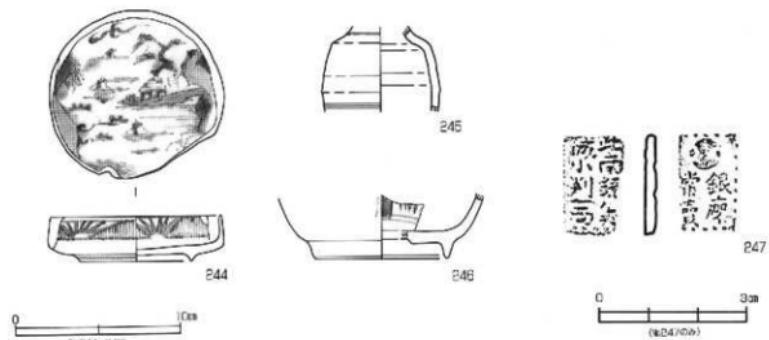
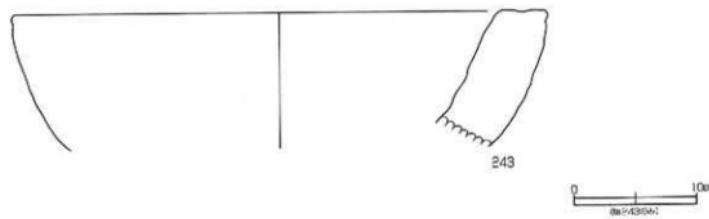
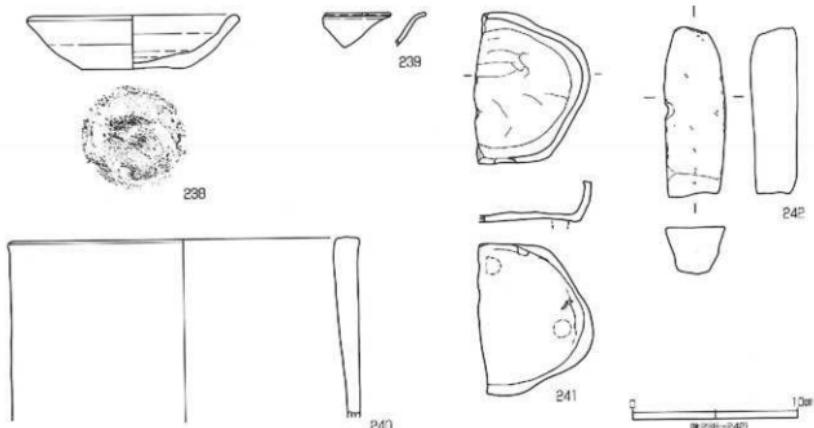


图34 A区2号·3号·8号·13号·21号土坑·埋桶8出土遗物



図35 A区22号土坑出土遺物

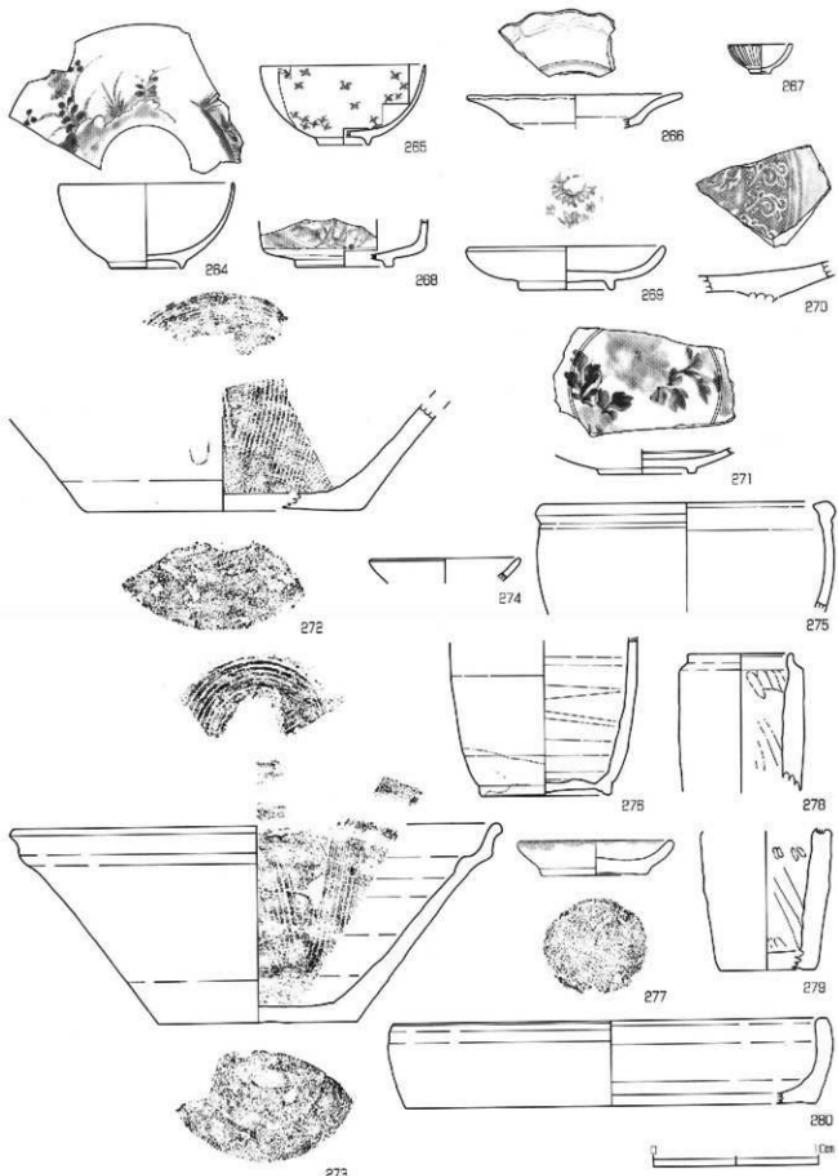
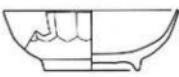
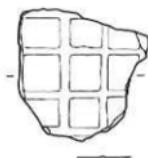


图36 A区23号土坑出土遗物



281



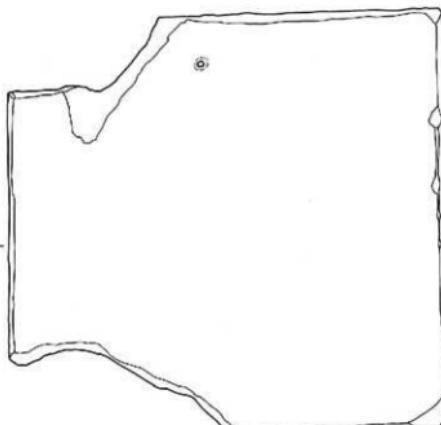
282



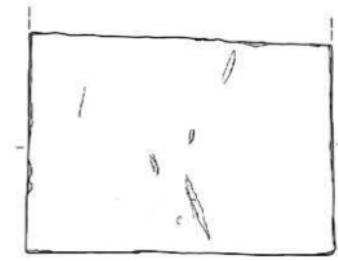
283



0 3cm
0cm 3cm



284



285



286



0 10cm
0cm 10cm

図37 A区24号・26号土坑出土遺物

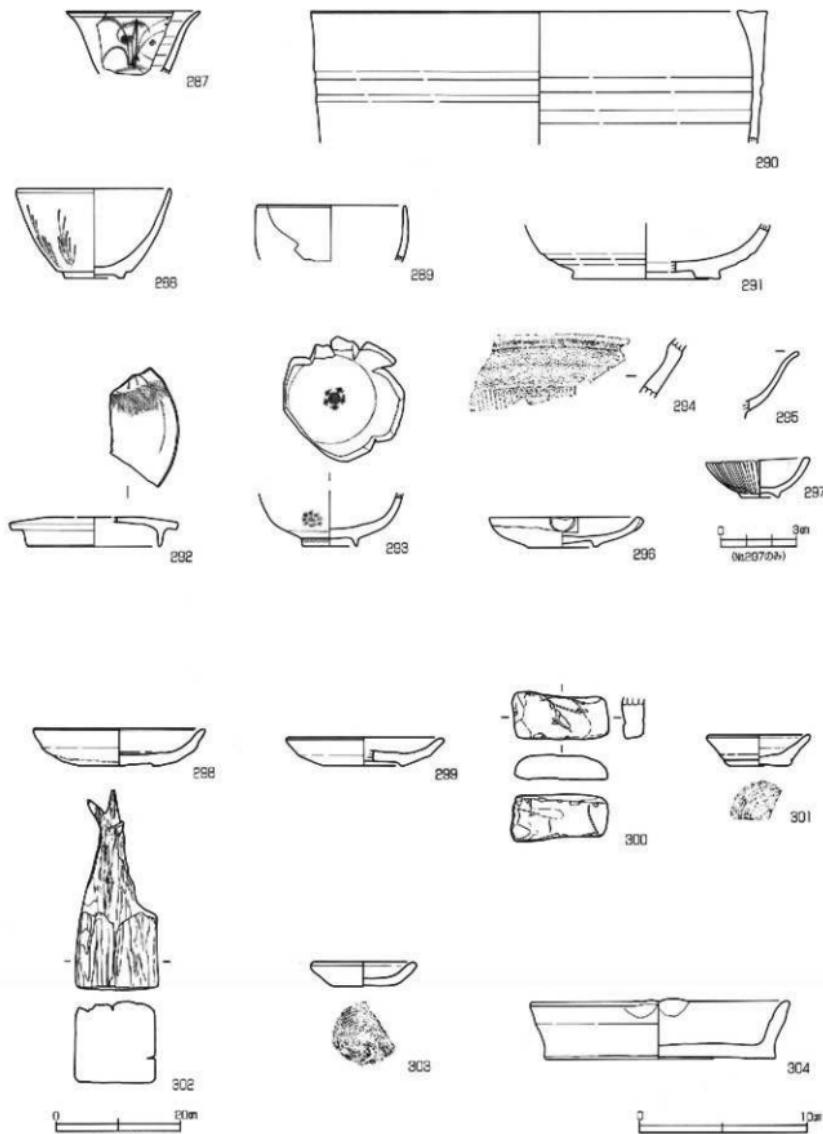


図38 A区6号・25号土坑、ピット51・274・315・369・533・562・588出土遺物

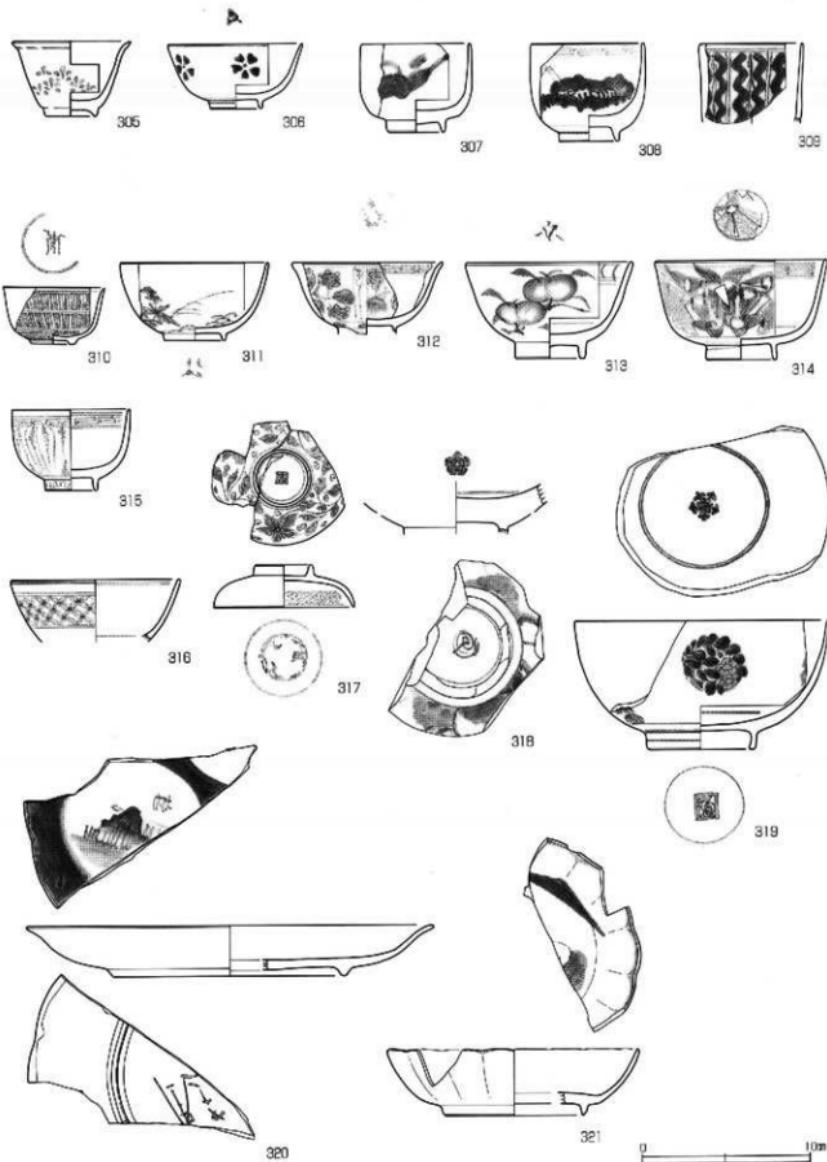


図39 A区グリッド出土遺物

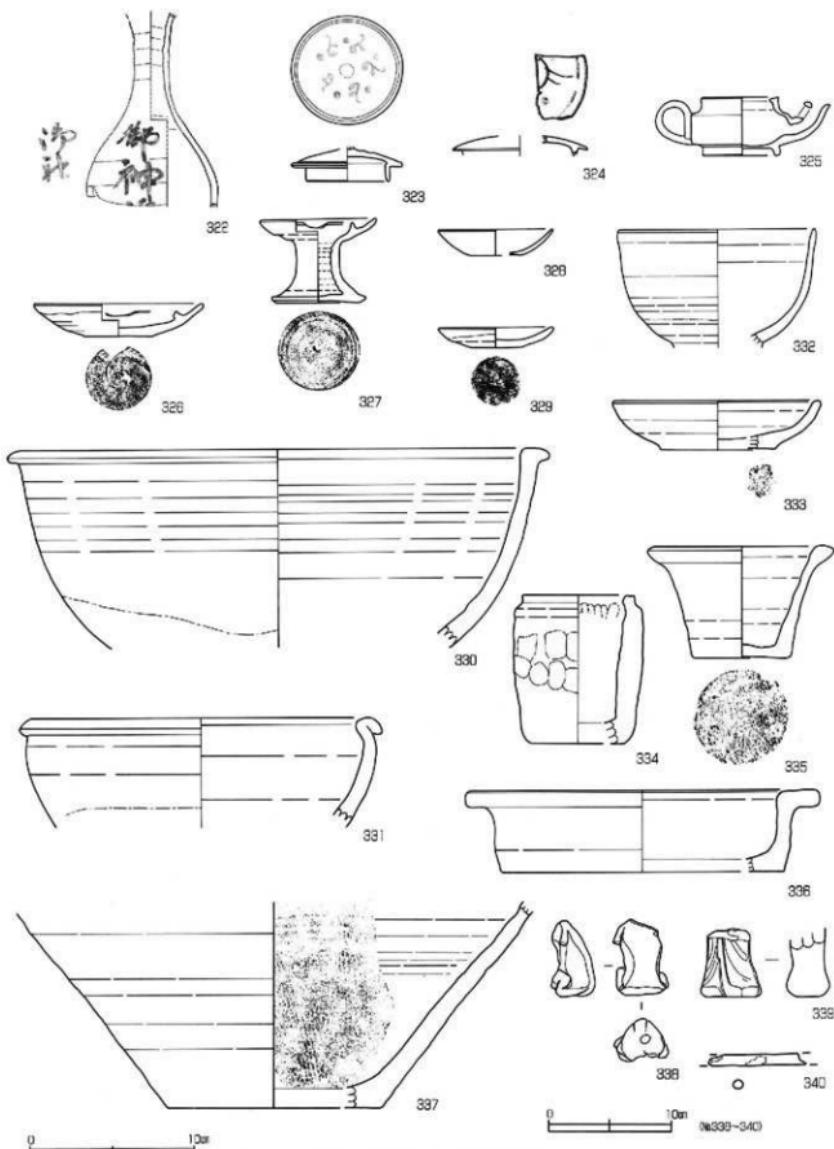


図40 A区グリッド出土遺物

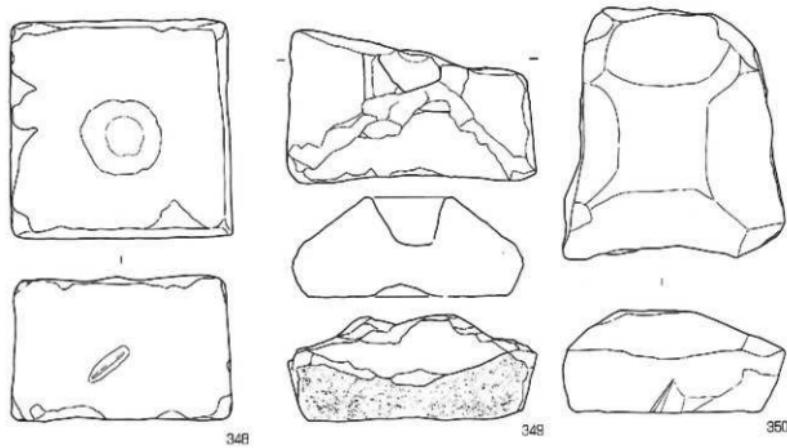
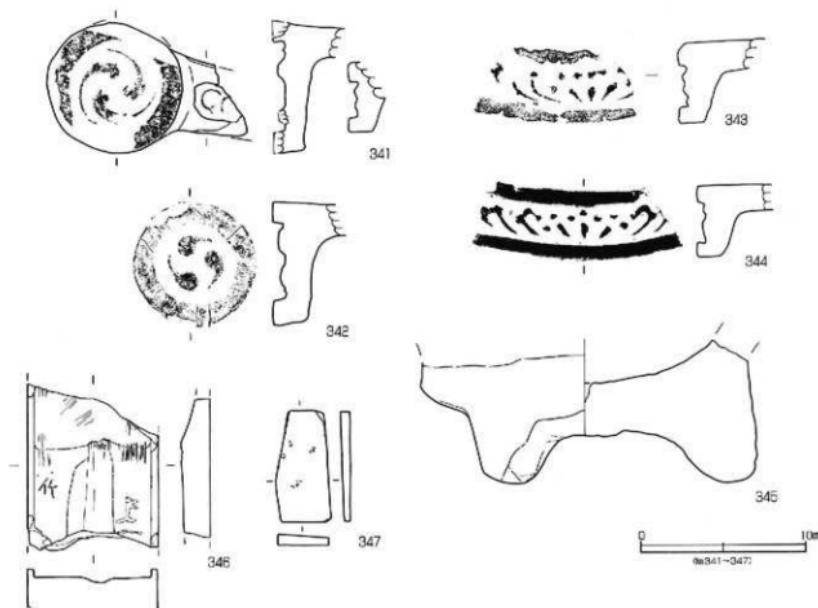


図41 A区グリッド出土遺物

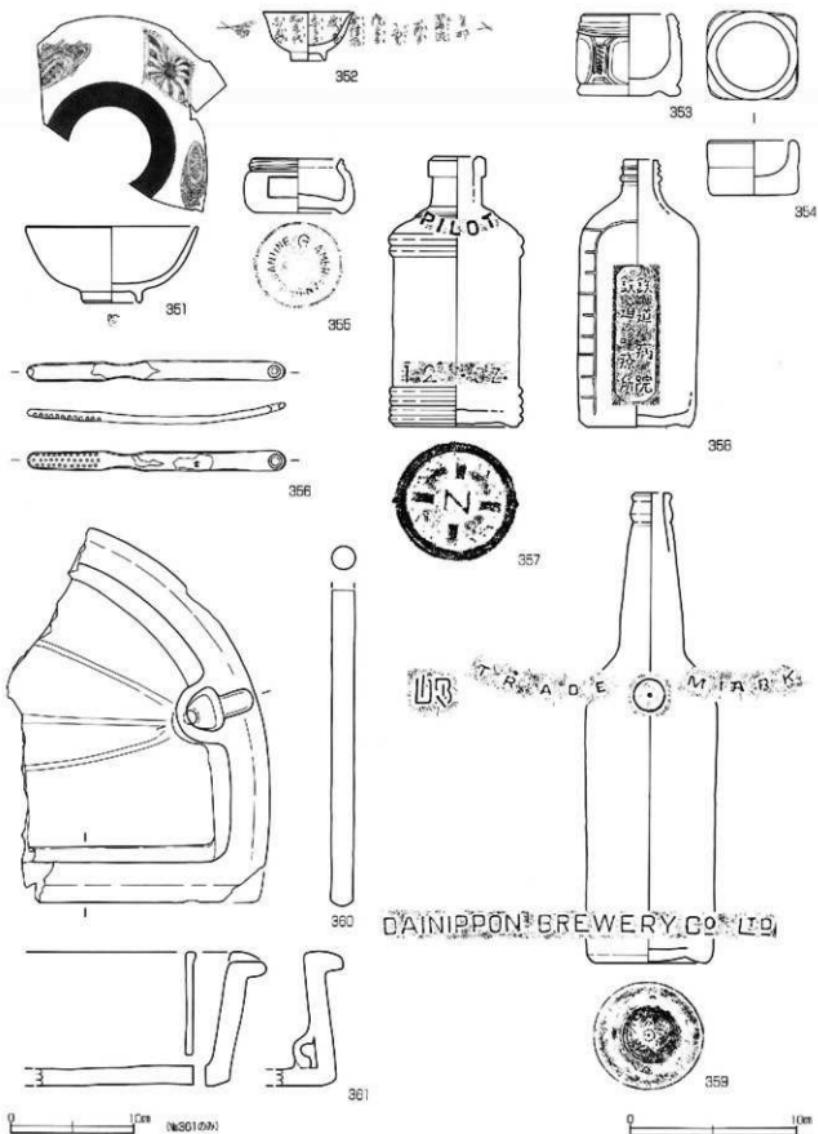
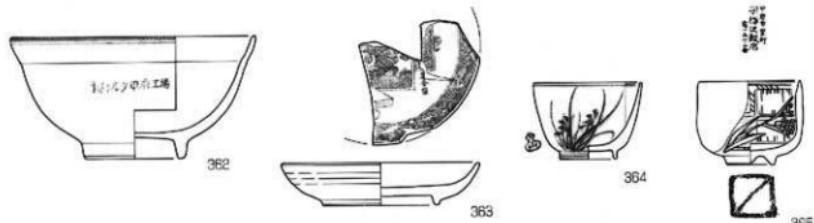
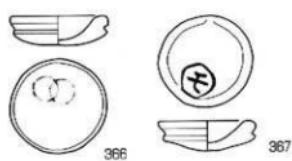


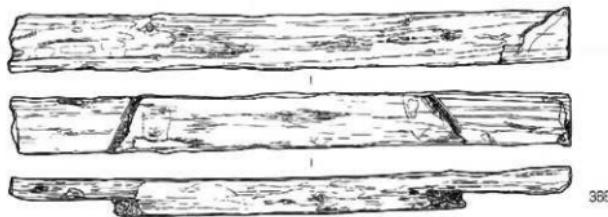
図42 A・B区近代遺物



0 10m
(N:362~365)



0 3m
(N:366~367)



0 20m
(N:368-27)

図43 A・B区近代遺物、A区9号井戸胴木

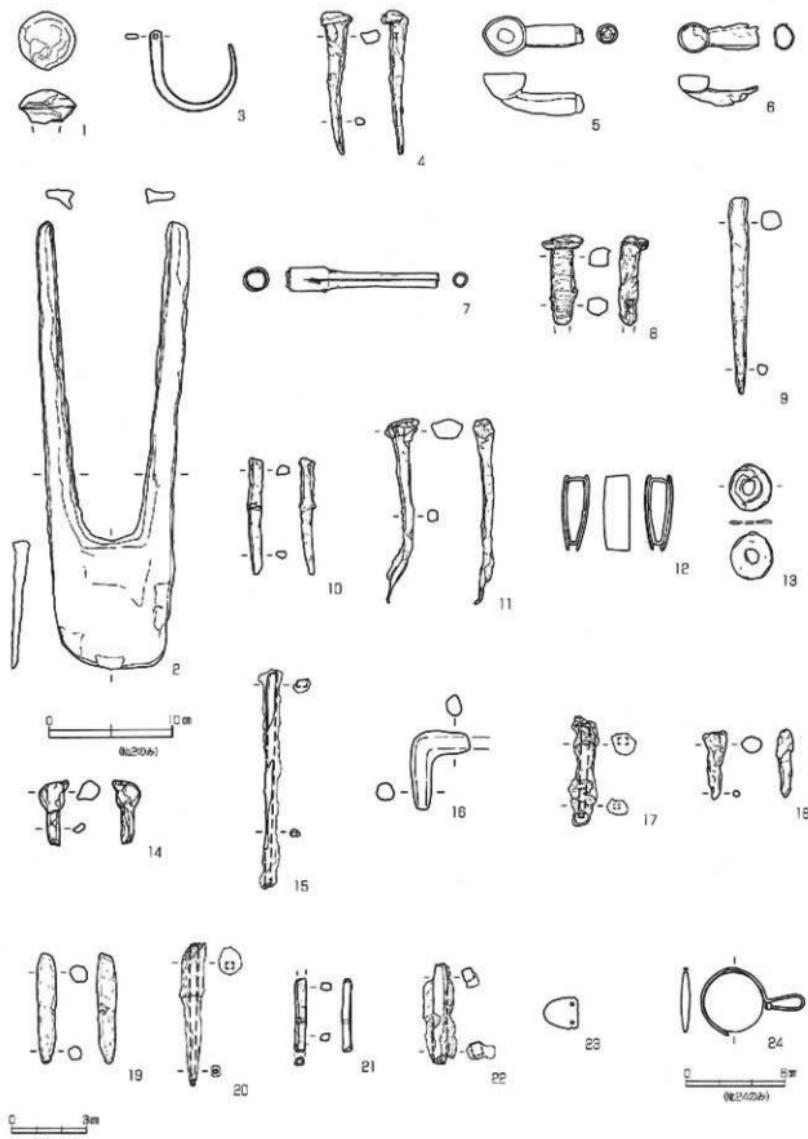
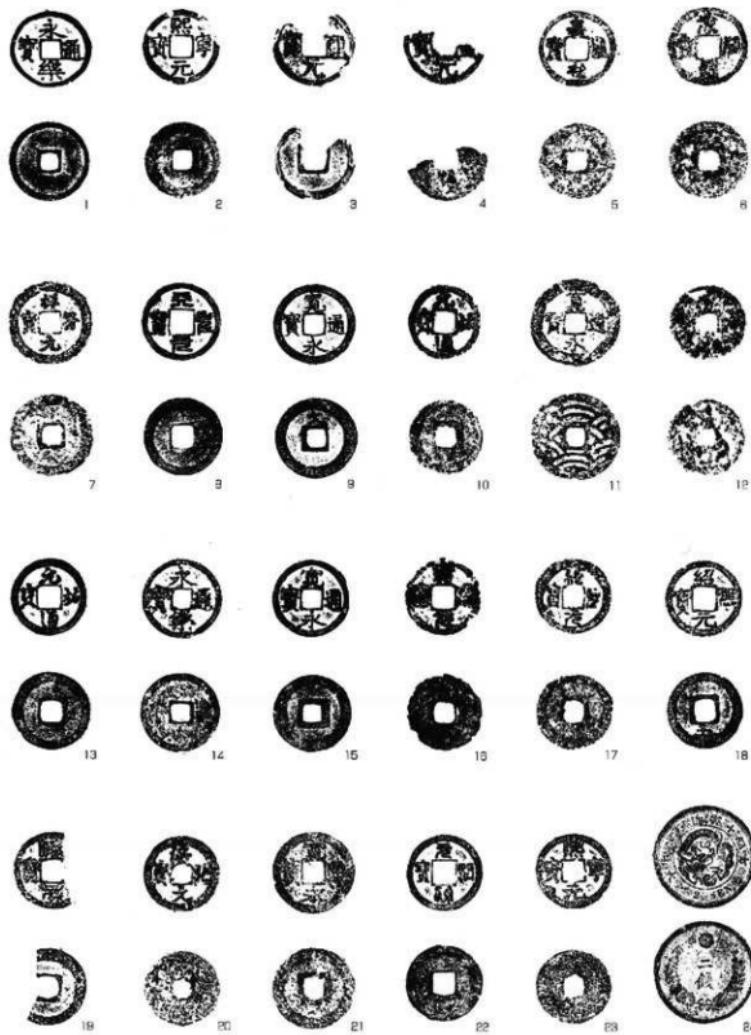


図44 A区出土金属製品



1 2mm

図45 A区出土錢貨

第4章 B区発掘調査の成果

第1節 造構概観

B区は近世の絵図(絵図1)に描かれるように、甲府城二の堀とこれに沿った土塁の存在が推定された場所である。調査の結果、幅約13mの二の堀と土塁の痕跡が出土した。土塁造構の下層からは中世(16世紀)の溝9条・井戸1基・土坑2基・ピット78基が検出された。さらに、追加調査で設定したT-8トレンチからは、近世の井戸1基が確認されている。試掘調査トレンチ(T-1)部分は地山層まで及ぶ擾乱を受けていたが、近代の建物基礎と考えられる集石と溝5条が検出された。

遺物は、かわらけ・瀬戸美濃系天目茶碗・丸皿・擂鉢・五輪塔部材・錢貨等金属製品・木製品など16世紀代が多く、土塁下層から地山層にかけて検出された。二の堀跡からは主に製糸工場関係の遺物が検出された。覆土上面には大量の石炭殻が堆積しており、堀が丸茂製糸場操業後から昭和初期に埋め立てられたことがわかる。石炭殻は製糸工場の燃料として使った石炭の燃え殻である。

第2節 基本層序(図46)

B区はA区の北側50mに位置し、相川扇状地上の標高約282mに位置する。A区と同様に近代以降の製糸工場に関連する擾乱が自然堆積層まで及んでいる部分が見られる。

調査区の基本土層は、現地表面から約60cm下の黄褐色土の自然堆積層との間に、5層が確認されている(図46)。第1層は近代の擾乱層である。第2層は近代の堀埋設土層である。第3・4層は二の堀に伴う土塁の構築層である。第5層は近世以前の堆積層と考えられる。

第3節 造構と遺物

(1) 二の堀(図48・50、写真77)

調査区北側に位置し、北側の道路と平行してE-69°-Wに軸をもつ。試掘調査T-1トレンチで幅11.5m、T-4トレンチで幅13.5m、T-5トレンチで幅13.5mを測る。堀底を検出していないが、

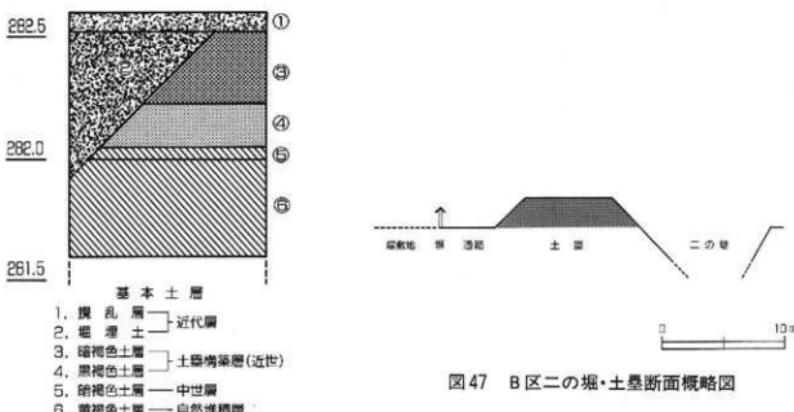
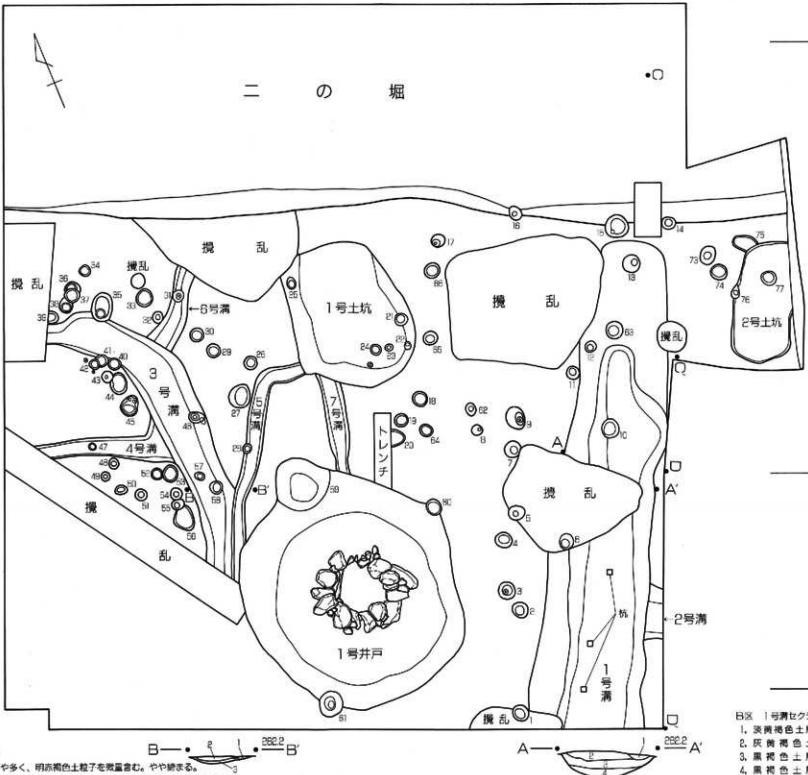


図46 B区基本土層

図47 B区二の堀・土塁断面概略図

二の堀



A

B

C

D

E

0

2m

= 土壌構築層

B区 1号溝セクション

1. 黑褐色土層 黄褐色土粒子と灰化物を少量含む。
2. 黄褐色土層 分少。灰化物と黄褐色土粒子を多く含む。
3. 黑褐色土層 黄褐色土粒子を多く含む。活性がありよく耕される。
4. 黑褐色シルト層 黄褐色の土と灰化物を少含む。やや耕される。

1. 黒褐色土層 沈没を示す。 2. 黄褐色土層 腐化と云ふが見られる。 3. 黑褐色土層 黄褐色土層が混じたもの。 4. 黑褐色土層 黄褐色土層が混じたもの。 5. 黑褐色土層 黄褐色土層が混じたもの。 6. 黑褐色土層 黄褐色土層が混じたもの。 7. 黑褐色土層 やや薄い。 8. 黄褐色シルト層 白色のシルトが混じる。 9. 黑褐色シルト層 黄褐色土層が混じる。 10. 黄褐色土層 黄褐色土層が混じる。 11. 黑褐色土層 黄褐色土層が混じる。 12. 黑褐色土層 黄褐色土層が混じる。 13. 黑褐色土層 黄褐色土層が混じる。

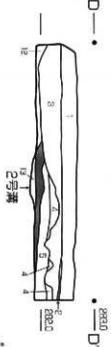
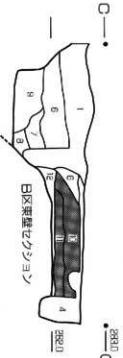


図48 B区 全体図

深さは3mを超える。断面は逆台形状を呈し、北側の立ち上がり部は約60°、南側は約45°を測る。内城の堀は石垣が積まれるが、各種城下絵図に描かれるように二の堀は素掘りであった。石炭殻が上部に堆積し、近代以降の遺物が多量に検出された。特に製糸工場関係の遺物が多く見られ、遺物と石炭殻の堆積状況より、大正末から昭和初期に埋め立てられたものと推定される。

(2) 土 垒 (図48、50、写真75)

現地表面下10cmと極めて浅い部分から土壘の痕跡が検出された。上面及び南側は削平を受け、残存部の基底幅2.8m、高さ0.5m、堀側傾斜角45°を測る。基底部の標高は約282mである。土壘は暗黒褐色1層と黒褐色土層の2層に分かれる。土壘構築層内には地山層の黄褐色土が多く混入していることから、堀の掘削に伴い、堆土を利用して築かれたものと考えられる。

(3) 溝

1号溝 (図48)

N-24°-Eの軸線をもち、長さ約6.15mにわたり検出された。上面幅約1.5m、底部幅約1.0m、深さ約15cmを測り、北から南へ緩やかに傾斜する。溝と平行し、約80cm間隔で径5cmの杭2本が検出された。獸竹・かわらけが検出されている。土壘下層に位置することから、中世の溝と判断される。

2号溝 (図48)

N-66°-Wに軸線をもち、1号溝と直交するかたちで長さ約30cmが確認された。上面幅1.0m、底部幅約0.5m、深さ約10cmを測るが、傾斜方向は不明である。1号溝との新旧関係を把握することはできなかった。遺物は未検出である。

3号溝 (図48)

N-3°-Eに主軸をとる。北側は西へ湾曲し、長さ約6.0mを測る。上端最大幅0.95m、最小幅0.4m、底部最大幅0.6m、最小幅0.2m、深さ約15cmを測る。5号溝に切られるが、4・6号溝との重複関係は不明。かわらけ(図53-15-16)と大窯第1段階の端反皿小片、北宋銭(32)が検出された。

4号溝 (図48)

N-68°-Wに軸線をもち、長さ約2.5mにわたり検出された。東側で北に向かってほぼ直角に屈曲するものと推定されるが、3号溝に切られる。溝は西側で上面幅0.25m、底部幅0.18m、深さ2cmを測る。東側では上面幅0.45m、底部幅0.3m、深さ7cmを測り、東側に緩く傾斜する。鉄貨2枚・かわらけ・瀬戸美濃系陶器など、いずれも16世紀段階の遺物小片が検出されている。

5号溝 (図48)

N-32°-Eに主軸をもち、北側は東方向へL字状に屈曲する。東西約0.7m、南北約3.5mの長さで確認された。北側は1号土坑によって切られ、南側は3号溝を切る。上端最大幅約0.3m、底部幅0.2m、深さ約3cmを測り、南側に向かって緩やかに傾斜している。遺物は検出されていない。

6号溝 (図48)

北側は擾乱を受け、南側は3号溝によって画される。N-16°-Eに軸線をとり、長さ約1.8mにわたり検出された。上端最大幅0.5m、底部最大幅0.25m、最深約15cmを測り、南に緩やかに傾斜する。遺物はかわらけの小片が検出された。

7号溝 (図48)

北側は1号土坑、南側は1号戸戸によって画される。N-53°-Eに軸線をとり、長さ約1.8mにわたり検出された。上端最大幅0.4m、底部最大幅0.25m、最深約8cmを測り、南側へ緩やかに傾斜する。遺物はかわらけの小片が検出されている。

8号溝 (図50、写真78・81・88)

B区東側5mのT-6トレチに位置する。トレチの約1m下部から、二の堀・土壘・溝1条・ピット4基が検出された。地山層に掘り込まれ、二の堀にはほぼ直交し、N-21°-Eに軸をもつ。上面幅約0.7m、底面0.2~0.3m、最深17cmを測る。出土遺物(図53-22~27・31)は、かわらけ(22~25)・錢貨・小刀状金屬製品(31)・瀬戸美濃系陶器(大窯第2段階、26~27)など、16世紀代に属する。

9号溝（図50・写真79）

T-1トレーニングの東側1.7mに位置する、南北約7.3m、幅2.8~3.0mのトレーニングに位置する。遺構は、二の堀・土塁・溝1条・ピット1基が確認された。地山層に掘り込まれ、二の堀に対しほば直交する。南北方向N-21°-Eに軸をもち、南方に延びる。上面幅1.45~1.15m、底面0.5~0.3m、深さ17cmを測る。覆土からは16世紀代と考えられるかわらけが検出されている。

（4）井戸

1号井戸（図49、写真76・83・84）

調査区中央部のC-20グリッドに位置する。確認面の標高は382mである。北東一南西方向に長軸をもつ、楕円形を呈した石積みの井戸である。上面の長軸4.8m、短軸3.8m、深さ3.5mを測る。石積みは長軸1.0m、短軸0.8mの不整形であり、井戸底部には、径約10cmの木材4本が井桁状に据えられている。その上から径約40~70cmの安山岩の山石を奥行きを深くとて垂直に積みあげている。

出土遺物（図52-1~14）は、かわらけ・瀬戸美濃系天目茶碗・志戸呂製播鉢・木製品・五輪塔部材など、いずれも16世紀末の所産である。土壌構築工事により、井戸は廃絶されたものと推定される。

2号井戸（図51、写真80・87）

B区の南西側23mのT-8トレーニングから検出された。表土上面は擾乱を受けており、標高281mの地山層で掘り込みを確認した。上面の長径は2.5m、短径2.3mを測り、深さ3.7mを測る。井戸上面から約1m下がった位置から径1.2m程度となって垂直に落ちこむ。内部から径50~70cmの自然石が多数確認された。遺物は少ないが、志野焼の小片と木片（図53-30）が検出された。時期の特定は困難ではあるが、17世紀代まで遡る可能性も考えられる。

（5）土坑

1号土坑（図49、写真85）

北は二の堀と擾乱で削平されている。N-17°-Eに主軸をもつ。南北約2.7m、東西2.2mの方形で、深さ約20cm。試掘時に16世紀のかわらけ・天目茶碗・染付皿・五輪塔部材が出土している。

2号土坑（図49）

B区北東隅追加調査部分の土壌基底部下層から検出された。N-17°-Eに主軸を持つ、長軸2.2m、短軸1.05m、深さ7cmを測る隅丸長方形の遺構である。遺物は未検出であるが、近世の土壌の下層から検出されたことから、中世の遺構と考えられる。

（6）ピット（図48・50、表19）

B区及び追加調査区において、ピット78基が確認された。広範囲に擾乱を受けているため未検出の部分もあるが、ほぼ全城に広がっていたものと考えられる。掘立柱建物・棚列などの存在も推定されるが、今回の調査では把握できなかった。土壌下層から検出されたピット74からは、完形品の土製香炉（図52-20）が出土している。他のピットについては別掲・一覧表にまとめて報告する。

（7）遺物観察表

B区出土遺物を、別掲の表にまとめ、一覧化した。

第4節 試掘調査トレーニング（図51、写真82）

B区西側に位置する幅2m、長さ34mのトレーニングである。近世の擾乱層は地表下約80cmの地山層にまで及び、遺構はいずれも地山層に掘り込まれた状態で確認されている。北側で検出された二の堀は幅12.8mを測るが、土壌は確認されていない。5条の溝はいずれも東西方向に軸をもつ。5基の集石は南北方向に一直線に並び、溝・集石とともに堆積土の状況から近代の所産と考えられる。

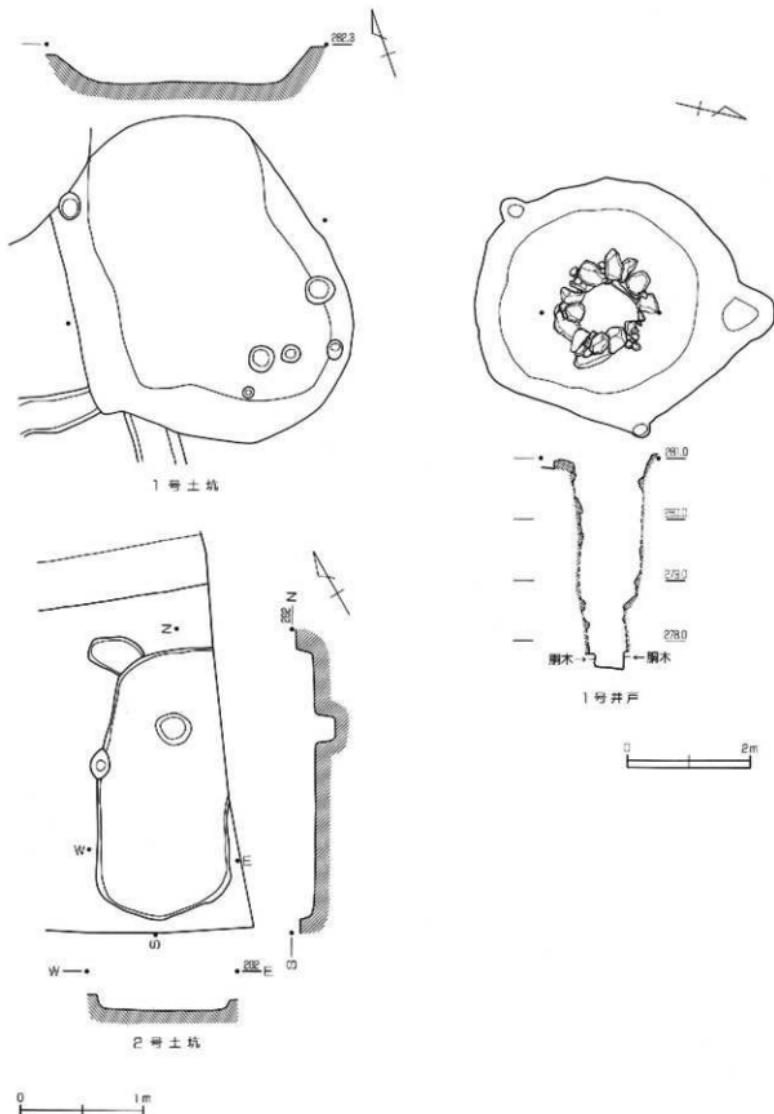
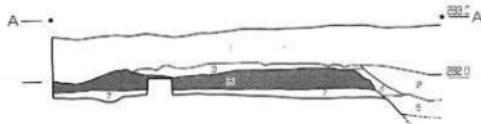
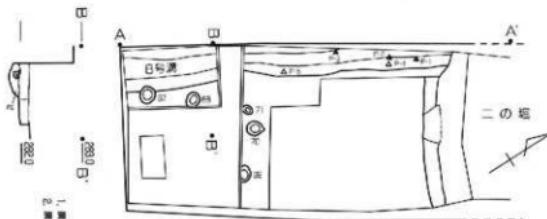


図49 B区1号・2号土坑、1号井戸平面図・エレベーション



1. 黒色土層
2. 黒褐色土層 地山土と類似する。
3. 黑褐色土層 地山土と類似する。
4. 褐褐色土層
5. 淡褐色灰土層 地上部の褐褐色土。
6. 黑褐色土層 地上部を多く含む。(十日町地層)
7. 黑褐色土層 少量。深(615~720)を除く。(日向灘性土)

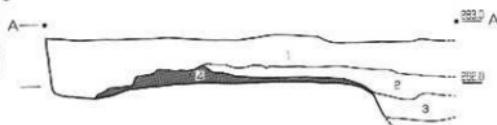


日向灘出土物

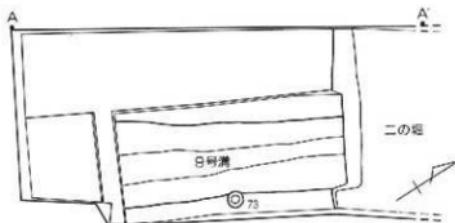
- P-1 カラマツ (昭53年2月)
- P-2 カラマツ (昭53年2月)
- P-3 カラマツ (昭53年2月)
- P-4 会葉製品 (昭53年3月)
- P-5 銀 鉛

T-6 (追加調査トレンチ)

1. 黒褐色土層 地山土と類似する。粘土質で、柱状節理あり。
2. 黑褐色土層 地山土と類似する。粘土質で、柱状節理あり。



1. 黒色土層
2. 黒褐色土層 地山土と類似する。粘性あり。
3. 黑褐色土層 地山土と類似する。
4. 黑褐色土層 地上部を多く含む。(土壁崩落層)



T-7 (追加調査トレンチ)

= 土壁構築層



図50 B区追加調査トレンチ、平面図・セクション

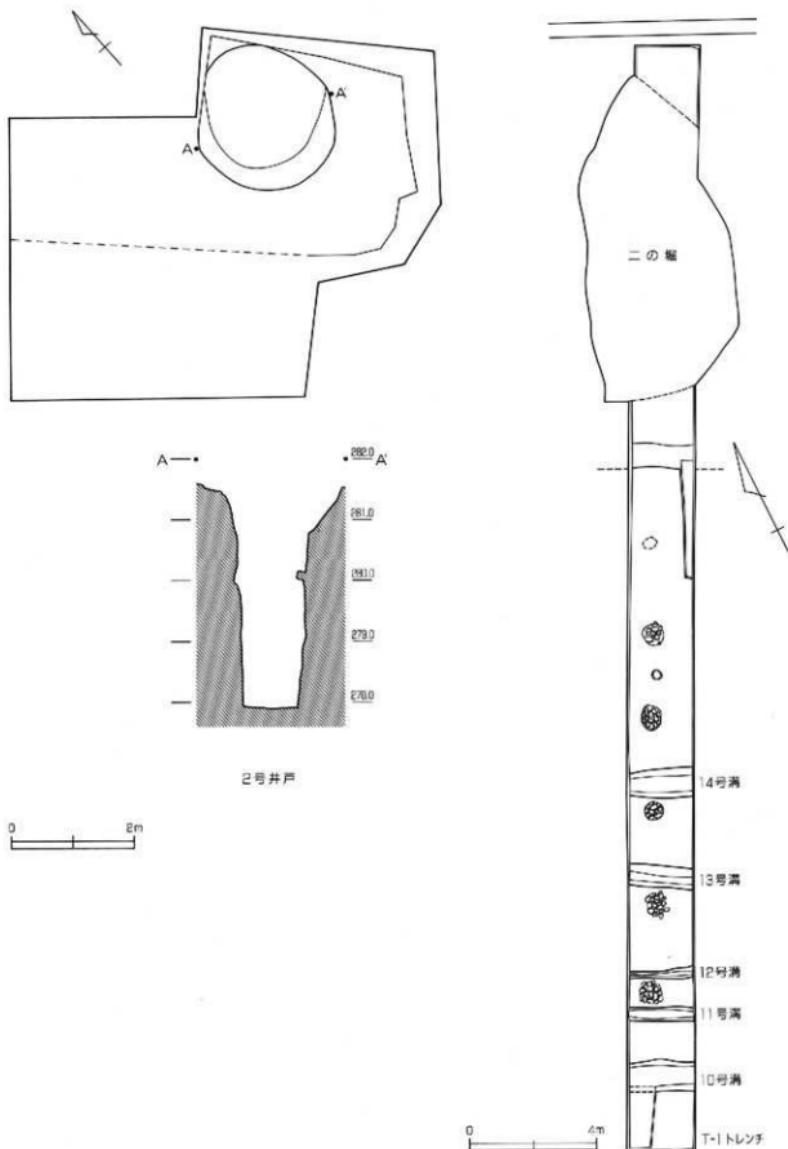


図51 B区2号井戸平面図、試掘トレンチT-1 平面図

(1) 溝

10号溝

N—69°—Wに軸線をもち、トレンチ幅2mにわたり検出された。上端約1.0m、下端約0.6m、深さ約30cmを測る。黒褐色土が多く堆積し、溝上面及び周辺からは大正時代以降の遺物が出土した。

11号溝

N—69°—Wに軸線をもち、トレンチ幅2mにわたり検出された。上面幅0.4~0.45m、下端約0.2m、深さ約10cmを測る。黒褐色土が多く堆積しているが、遺物はない。

12号溝

N—75°—Wに軸線をもち、西側へ緩やかに傾斜する。近代の上管が埋設され、上面幅0.2~0.3m、深さ5~10cmを測る。

13号溝

N—65°—Wに軸線をもち、トレンチ幅2mにわたり検出された。上面幅0.65~0.7m、下端約0.2m、深さ約20cmを測る。溝内は黒褐色土が多く堆積していた。

14号溝

N—77°—Wに軸線をもち、トレンチ幅2mにわたり検出された。上面幅0.9~0.7m、深さ約10cmを測る。径2~3cmの砾を含む黒褐色土が堆積していた。

(2) 集石遺構

N—18°—Eの軸線上に、約2.8m間隔で5基が並ぶ。上端径約60~70cmの円形状の掘込みに径15~20cmの自然石が多數埋め込まれており、建物の礎石を据えるための根石と考えられる。遺物は未検出であるが、近代の遺構と推定される。

表19 B区ピット観察表

番号	位置	平面形	長径	短径	深さ	備考	
						遺物	残存値(%)
1	D-19	円形	34	—	27		
2	D-20	円形	28	—	60		
3	D-20	円形	30	—	55		
4	D-20	精円形	31	26	30		
5	D-20	円形	30	—	51		
6	D-20	円形	24	—	25		
7	D-21	円形	32	—	52		
8	D-21	円形	18	—	20		
9	D-21	精円形	44	34	49		
10	D-21	円形	36	—	28		
11	D-21	円形	24	—	37		
12	D-21	円形	18	—	28		
13	D-21	円形	30	—	36		
14	D-22	円形	26	—	35		
15	D-22	円形	44	—	22		
16	D-22	円形	22	—	11		
17	D-22	円形	25	—	16		
18	C-21	円形	27	—	5		
19	C-21	円形	26	—	26	土鍋	
20	C-21	円形	30	—	10		
21	C-21	円形	24	—	14		
22	C-21	円形	13	—	21		
23	C-21	円形	15	—	16		
24	C-21	円形	20	—	13		
25	C-21	円形	21	—	21		
26	C-21	円形	23	—	4		
27	C-21	円形	44	—	20		
28	C-21	円形	17	—	23		
29	B-21	円形	24	—	31		
30	B-21	円形	25	—	23		
31	B-21	円形	18	—	23		
32	B-21	円形	18	—	12		
33	B-21	円形	29	—	25		
34	B-21	円形	18	—	8		
35	B-21	精円形	45	38	13		
36	B-21	円形	29	—	25		
37	B-21	円形	26	—	7		
38	B-21	円形	24	—	27		
39	B-21	円形	22	—	24		
40	B-21	円形	24	—	6		
41	B-21	円形	24	—	7		
42	B-21	円形	19	—	9	41を切る	
43	B-21	円形	20	—	17		
44	B-21	精円形	40	33	10		
45	B-21	不整円形	40	31	14		
46	B-21	円形	28	—	25		
47	B-21	円形	13	—	9		
48	B-21	円形	17	—	11		
49	B-20	円形	17	—	12		
50	B-20	円形	23	—	11		
51	B-20	円形	23	—	21		
52	B-21	円形	19	—	23		
53	B-21	円形	28	—	28		
54	B-20	円形	21	—	24		
55	B-20	円形	22	—	17		
56	B-20	不整円形	43	38	7	56を切る 55に切られる	
57	B-20	円形	49	—	11		
58	B-20	円形	24	—	20		
59	C-20	不整円形	48	—	27		
60	C-20	円形	29	—	7		
61	C-19	円形	44	—	18		
62	D-21	円形	24	—	7		
63	D-21	円形	31	—	55	土器	
64	C-21	円形	28	—	4		
65	C-21	円形	26	—	38		
66	C-21	円形	30	—	0		
67	T-6	円形	29	—	35		
68	T-6	円形	25	—	19		
69	T-6	精円形	28	—	23		
70	T-6	円形	24	—	25		
71	T-6	精円形	18	12	5		
72	T-7	円形	27	—	15		
73	D-22	精円形	34	28	21		
74	D-21	円形	29	—	0	香炉形土器	
75	D-22	精円形	<46>	30	8		
76	D-21	不整円形	22	16	31		
77	D-21	円形	27	—	24		

(単位: cm)

表20 日区遺物觀察表

() 復元値、() 残存値

図	番号	出土位置	種別・器種	法 量(cm)			部位	観察所見(技法・文様・その他)	推定生産地	推定年代	備考	
				口径	底径	高さ						
52	1	1号井戸	土器	かわらけ (13.8)	(8.8)	2.65	口縁～底部	内外面ロクロ成形、底部回転系切り、外面部化物付着				
"	2	1号井戸	土器	かわらけ (8.0)	—	<1.4	口縁部	内外面ロクロ成形				
"	3	1号井戸	陶器	天目茶碗 (11.0)	—	<5.0	口縁～底部		瀬戸・美濃 大室4			
"	4	1号井戸	陶器	天目茶碗 11.8	4.0	6.2	口縁～底部		瀬戸・美濃 大室3			
"	5	1号井戸	陶器	唐鉢 —	—	—	体部	鉄袖、被熱	瀬戸・美濃 16世紀			
"	6	1号井戸	陶器	唐鉢 —	—	—	体部	鉄袖	志戸呂			
"	7	1号井戸	木製品	円形容物 板板 16.1	—	厚さ 0.6	—	一部炭化				
"	8	1号井戸	木製品	円形容物 板板 長径 19.0	短径 18.4	厚さ 0.95	—	樹皮の繊維残存				
"	9	1号井戸	木製品	曲物 板板 長径 10.85	幅 2.25	厚さ 0.45	—	樹皮の繊維残存				
"	10	1号井戸	木製品	曲物 斜折板 長径 32.9	幅 10.2	厚さ 0.45	—	樹皮の繊維残存 木釘孔、刃物痕				
"	11	1号井戸	木製品	円形容物 板板 20.05	7.05	1.0	—					
"	12	1号井戸	石製品	五輪塔 空輪 7.7	底部 11.3	高さ 19.75	—	安山岩製				
"	13	1号井戸	石製品	五輪塔 空風輪 6.7	底部 11.7	高さ 20.05	—	安山岩製				
"	14	1号井戸	石製品	五輪塔 水輪 11.2	上部 8.85	高さ 11.75	—	安山岩製、体部ノミ痕				
53	15	3号溝	土器	かわらけ (10.0)	—	<2.6	口縁					
"	16	3号溝	土器	かわらけ —	(6.65)	<1.7	底部	内外面ロコナデ 底部回転系切				
"	17	1号土坑	土器	かわらけ 10.0	5.5	2.15	口縁～底部	内外面ロクロ成形				
"	18	1号土坑	陶器	縁丸皿 (9.8)	—	<2.4	口縁	内外面ロクロ成形、縁袖	瀬戸・美濃 大室2	妙上窯		
"	19	1号土坑	陶器	天目茶碗 —	—	<4.7	体部		瀬戸・美濃			
"	20	ピット74	土器	香炉形土器 8.4	6.7	3.7	完形	内外面ロクロ成形、底部回転系切り、三足貼付け				
"	21	D-20	土器	かわらけ (8.4)	(4.2)	2.65	口縁～底部	内外面ロクロ成形 底部回転系切				
"	22	8号溝	土器	かわらけ 8.5	5.6	2.1	口縁～底部	内外面ロクロ成形 底部回転系切				
"	23	8号溝 P-1	土器	かわらけ 7.5	4.9	2.05	完形	内外面ロクロ成形、底部回転系切り、内面縫合部付着				
"	24	8号溝 P-2	土器	かわらけ 8.4	4.5	2.1	完形	内外面ロクロ成形 内外面炭化物付着				
"	25	8号溝 P-3	土器	かわらけ 10.8	6.7	2.1	完形	内外面ロクロ成形、底部回転系切り、内面炭化物付着				
"	26	8号溝	陶器	壇反皿 —	5.8	<1.6	口縁～底部	見込み印花文	瀬戸・美濃 大室1			
"	27	8号溝	陶器	九皿 (9.5)	(5.8)	2.8	口縁～底部	被熱	瀬戸・美濃 大室3			
"	28	T-7	陶器	碗 —	5.1	<2.7	体部	ロクロ成形、底部周辺のみ無袖	瀬戸		尾呂窯	
"	29	T-7	土器	擂鉢 —	—	—	体部	擂臼9本单位				
"	30	2号井戸	木製品	不明 長さ 5.7	幅 2.8	厚さ 0.75	—					
"	31	8号溝 P-4	金属	不明 長さ 6.83	幅 1.71	厚さ 0.15	重量 9.64kg	表面亀裂付着				

図	番号	出土位置	銘種	材質	法 量(mm)			(g)	観察所見	時代	初跡
					外径	穿径	厚さ		特徴・造存状況		
53	32	3号溝	熙寧元宝	銅	24.7	7.6	1.8	2.1	真形	北宋	1087
53	33	C-21	皇宋通宝	銅	24.8	7.7	1.7	2.0	篆	篆形、底盤が著しい	南宋

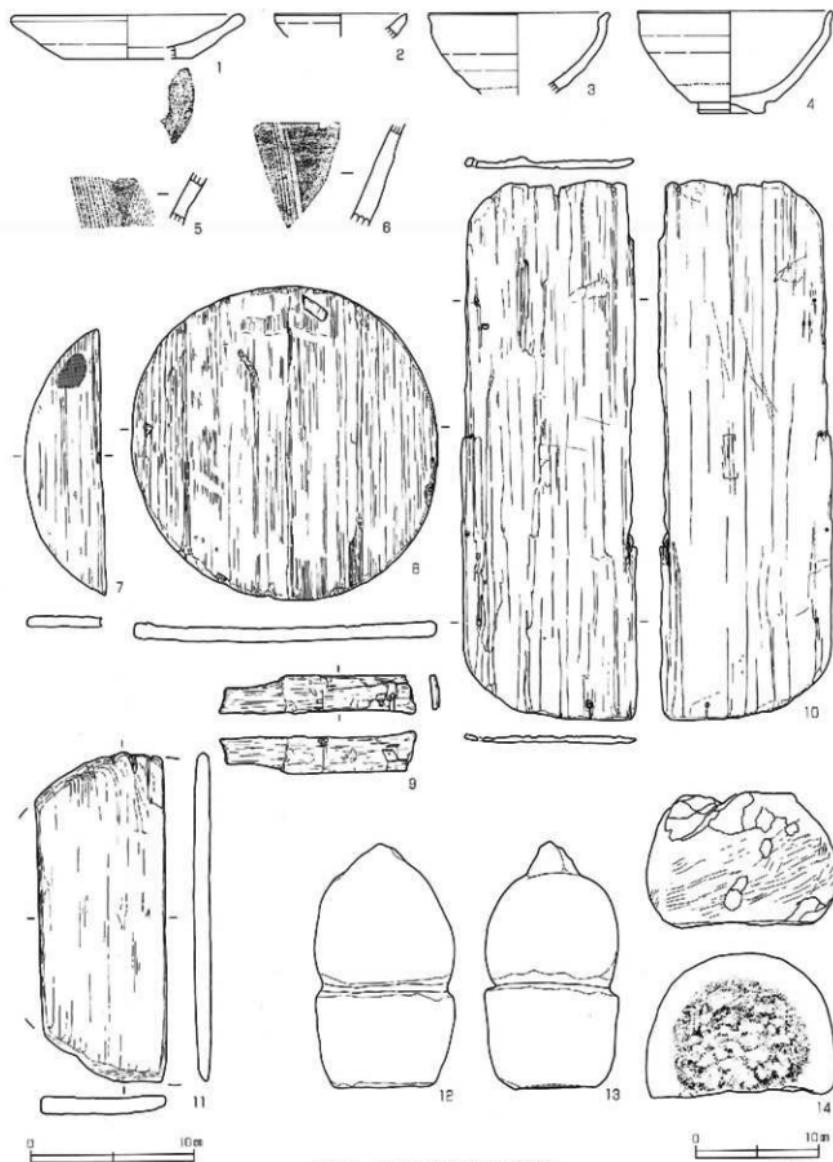
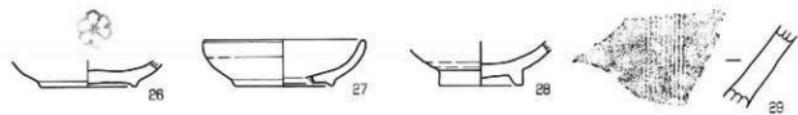
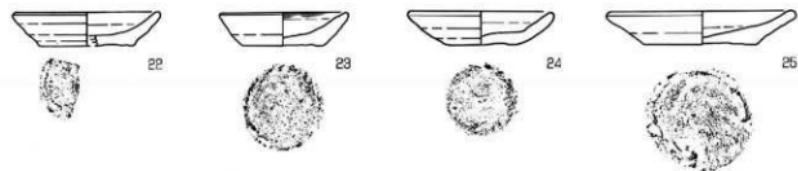
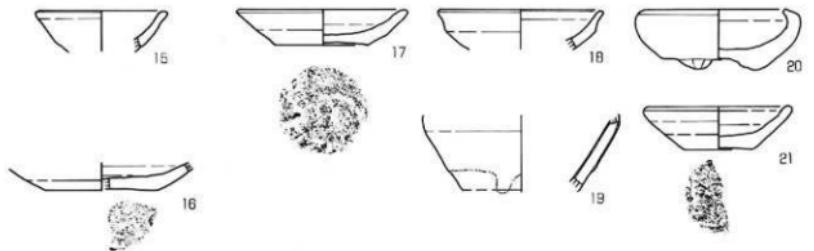
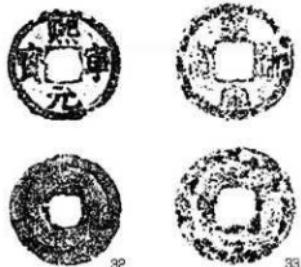
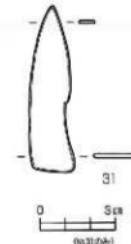
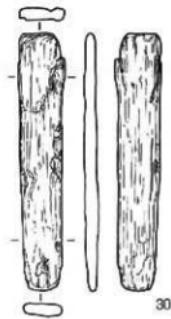


図52 B区1号井戸出土遺物



0 10 cm
0a15-33



0 5 cm
0a31(33)

0 3 cm
0a20-33

図53 B区3号溝、1号土坑、ピット74、8号溝、T-7、2号井戸出土遺物

第5章 まとめ

第1節 古代

東側に近接する日向町遺跡（図1-②）では古墳時代初頭の壺片が検出されているが、今回の調査地点からは古代の遺構は確認されなかった。しかし、14号溝から古墳時代の高環脚部1点が検出されており、遺跡周辺に古代の集落遺跡が存在していた可能性がある。

N-84°-Eに方位をとる16・21・23号溝などは遺物がなく時期を特定できないが、近世段階の町割と異なる軸線であり、今後の周辺調査により時期的解明が進められることを期待したい。

第2節 中世

A区で中世の遺構として捉えられるのは、1～5号井戸及び8号土坑である。B区では、土壘下層から検出された遺構が中世段階に位置づけられる。中世遺物は、16世紀前半の大窓第1段階から17世紀前後の志戸呂製品までが検出されている。出土地点は調査区全体に及び、永正16年（1519）の武田氏館跡造営以降、甲府城建設に伴う城下町の内整備に至るまで、この辺りが戦国期城下町の一角を占めていたことが明らかとなった。

16世紀代の溝は、20号溝など曲線を描いたものが多いが、B区土壘下部から検出された8号・9号溝はN-21°-Eの軸線をとり、近世甲府城下町の街路軸線とほぼ一致する。このことは、近世甲府城下町の街路や屋敷割りが、戦国期城下町の地割線を基本的に踏襲していることを示す。

8号土坑は中世墓である。図1に本遺跡周辺で実施された発掘調査を示したが、⑩・⑪地点でも中世の土壘墓が検出されており、また、B区1号井戸からは五輪塔部材など寺院や墓域の存在を示す遺物が検出された。「中斐国志」「一蓮寺」の項には、「寺領十七町七反屋敷二所アリ」「天文永禄ノ際ニ至リ福川ノ富占ニ超過シテ寺門ニ市ヲ為シ商光多ク集マル因テ一條町一蓮寺小路ノ名アリ」などの記述が見られる。さらに「光澤寺」の項に「文禄中因築城賜替地今ノ地ニ遷り古寺迹不分明今ノ郭内柳沢権太夫居地ノ邊ニ在リシトモ云」とあることから、甲府城の築城が開始される16世紀末までは、戦国期城下町の南端に位置するとともに、一蓮寺の門前町が広がっていたことも考えられる。

第3節 近世

今回の調査区は、江戸時代に甲府城「山手御門」北側に位置する内郭の武家屋敷地であった。調査区南側のA区は四十九番屋敷（絵図3）であり、北側B区は二の堀と土壘部分にあたる。土地利用の変遷は、17世紀代・18世紀前半（宝永元年～享保9年の柳沢氏領有期）、18世紀中葉から19世紀前半、さらに幕末までの甲府勤番支配の時代の4時期に大別される。

近世の遺構・遺物は最も多く、特に甲府勤番支配時代の18世紀後半から19世紀代が顕著であった。居住者については、17世紀代は資料が少なく不明であるが、18世紀初頭の柳沢氏による城下町再整備後に描かれた絵図に、飯塚の姓を確認できる。享保9年以降は甲府勤番上の山岡、19世紀代は長・永井・北条の姓が絵図等に記されている。

1. 江戸前期（17世紀）

16世紀末から17世紀初頭には甲府城の内城建設が進み、武家屋敷地を囲繞する二の堀の掘削も行わられたものと考えられる。この時期は資料が少なく判然としないが、柳沢氏入都前の甲府城下町を描いたと推定される「甲府城内草敷図」（柳沢文庫所蔵）には二の堀と土壘が描かれ、土壘と平行した東西の通りには、入母屋作り風の建物が並ぶ様子が描かれている。同絵図には元城屋町通りと連雀小路の中間に位置する南北の通りは描かれていない。この時期の明確な遺構は未検出であり、17世紀代の遺物

は検出量が少ないため、柳沢氏入部以前の調査区周辺が空閑地であった可能性も考えられる。

2. 江戸中期 [宝永元年（1704）～享保9年（1724）]

宝永二年（1704）、柳沢吉保が甲斐国領主となり、甲府城及び城下町の再整備が行われた。柳沢時代の絵図としては、柳沢文庫蔵「甲府御城下絵図」（絵図1）、山梨県立図書館蔵「甲府城郭内外屋敷図」が知られる。前者では、東西の森下小路がクランク状になり、その部分に南側から街路が突き当って丁字路となっている。北側の土壘沿いには南北の街路は見られない。しかし、後者では森下小路は一直線となり、土壘側まで南北の街路が通じ、二の堀側の土壘沿いに元城屋町見付から元連雀町見付に統く東西街路が描かれている。これは柳沢氏の城下町再整備による街路のつけ替えや新規整備によるものと考えられる。また、調査地点の屋敷面積は（絵図1）に「五百四坪」、隣接する西側の屋敷は「五百六十坪」と記載されるが、後者では調査地点が「六百二十」、西側隣接屋敷は「六百坪」と増加している。森下小路南側は、柳沢市正の屋敷が一区画と拡張された他は変化は見られないが、街路北側の元城屋町見付側に近い三軒の屋敷が南側へ拡張されている。これは森下小路を一直線に整備し直したためと考えられる。（絵図1）に描かれていない土壘沿いの街路は、絵図3～5にあることから、絵図の記載漏れ、あるいは城下町整備後の測量による面積の修正があったものと考えられる。

調査地点の居住者飯塚氏は、寄合衆・石高550石の飯塚彦右衛門である。東には寺社御用兼400石の柳沢内蔵助、同400石の永井彦太夫の名前が見られる。柳沢時代の遺物が少ないので、20年間という短い領有期間だったことや、火事や地震などに見舞われなかったことに起因するものであろう。

3. 18世紀代 [享保9年（1724）以降～]

柳沢氏が大和郡山へ転封となり、甲府勤番支配の時代になると、享保12年12月の裏先手小路大久保内蔵助室からの出火により勤番土屋敷64軒が焼失するが、森下小路は火災を免れている。坂田氏所蔵の元文三年（1738）絵図や絵図2では、街路設定の変化は確認できないが、居住者に山岡喜知五郎の氏名が見られる。山岡景典（喜知五郎）は、享保9年8月13日から元文5年7月まで勤番士を勤め、300俵取りである。2代前の景弘は甲府宰相綱重に使えていた。景典の後は、喜太郎景基（寛延2年7月29日～天明8年8月19日）一榮次郎景照（天明8年11月5日～寛政8年6月23日）一景輔（寛政8年9月3日～同年12月3日）一光太郎景廣（寛政9年2月15日～）と続く。天保9年の江戸城西の丸炎上の際に、山岡内蔵助が上納金四両分を納めた記録もある。また、慶応3年の「甲府勤番明細席順」には、山岡清三郎景佐（慶応2年正月23日～）の名前が見られる。以上、幕末期まで山岡氏7名の氏名を確認できるが、嘉永2年（1849）発行の「懐宝甲府絵図」（絵図4）に記載がなく、これ以前に屋敷替えが行われたものと推定される。

4. 19世紀中葉以降

弘化2年（1845）の絵図（絵図3）では、調査区から元城屋町見付の街路までが四十七番、四十八番、四十九番の3区画に区分されていた。しかし「懐宝甲府絵図」第1版（絵図4）では屋敷割りが4区画に変化し、森下小路は柳沢時代の絵図（絵図1）と同じく調査地点でクランク状に折れ曲がりを見せていている。このことは、A区1号溝の東側で石積みが検出されたものの、西側で石積が検出されず、溝の埋められた痕跡が確認されたことに関係する。また、A区1号溝に直交する2～4号溝と10号溝もこの時期の屋敷割りの変遷を示す遺構と考えられる。

「懐宝甲府絵図」は嘉永2年から明治4年までの3版の絵図が確認されている（絵図4・5）。調査区の居住者として第1版では長氏の名前が見られるが、2版以降は記載がない。他に、「永井」「北条」の姓を記した絵図があり、幕末期の甲府勤番士の異動が頻繁に行われたことが分かる。

長氏は、先祖が武藤と名乗り、初代義連は津輕信義に仕えていたが、後に甲府綱重に仕えている。天保4年（1833）に「追手頬 四百俵 小音請組浅野隼人支配 長熊之助」の着任を記録した資料があるが、慶応3年「甲府勤番明細席順」には見当らない。永井氏については、文政3年（1820）、300俵の永井左膳盛光が着任し、さらに安政3年7月3日から幕末まで永井牛五郎盛久が勤番士を勤めて

いた。北条氏は文久元年（1861）に甲府勤番に着任している。

（1）溝の検討

検出された近世の溝は、ほとんどがN-18°-EまたはN-69°-Eの軸線をとり、現在の街路と平行（直交）する。2号・12号・10号・4号溝は、武家屋敷を区画する境界の堀か溝跡と考えられる。2号溝は1号溝を切っていることから、幕末から近代に位置づけられる。10号溝は造物から19世紀代と判断できるが、他の2本は時期の特定ができない。しかし、絵図1～5を詳細に検討することにより、今後、使用時期を明らかにしていくことが可能と考えられる。

（2）8号井戸検出遺物

A区8号井戸からは、一括廃棄されたと考えられる大量の肥前系磁器・陶器・土製品と、土屋部材と推定される枘穴などを穿った柱材が多数検出された。肥前系磁器は18世紀後半から19世紀初頭に位置づけられるもので、窯址から大量の炭化物が検出されたことから、享和3年（1803）4月3日の大火によって廃絶された井戸の可能性が高い。

磁器には、肥前系の広東碗など18世紀後半から流行した器種が多い。幕末の廃絶と考えられる1号溝の出土遺物と比較してみても、瀬戸系の磁器製品の割合は極めて低い。このことは、19世紀初頭段階までに甲斐国内に流通した磁器は肥前系が主流であったことを示している。しかし、その後は、尾張藩が享和2年（1802）から行った陶磁器専門制度の影響により、甲斐国内への瀬戸系陶磁器の流入が加速されたものと考えられる。また、一括廃棄された遺物は、19世紀初頭に甲府城下町の中級武家屋敷で使われた食器の標準的な器種構成を示しているものと思われる。

（3）園池遺構

A区26号土坑は南側が搅乱を受け遺構の全容を確認することはできなかったが、北側から7号溝が接続し、粘土質土壤の堆積も多いことから、園池の遺構と考えられる。溝は暗渠であり、26号土坑とほぼ同時期の瓦が検出され、19世紀代に同時に存在していたものと推定される。また、池状遺構の覆土上面や西側の21号・22号土坑周辺から大量の棧瓦が検出されたことから、遺構西側に建物の存在がうかがわれる。22号土坑からは赤絵の碗や香合など嗜好品が検出されており、池に面して来客を迎える座敷などの空間が設けられていたことも考えられる。

（4）二の堀と土塁

二の堀と土塁部分は大正8年の製糸工場建設や堀埋戻しにより整地されていくが、（写真90）には大正時代の堀の痕跡が残っている。試掘調査ではT-1・4・5の3本のトレンチから幅12～13mの堀と、高さ0.5mの土塁基底部が検出された。調査から二の堀と土塁の全体像を把握することは困難であるが、柳沢文庫所蔵「樂只堂年録」付図（絵図1）の記載により、ある程度の復元が可能である。

同絵図にはB区付近に「元城屋町御見付よ元連雀町見付迄長百二十間半 土手高八尺鋪（敷）六間半 堀幅六間右間大木樺二十本小築」と記載され、二の堀は長さ約227m・幅約10.8m、土塁は基底部幅約11.7m・高さ約2.4mを測り、土塁には25本の大木樺が植えられていたことが分かる。土塁の長さから横は約9間隔で植えられていたものと推測される。土塁表面は小築が覆っていた。

絵図に記載された元城屋町見付から元連雀町見付（現在の武田通り）までの距離は現在の通りと一致し、江戸時代の街路を踏襲していることが確認された。発掘調査によって検出された堀の幅は約13mで、古絵図の記載と若干異なる。また、土塁は、塁上面から南側の近代の石積みまでの約12mの幅が、「土手高八尺 鋪（敷）六間半」と記載された数値とほぼ合致する。このことからも、近世の地割線が近代へと引き継がれていることを確認することができる。調査区東側の堀・土塁部分に關しても、現在の地籍図の区画線とほぼ一致することから、「樂只堂年録」付図が精緻な測量をもとに作成されたことが分かり、今後、城下町の復元を行っていく上で貴重な参考資料となる。

第4節 近代

明治30年筆写の図（絵図6）には、道幅と土地の寸法・所有者が記載され、堀は灰色で描かれている。道路は朱色で塗られ、江戸時代の森下小路部分に「日向町道巾四間」とある。土塁部分と平行して東西の通りがあり、その両通りをつなぐ南北通りも書き込まれている。調査区には「四番風間伊七」とあり南北36間1尺5寸×東西53間1尺5寸の敷地であったことがわかる。特に南北36間1尺5寸の寸法は武家屋敷の区画線の長さであったものと考えらえる。

大正8年、茅野市出身の丸茂文六により、敷地6,000坪に費用45万円をかけて製糸工場が建設され、翌9年2月から操業を開始した。当時県外資本としては最大規模であり、水道を引くことが許可されなかつたため2基の井戸を掘削したとのことである。その内の1基が今回確認された11号井戸であった。当時は敷地一杯に工場の施設が建ち並び（写真90）、北側に湿地状の二の堀跡が見える。この時代の構造として先述した11号井戸・石積造構・支柱状造構があり、絲糸鍋（図42—361）・集緒器（図43—366～367）など製糸工場関係の遺物が検出された。

【引用・参考文献】

- 1.『甲斐国志』（雄山閣大日本地誌大系本）
- 2.『甲府略志』甲府市役所 1918
- 3.『甲府市三十年史』甲府市役所 1918
- 4.『市制四十一年記念誌』甲府市役所 1928
- 5.『甲府市史 通史編第二卷 近世』甲府市市史編さん委員会 1992
- 6.『甲府市史 通史編第三卷 近代』甲府市市史編さん委員会 1990
- 7.『甲府市史 史料編第一巻 原始・古代・中世』甲府市市史編さん委員会 1989
- 8.『甲府市史 史料編第二巻 近世I』甲府市市史編さん委員会 1987
- 9.『甲府市史 史料編第三巻 近世II』甲府市市史編さん委員会 1987
- 10.『甲府市史 史料編第四巻 近世III』甲府市市史編さん委員会 1987
- 11.『甲府市史 史料編第五巻 近世IV』甲府市市史編さん委員会 1989
- 12.『山梨県史 資料編8 近世領主』山梨県 1998
- 13.『定本山梨県の城』郷土出版社 1991
- 14.『岡谷蚕糸博物館紀要』第2号 市立岡谷蚕糸博物館 1997
- 15.『日向町遺跡発掘調査報告書』山梨県教育委員会 1999
- 16.『巣鴨町III』豊島区教育委員会 1999
- 17.『北海道から沖縄まで国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館 1984
- 18.『瀬戸市史 陶磁史編四』瀬戸市史編纂委員会 1993
- 19.『瀬戸市史 陶磁史編六』瀬戸市史編纂委員会 1998
- 20.『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会 2000
- 21.『(新訂)寛政重修諸家系譜』(続群書類從完成会)



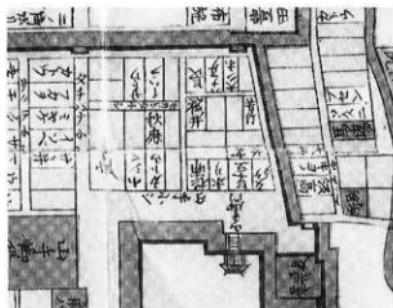
絵図1 甲府御城下絵図「柳沢文庫蔵」



絵図2 甲府城下絵図「柳沢文庫蔵」



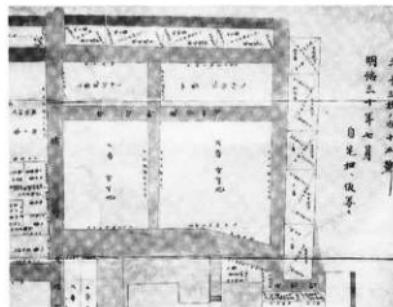
絵図3 甲府城下絵図「山梨県立図書館蔵」
(弘化2年)



絵図4 優宝甲府絵図1版「山梨県立図書館蔵」
(嘉永2年)



絵図5 優宝甲府絵図2版「山梨県立図書館蔵」
(嘉永2年以降)



絵図6 明治時代図面(明治30年)

甲府城下町絵図(部分)

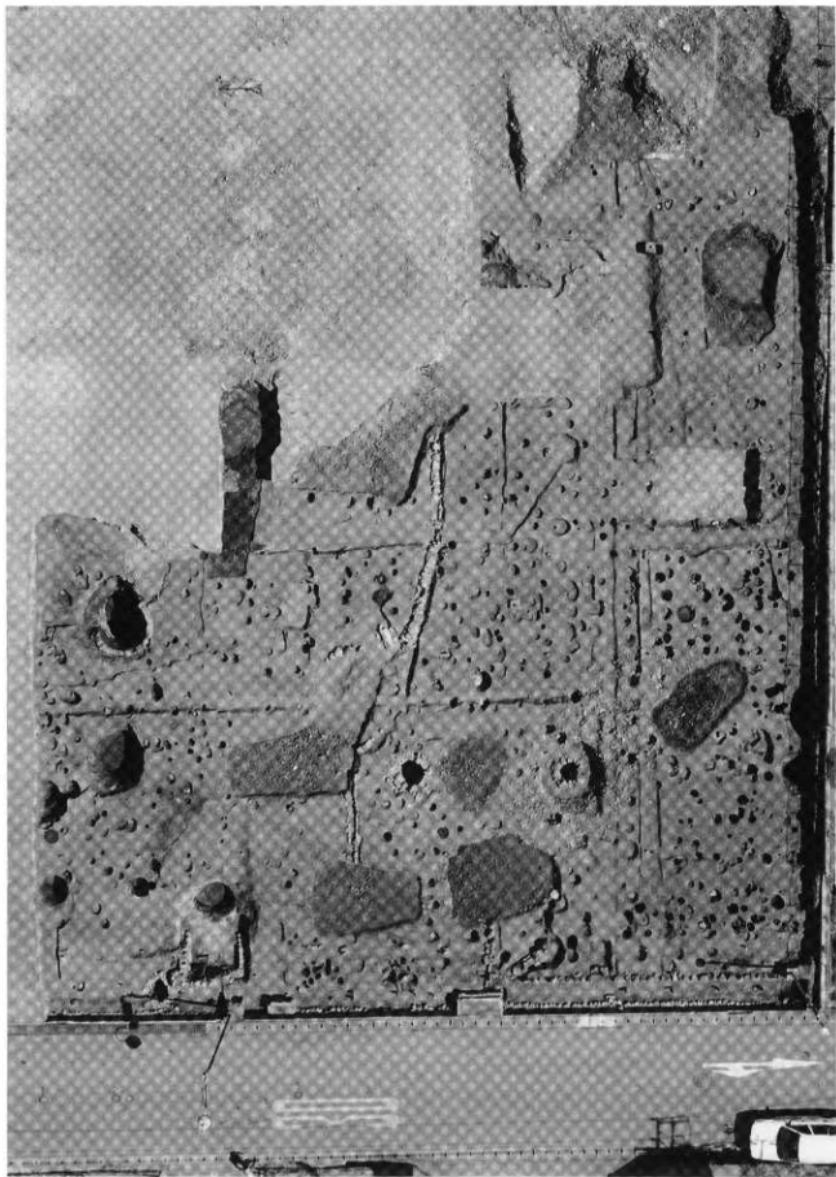


写真1 A区全景



写真2 調査区全景



写真3 A区全景



写真4 1号溝



写真5 2号溝



写真6 3号溝

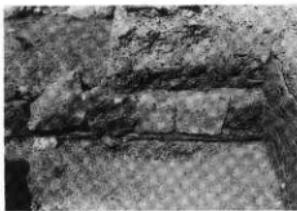


写真7 1号溝東側胴木

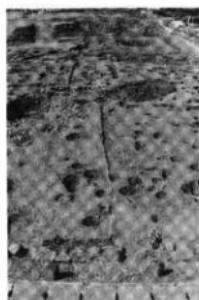


写真8 10号溝(右)・28号溝(左)

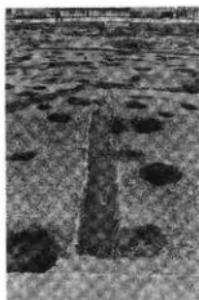


写真9 4号溝



写真10 7号溝

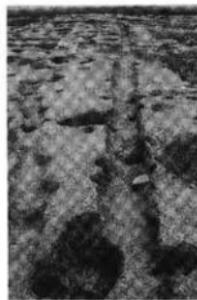


写真11 12号溝(右)・17号溝(左)



写真12 11号溝

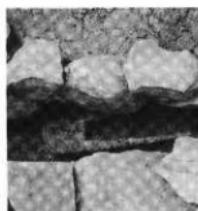


写真13 7号溝鋤出土状況



写真14 捩立柱建物跡

A 区



写真15 1号井戸



写真16 2号井戸

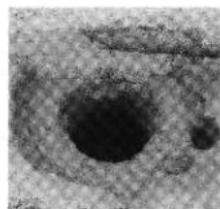


写真17 4号井戸

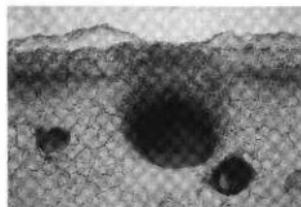


写真18 5号井戸



写真19 6号井戸



写真20 6号井戸半截状況



写真21 7号井戸



写真22 8号井戸半截状況

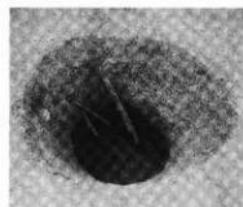


写真23 8号井戸木材検出状況



写真24 9号井戸半截状況



写真25 9号井戸



写真26 11号井戸

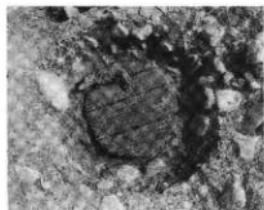


写真27 埋桶 1



写真28 埋桶 2

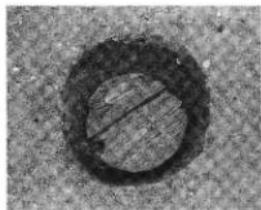


写真29 埋桶 3

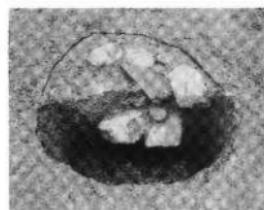


写真30 埋桶 4



写真31 埋桶 5

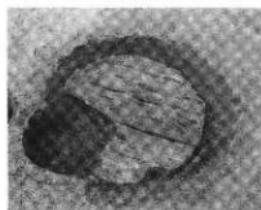


写真32 埋桶 6



写真33 埋桶 7

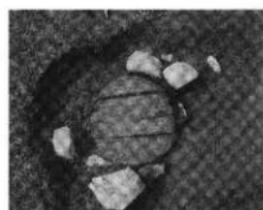


写真34 埋桶 8

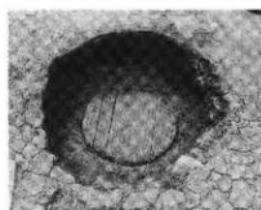


写真35 埋桶 9

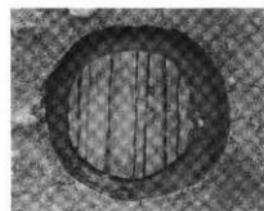


写真36 埋桶 10

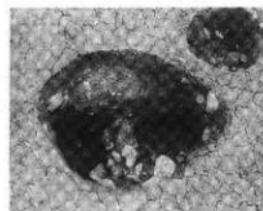


写真37 埋桶11



写真38 埋桶 5・8

A 区



写真39 1号土坑

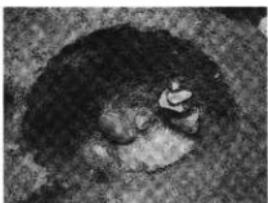


写真40 7号土坑

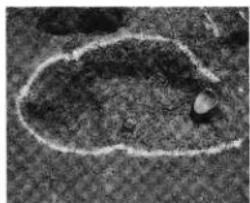


写真41 8号土坑

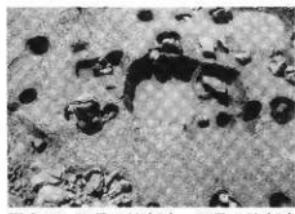


写真42 21号土坑(左)・22号土坑(右)



写真43号 24号土坑

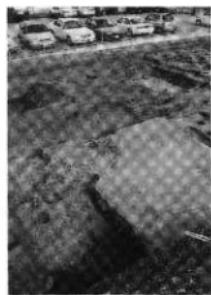


写真44 23号・24号・25号土坑



写真45 23号土坑



写真46 25号土坑



写真47 23号土坑上面集石



写真48 石積遺構



写真49 支柱状遺構部材



写真50 支柱状遺構

A 区

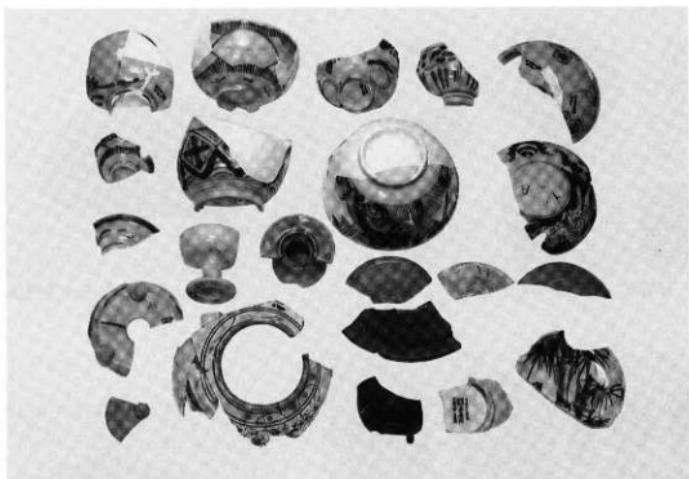


写真51 1号溝出土遺物

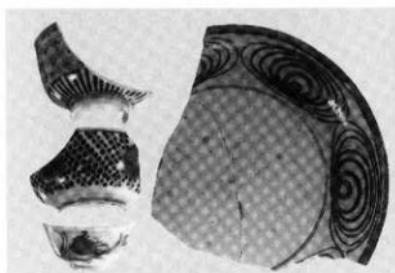


写真52 2号溝出土遺物



写真53 10号溝出土遺物

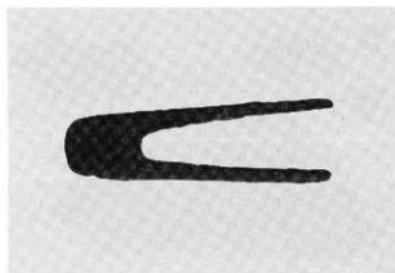


写真54 7号溝出土鍔



写真55 8号溝出土土製品

A 区

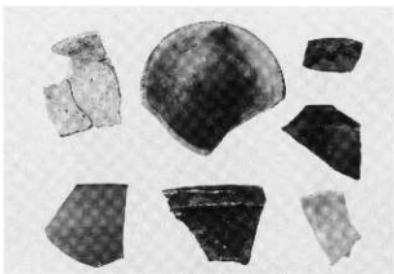


写真56 5号井戸出土遺物



写真57 5号井戸出土漆器椀



写真58 5号井戸出土木製品

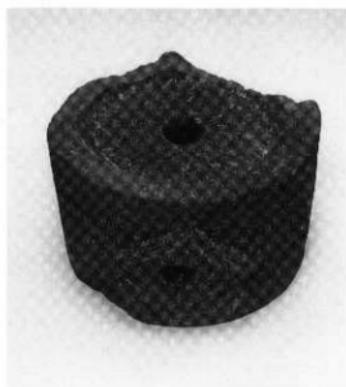


写真59 6号井戸出土茶臼(上臼)

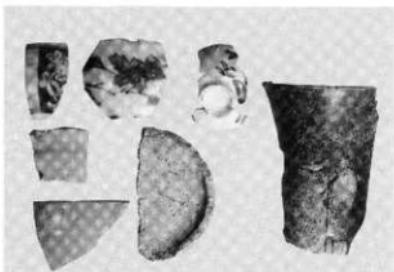


写真60 7号井戸出土遺物

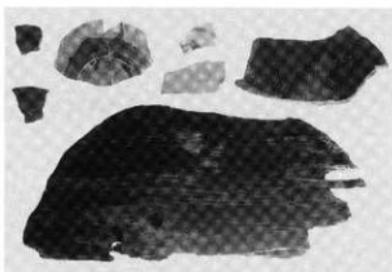


写真61 9号井戸出土遺物



写真62 8号井戸出土陶器



写真63 8号井戸出土陶器



写真64 8号井戸出土陶器



写真65 8号井戸出土土製品



写真66 8号井戸出土瓦・木製品

A 区



写真67 1号土坑出土遺物

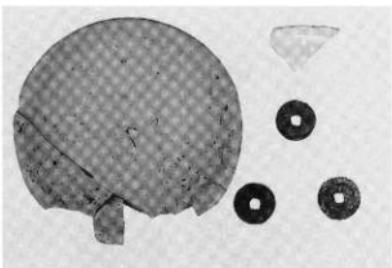


写真68 8号土坑出土遺物

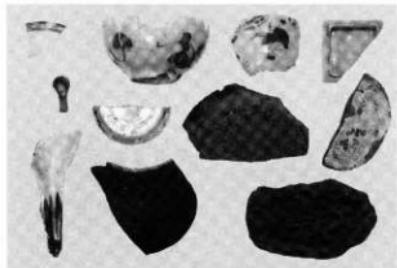


写真69 22号土坑出土遺物



写真70 23号土坑出土遺物

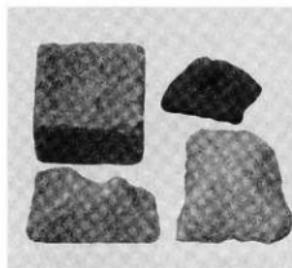


写真71 出土石製品



写真72
ピット533出土角柱

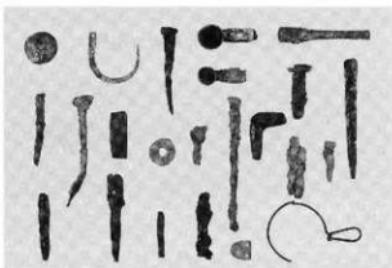


写真73 出土金属製品

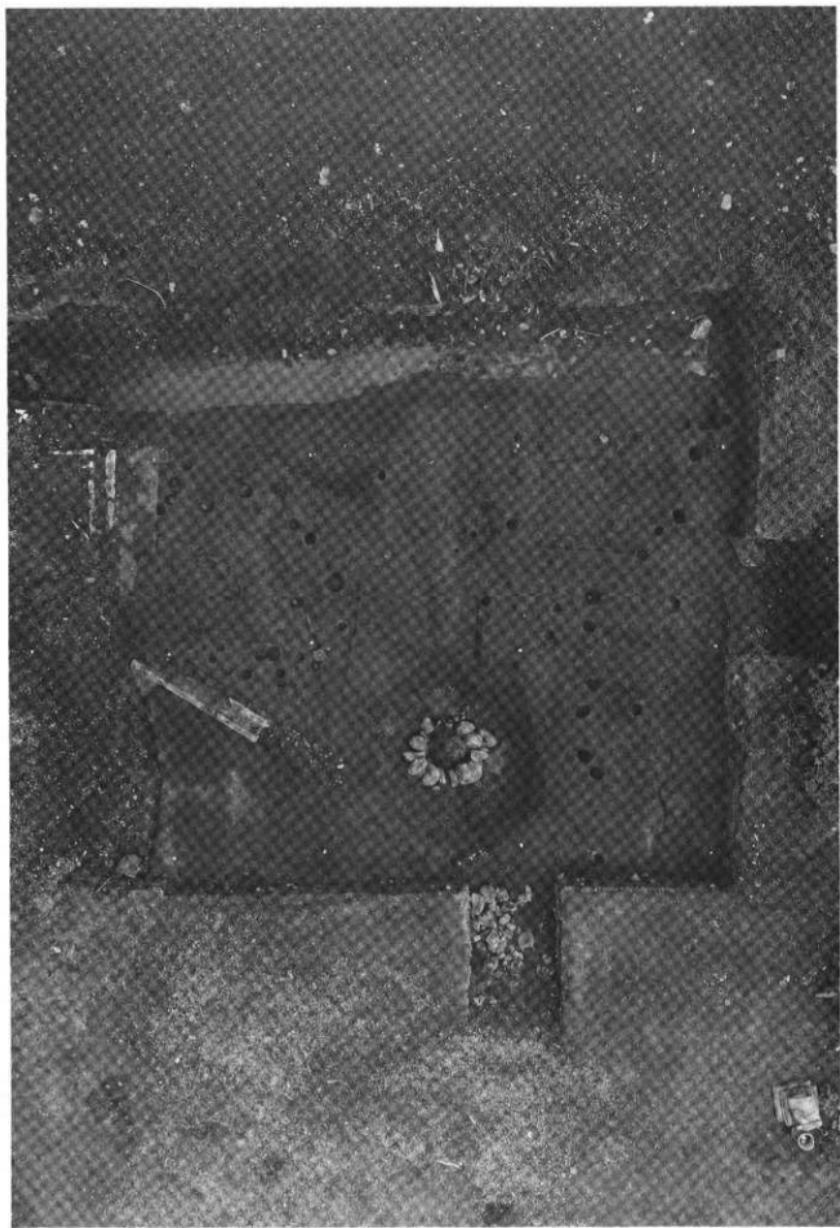


写真74 B区全景



写真75 土壘検出状況



写真76 1号井戸

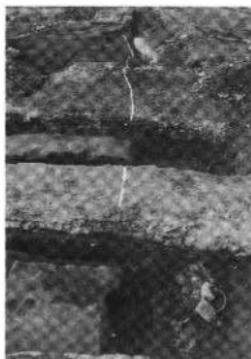


写真77 二の堀・土壘ライン



写真78 T-6 トレンチ

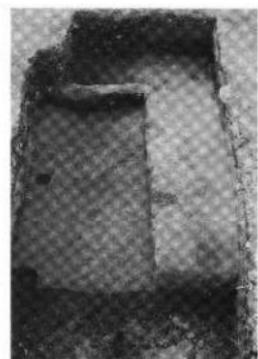


写真79 T-7 トレンチ



写真80 2号井戸



写真81 8号溝出土金属製品



写真82 試掘調査 T-1 トレンチ

B 区

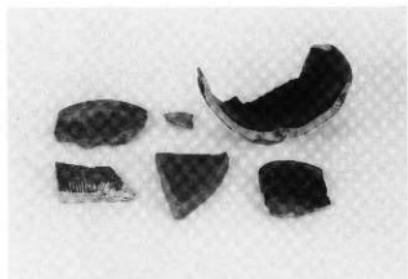


写真83 1号井戸出土遺物

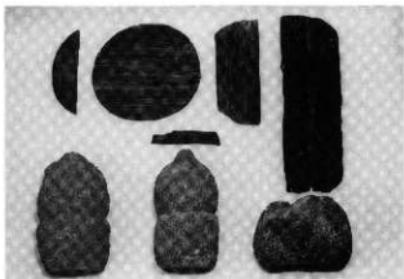


写真84 1号井戸出土遺物

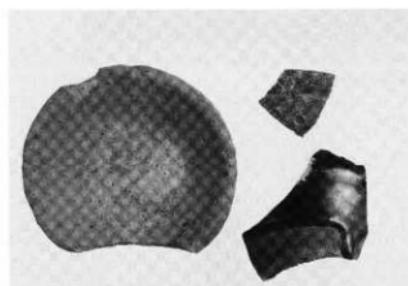


写真85 1号土坑出土遺物



写真86 ピット74出土遺物



写真87
2号井戸出土木製品

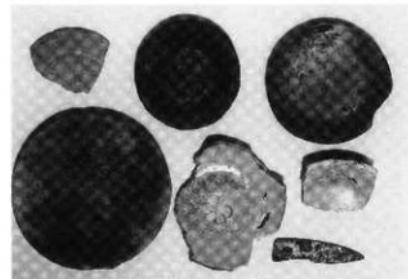


写真88 T-6トレンチ8号溝出土遺物

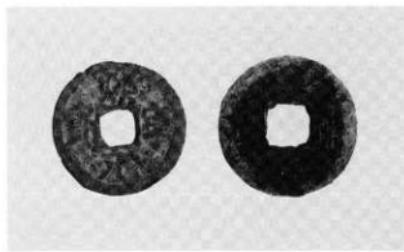


写真89 出土錢貨



一 萩 景 金 塔 銅 鋼 茂 丸 甲

写真90 甲府丸茂製糸場全景

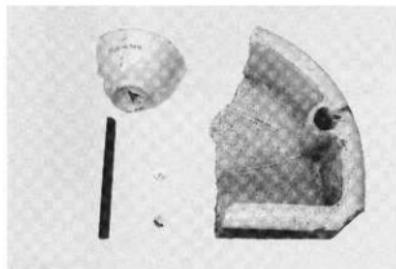


写真91 製糸工場関連遺物



写真93 製糸工場煙突

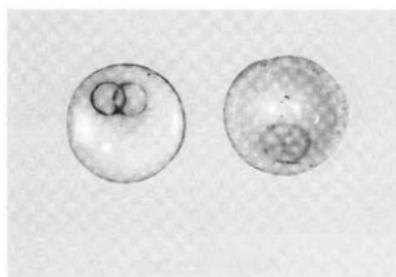


写真92 集 緒 器



写真94 発掘調査参加者

甲府城下町閑邊略年表

報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき						
書名	甲府城下町遺跡						
副書名	北口二丁目(桜シルク路)発掘調査報告書						
卷次	I						
シリーズ名	甲府市文化財調査報告						
シリーズ番号	15						
編集機関	甲府市教育委員会						
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話 055(223)7324						
発行年月日	平成13年3月30日						
所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯 度	東経 度	調査期間	調査原因 調査面積
		市町村	遺跡番号				
こうふじょうかまち 甲府城下町 遺跡	やまなしけんこうふし 山梨県甲府市 北口二丁目	19201		35° 40'	138° 34' 23"	19990512 19991006	店舗・駐車 施設の建設 約1000m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
甲府城下町 遺跡	城下町	中 近 世 代	溝・暗渠・土坑 墓・井戸・土坑 柱穴・石列・二 の堀跡・土塁	かわらけ・瀬戸・美濃系 陶器、白磁、染付、肥前 系磁器、石臼、硯、五輪 塔、錢貨、漆製品		武家屋敷で 使用された 大量の陶磁 器を検出	

甲府市文化財調査報告15

甲府城下町遺跡 I

— 北口二丁目(桜シルク路)発掘調査報告書 —

平成13年3月30日

発行 甲府市教育委員会

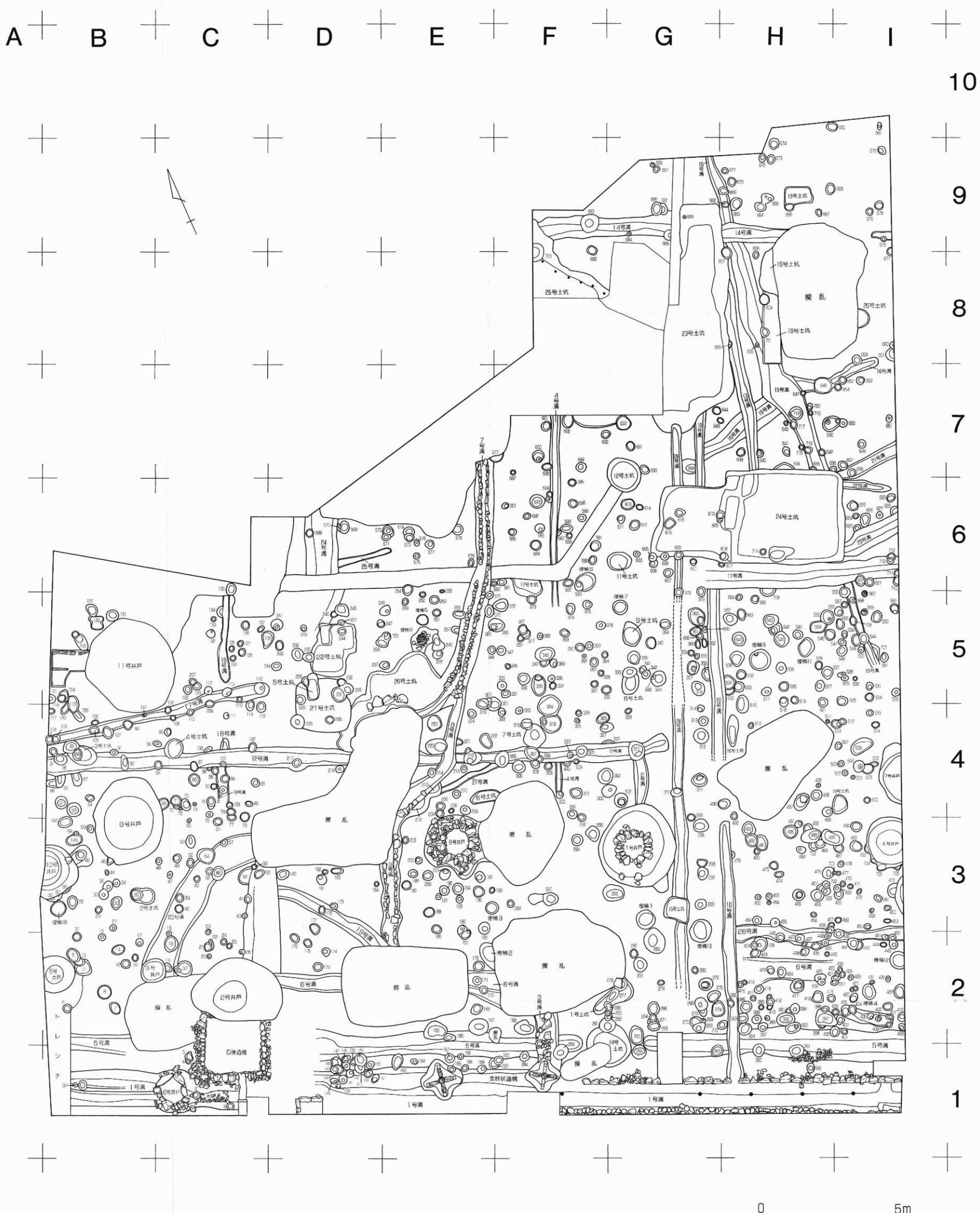
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号

TEL 055(223)7324

FAX 055(226)4889

印刷 梶内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18



甲府城下町遺跡A区(桜シルク跡)全体図

